

平成29年度

文部科学省委託「幼児期の教育内容等深化・充実調査研究」

新幼稚園教育要領の趣旨を踏まえた幼稚園教育と
小学校教育の円滑な接続の在り方について

～「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を取り
入れた接続期のカリキュラムの作成～



平成30年3月

山口県教育庁義務教育課

本報告書は、文部科学省の「幼児期の教育内容等深化・充実調査研究」の委託費による委託業務として、山口県が実施した平成29年度幼児期の教育内容等深化・充実調査研究の成果を取りまとめたものです。

したがって、本報告書の複製、転載、引用等には文部科学省の承認手続きが必要です。

～目 次～

はじめに	2
I 研究の目的・方法	5
II 研究の内容	
1 研究協力園及び研究協力校における調査研究 ～地域の特色を踏まえて～	13
(1) 光市立やよい幼稚園及び光市立三井小学校による実践	
(2) 旭幼稚園及び山口市立平川小学校による実践	
(3) 下関市立生野幼稚園及び下関市立生野小学校による実践	
(4) 3地域の実践についての考察	
2 その他の地域における調査研究 ～岩国市玖珂地域による実践等～	37
3 先進園及び先進校視察による調査研究	46
III 研究の成果と課題	51
1 成果	
2 課題と展望	
おわりに	53
◆ 幼保・小連携のための参考資料	57
○ 幼児教育長期研修派遣教員によるスタートカリキュラムの実践	

はじめに

平成29年に新しい幼稚園教育要領、小学校学習指導要領、中学校学習指導要領等（以下、幼稚園教育要領等）が告示され、幼稚園教育要領については、平成30年度から全面実施となる。

今回の幼稚園教育要領等の改訂の基本的な視点は、子供たちがこれからの時代を生き抜き、未来の創り手となるために必要な資質・能力を、学校と社会が共有し、ともに育んでいくことである。そのために、幼稚園から高等学校までを通じて育成すべき資質・能力の三つの柱「生きて働く『知識・技能』の習得」「未知の状況にも対応できる『思考力・判断力・表現力等』の育成」「学びを人生や社会に生かそうとする『学びに向かう力・人間性等』の^{かん}涵養」を明確にしている。その中で、幼稚園教育要領の改訂の大きな特徴の一つは、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が示されたことである。これらは、幼稚園教育要領の第2章のねらい及び内容に基づく活動全体を通して育まれている幼児の具体的な姿であり、この姿を幼稚園と小学校のそれぞれの教員が共有することで、幼児期の教育と小学校教育との接続の一層の強化が図られることが期待できる。

このような中、山口県においては、「未来を拓く たくましい『やまぐちっ子』の育成」に向け、学びの連続性を踏まえた指導の充実を図り、きめ細やかな指導体制を構築するために、各学校段階間の連携をこれまで推進してきた。

しかしながら、山口県では、接続を見通した教育課程の編成・実施が行われているのは約3割にとどまっており、全国的にも接続に向けて地域の特色を踏まえた具体的な実践の在り方が示されているとは言い難い。

そこで、山口県では、新幼稚園教育要領に示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた、接続に向けた幼稚園・小学校の各教育課程に対する理解の共有化やカリキュラム作成の効果的な在り方について調査研究を行った。

本調査研究の成果を踏まえ、幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続の一助とし、山口県の教育目標である「未来を拓く たくましい『やまぐちっ子』の育成」につなげるとともに、全国の各地域においても新幼稚園教育要領の趣旨を踏まえた幼稚園と小学校の接続が図られ、幼児期の教育の深化・充実を図る一助としていただきたい。

I 研究の目的・方法

< 研究テーマ >

新幼稚園教育要領の趣旨を踏まえた幼稚園教育と小学校教育の円滑な
接続の在り方について
～「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を取り入れた接続期の
カリキュラムの作成～

(1) 研究の目的

平成28年12月に中央教育審議会において「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」が示され、これを踏まえて平成29年3月に新しい幼稚園教育要領等が告示された。新しい幼稚園教育要領の大きな特徴の一つは、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が示されたことである。これらは、幼稚園教育要領の第2章のねらい及び内容に基づく活動全体を通して育まれている幼児の具体的な姿であり、この姿を幼稚園と小学校の教員が共有することで、幼児期の教育と小学校教育との接続（以下、幼稚園と小学校をまとめるときには「幼小」、幼児期の教育と小学校教育との接続を示すときには「幼小接続」とする。）の一層の強化が図られることとされている。

山口県においては、「未来を拓く たくましい『やまぐちっ子』の育成」に向け、学びの連続性を踏まえた指導の充実を図り、きめ細かな指導体制を構築するために、幼稚園、保育所、小学校、中学校、高等学校の連携を推進してきた。

具体的には、平成16年度から実施している「幼児教育長期研修派遣教員」（小学校教員を1年間幼稚園に派遣）を活用し、「接続期のカリキュラム実践事例集」や「就学前の保護者向けリーフレット」の作成、地域と連携した幼児教育の在り方に関する研究等を行い、幼児教育の充実とともに、幼保・小連携（以下、幼稚園、保育所と小学校をまとめるときには「幼保・小」、幼稚園、保育所、小学校における連携を示すときには「幼保・小連携」とする。）の推進を図っている。併せて、平成25年度からは、県及び担当市町教育委員会主催の合同研修大会「つながる子どもの育ち大会」を開催しており、昨年度は、山口県内の幼稚園、保育所、認定こども園及び小学校の教員、保育士234名が参加し、様々な立場から幼保・小連携の充実に向けた協議を行い、理解を深めた。

さらに、小学校から校区内にある幼児教育施設に働きかけ、管理職を中心とする協議会を設置し、組織的、計画的な幼児期の教育と小学校教育の連携（以下、「幼小連携」とする。）を推進するよう、市町教育委員会を通して各学校に依頼し、体制整備を進めてきた。

こうした取組の継続により、幼児と児童や教職員同士の交流等が県内各地で行われ、幼保・小連携の機運が醸成されている。

【小学校区内幼保・小連携協議会】



しかしながら、昨年度実施した「幼児教育に係る実態調査」によると、接続を見通した教育課程の編成・実施が行われている市町は山口県内で約3割であり、山口県の次なる課題といえる。まさに、新幼稚園教育要領に示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を幼稚園等と小学校の教員等が共有し、幼児期に生まれた資質・能力が小学校教育の展開に活かされるよう、接続カリキュラムを作成し、実践していくことが求められるが、それに向けた地域の特色を踏まえた具体的な実践の在り方が示されていない。

そこで、新幼稚園教育要領の趣旨を踏まえた「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を基にした幼稚園・小学校の各教育課程に対する理解の共有化の効果的な在り方や、カリキュラムの作成の効果的な在り方について調査研究を行い、地域の特色を踏まえた具体的な実践の在り方を明らかにし、全国の各地域においても新幼稚園教育要領の趣旨を踏まえた幼稚園教育と小学校教育の接続が図られることを目指していく。

(2) 研究の方法

研究にあたっては、山口県内三つの幼稚園を研究協力園に指定して、園児の多くが進学する小学校と「接続のカリキュラム」をテーマとした合同研修会や意見交換、授業・保育参観等の機会を設け、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を基に幼稚園の教育課程と小学校の教育課程に関する理解を深め、接続カリキュラムの作成を行い、その過程について調査・分析する。特に、カリキュラムの作成までの過程について各モデル地域の特色を踏まえ整理を行う。また、モデル地域における調査研究のみならず、以前より行っていた幼小接続に関する全県的な研修会において、幼児期の教育と小学校教育の接続についての取組の発表等の分析や、幼小接続に関する先進園等を視察しその内容を分析することで、より広い観点から幼小接続や接続カリキュラムの効果的な在り方について検証する。

① 調査研究実行委員会の設置と運営

本委託研究を進めていくに当たり、幼稚園長、保育所施設長、小学校長、幼稚園教諭、小学校教諭、行政関係者等で構成する委員会を設置し、調査研究の方向性について協議・検討しながら行っていく。なお知見を深めるため、大学教員による専門的な講義を設ける。

② モデル地域（研究協力園及び研究協力校）における調査研究の実施と検証

本研究のモデル地域として、平成29年度幼児教育長期研修派遣教員の派遣園である県内3園を研究協力園、当該研究協力園の園児の多くが進学する小学校（平成29年度幼児教育長期研修派遣教員在籍校）を協力校として指定する。「幼児教育長期研修派遣教員」とは、幼児期の教育と小学校教育の

連携に資する人材を育成する目的で、1年間幼稚園に派遣された小学校教員であり、本研究において中心的な役割を果たすことが期待できる。また各地域の園児数等などの地域差を考慮しつつ、本派遣教員がいる3園をモデル地域として選出した。具体的には以下の3地域である。

○光市立やよい幼稚園及び光市立三井小学校

○学校法人藤村学園旭幼稚園（以下、「旭幼稚園」とする。）及び山口市立平川小学校

○下関市立生野幼稚園及び下関市立生野小学校

なお調査研究に当たっては、各園に調査研究ワーキング委員会を設置する。幼稚園、保育所及び小学校の連携担当教員を中心に、卒園児の多くが入学する小学校と合同研修会や意見交換、授業・保育参観等を通じて「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の共有を踏まえた接続カリキュラムの作成を行い、㉗「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共通の視点として子供の姿をとらえることで、どのように幼稚園と小学校のそれぞれの教育課程等に対する理解が進んだか、㉘幼稚園教育と小学校教育を円滑につなぐための接続カリキュラムにどのような改善が図られたか、その改善等が図られたのはなぜか、について各モデル地域の特色を踏まえ検証する。

③ その他の地域における調査研究等

山口県では、従前より「つながる子どもの育ち大会」を開催し、幼稚園、保育所、認定こども園及び小学校の教員や保育士が一堂に会し、連携の在り方や教育内容、指導方法、カリキュラム等の実践的な研究を行ってきた。

大会の開催に当たって発表園・発表校を指定し協議を行うことで、モデル地域以外での取組も含めて分析するとともに、改めてこのような大会が幼小接続に当たってどのように効果的であるのかも含めて検証を行う。

大会の概要等については以下のとおりである。

・大会名：平成29年度つながる子どもの育ち大会

・日時：平成30年1月26日（金）

・内容：公開保育・授業及び研究協議

第1分科会：幼児の交流活動

第2分科会：幼児と児童の交流活動

事例発表（和木町立和木幼稚園、周南市立戸田小学校）

講演会：「幼児期の育ちが小学校以上の学びを支える～今回の学習指導要領改訂、その原点は幼児教育にある～」

（講師：認定こども園ゆうゆうのもり幼保園 園長 渡邊英則氏）

④ 先進園及び先進地視察による調査研究

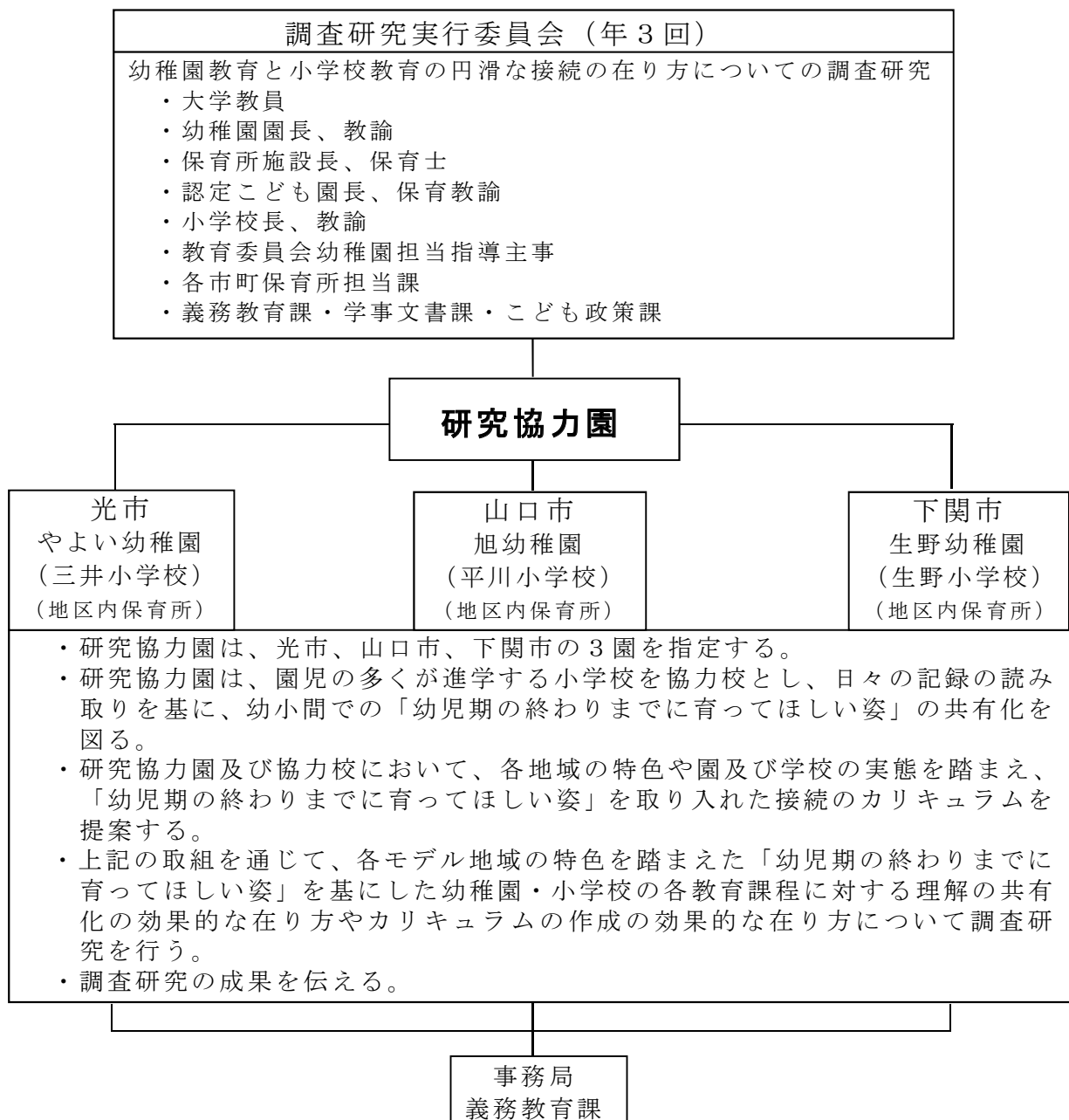
視察先については、幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方及び接続カリキュラムの作成について、山口県内だけではなく幅広い地域で

の取組を分析することで調査研究を深める観点から、先進的な取組を行っている市や幼稚園、小学校等を以下のとおり選出した。

- ・ 広島大学附属三原幼稚園・小学校・中学校
「第20回幼小中一貫教育研究会」
- ・ 京都市立伏見住吉幼稚園
「平成29年度京都市教育委員会『『豊かな学びリーディングスクール』推進事業」研究報告会
- ・ 横浜市立平沼小学校及び学校法人石川学園杉之子幼稚園
- ・ 横浜市「平成29年度幼保小連携フォーラム」
- ・ 福井県「学びをつなぐ 希望のバトン フォーラム2017」

(3) 実施体制及び研究計画

実施体制及び研究計画についてはそれぞれ次のとおりである。



時 期	内 容
契約締結後	調査研究実行委員会 ① <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究推進体制・計画について、協議・検討 ・ 幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続に関する調査研究
契約締結後 ～ 9 月	先進園視察による調査・研究 研究協力園と接続する小学校による合同研修会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の共有化について ・ 新幼稚園教育要領の趣旨を踏まえた接続期のカリキュラムの作成について
1 0 月	調査研究実行委員会 ② <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について ・ 先進園の取組について報告 ・ 実践事例に基づいた協議
1 1 月～ 1 月	調査研究実行委員による円滑な接続の在り方の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究協力園及び接続する小学校において、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の共有化と接続期のカリキュラムについての検証改善
1 月	「つながる子どもの育ち大会」（1月26日） <ul style="list-style-type: none"> ・ 岩国地域にて、県教委、県主催の全県の幼保・小教職員を対象とした研究大会を開催し、調査研究事項の発表
2 月	調査研究実行委員会 ③ <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究成果のまとめ ・ Web ページ掲載による情報提供

Ⅱ 研究の内容

- 1 研究協力園及び研究協力校における調査研究
～地域の特色を踏まえて～
 - (1) 光市立やよい幼稚園及び光市立三井小学校
による実践
 - (2) 旭幼稚園及び山口市立平川小学校
による実践
 - (3) 下関市立生野幼稚園及び下関市立生野小学校
による実践
 - (4) 3地域の実践についての考察
- 2 その他の地域における調査研究
～岩国市玖珂地域による実践等～
- 3 先進園及び先進校視察による調査研究

1 研究協力園及び研究協力校における調査研究 ～地域の特色を踏まえて～

平成29年度幼児教育長期派遣教員の派遣園であり、それぞれ特色のある山口県内3園を研究協力園とし、当該園児の多くが進学する小学校を協力校として指定した。

指定したモデル地域については以下の3地域で、それぞれ以下の幼稚園・小学校である。

①光市立やよい幼稚園及び光市立三井小学校

- ・光市立やよい幼稚園

学級数：3学級（3歳児1学級、4歳児1学級、5歳児1学級）

園児数：17名

- ・光市立三井小学校

学級数：14学級

児童数：250名

②旭幼稚園及び山口市立平川小学校

- ・旭幼稚園

学級数：12学級（3歳児4学級、4歳児4学級、5歳児4学級）

園児数：365名

- ・山口市立平川小学校

学級数：32学級

児童数：859名

③下関市立生野幼稚園及び下関市立生野小学校

- ・下関市立生野幼稚園

学級数：1学級（4歳児及び5歳児1学級）

園児数：15名

- ・下関市立生野小学校

学級数：16学級

児童数：359名

具体的な実践を行うに当たっては各園に調査研究ワーキング委員会を設置した。幼保・小連携を担当する教員を中心に、園児の多くが進学する小学校と合同研修会や意見交換、授業・保育参観等を通じて「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の共有を踏まえた接続期のカリキュラムの作成を行うことで、以下の二つの視点について各モデル地域の特色を踏まえて検証し、明らかにする。

①「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共通の視点として子供の姿をとらえることで、どのように幼稚園と小学校のそれぞれの教育課程等に対する理解が進んだか。

②幼稚園教育と小学校教育を円滑につなぐための接続カリキュラムにどのような改善が図られたか、その改善等が図られたのはなぜか。

次頁から各地域ごとの取組等を踏まえて検証を行う。

(1) 光市立やよい幼稚園及び光市立三井小学校

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりにした幼稚園と小学校の連携の在り方

○地域の特色

光市は公立幼稚園を2園有しているが、今年度末に他の1園（つるみ幼稚園）が閉園するため、やよい幼稚園は、光市唯一の公立幼稚園となる。園児が進学する小学校は、現在は3校、来年度からは4校となる。4校とも中学校区は同じである。三井小学校には、幼児教育長期研修経験者が赴任しており、これまでも幼稚園と小学校の交流が計画的に行われ、深化してきた。来年度から、園児数も増えるため、毎年行ってきた幼小交流会が発展的に行われることが期待されている。

やよい幼稚園と三井小学校は、隣接しており、これまでも毎月1回幼小合同協議会を設けていた。本年度は幼小合同協議会の際に、接続のカリキュラムについても協議し、各園・校の実態に合わせたカリキュラムの作成に取り組む。また、当該地区は、コミュニティ・スクールを活用した取組も盛んであるため、地域の方を交えた活動が可能となる。このため接続カリキュラムにも、コミュニティ・スクールに関連した内容を取り入れたものを作成する。

○実践の内容

①交流活動の工夫

上述のとおり、毎月1回の協議会を設け教職員の交流活動を行った。協議会では、年間行事と照らし合わせながら、これまでの交流活動の成果と課題を整理して、より効果的な交流活動の在り方について検討したり、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について、具体的な実践事例を紹介しながら協議を重ねたりした。

特に、子供同士の交流活動については以下のような工夫を行い改善を図った。

交流活動その1 園庭開放による交流活動の充実

4月下旬にやよい幼稚園の園庭で第1回幼小交流会を実施した。例年、この第1回の交流活動の際に、小学校1年生の児童に園庭での遊び方について幼稚園の教員が説明した後、園児と児童と一緒に遊んでおり、それ以降、幼稚園に青い旗が立っている日は、昼休みに児童も園庭で遊べることとなっており、従前より交流活動が盛んであった。この園庭開放の取組について、改めてその意義を検討すると以下の成果があることが分かった。

㊦園児と児童の日常的な交流が深まる

園庭開放により園児と児童が日常的に交流し合うことで、年に数回関わる存在からより身近な存在となる。

㊧児童が園庭で遊ぶことにより安心感を得る

児童にとって小学校では不安なことも多いが、以前通っていた（もしくは通っていた幼稚園や保育所に類似する）園庭で遊ぶことにより安心感を得ることができ、小学校での活動も安定感をもって取り組むようになる。

㊨小学校の教員が園児と関わることで、幼児期の育ちを学べる

小学校の教員が休み時間に児童と遊ぶことにより、自然と園児にも関わり合うこととなった。改まった場ではなく、遊びを通して自然な姿の園児に触れ合うことで幼児期の育ちについて理解が深まる。

㊦幼稚園の教員が小学校における育ちを学べる

㊦と同様に幼稚園の教員もまた卒園後の児童の育ちについて理解が深まる。

㊧幼児・児童が多様な大人と関わることができる

㊦、㊧のとおり、小学校の教員と幼稚園の教員がそれぞれの幼児・児童に関わることにより、幼児・児童にとっては多様な大人と関わることができる。これにより、それぞれの教員が、幼児・児童に対してより広い視点で見取ることができ、幼児・児童への理解が深まる。

㊨幼小の教員同士の人間関係が深まる

園庭開放により、教員同士もより互いが身近な存在になり、それぞれの児童・幼児の姿についてより積極的に話合いが行われるようになる。

このように、恵まれた立地条件での取組における効果ではあるが、交流活動の実践を行うことの意義を改めて実感することができた。園庭が毎日の交流の場としてあることは、子供にとっても、教員にとっても、有意義なことであった。情報交換や子供への関わり方など、この時間が連携の大きな役割を果たしている。

このことを象徴する出来事として、11月下旬に行われた持久走大会の事例が挙げられる。大会に向けて、毎年、児童が校庭で練習を行うのは恒例のことであったが、今年度の幼小合同協議会において、より効果的な交流活動について検討した結果、今年度は、この練習に園児も参加することになった。隣接しているという立地条件を、さらに生かしたいということからの試みであった。園児たちは、普段滅多に小学校の校庭へ行くことはなかったが、すでに顔見知りになっていた「お兄さんやお姉さん、先生」がいる小学校は安心して足を踏み入れられる場所であり、練習にも気軽に参加することができた。持久走大会当日には、園児は、幼稚園の駐車場から児童を応援した。



持久走大会当日

園児たちは「お兄ちゃん、まだかなあ。」と、一緒に遊ぶ児童が走ってくるのを待ったり、「ぼくも走りたくなった。」と、走る真似をしたりする園児もいた。園児たちは、顔見知りの「お兄さん、お姉さん」を応援する中で、その「お兄さん、お姉さん」が一生懸命過ごしている小学校への憧れや期待感に胸を膨らませることができた。一方で児童もまた、顔見知りの園児による応援と憧れのまなざしを受け、より一層誇らしい気持ちとやり遂げたという達成感を得ることができた。

このように、従来行っていた交流活動を継続させながら見直し、改善することで、幼児と児童が変化し、それを教員も受け止めその育ちを分かち合うことで、また新たな交流活動が生まれ、より発展的に幼小連携が図られていった。

交流活動その2 コミュニティ・スクールを活用した交流活動の充実

地域の団体（ちょぼらの会）が、隔月で交互に環境整備のボランティアを実施して

いる。さらに、児童には「放課後子ども教室」で工作や料理などを、園児にはそうめん流しや餅つきを企画している。そのため、地域の方々は、子供たちにとって普段から顔なじみの人々である。

幼稚園では、毎年カレーパーティーにお世話になっている地域の方々を招待し、日頃の感謝の気持ちを伝えている。今年度は園長の発案によりこの1回のみで開催で終わらず、小学校の教員も招いた形で2回目の開催を行うことができた。このことにより、教員同士の交流がより進むとともに、園児にとっても小学校の教員がより身近な存在になっていった。

また小学校では、小学校3年生の児童が、地域の方におもちやを作ってもらったことから、「ぼくたちもちよぼらの会みたい、やよい幼稚園のみんなに何かしてあげたい。」と提案し、園児に手作りのマラカスや合唱などをプレゼントする交流活動を企画した。児童たちが地域の温かさにふれることで、自分たちでできることを考えるとともに、日頃から園児たちが身近な存在であったことによって生まれた取組だった。このように地域とのつながりが、幼小の連携をさらに活性化させ、子供の育ちや学びを支える基盤となった。

②交流活動を通して改善した接続カリキュラムの作成

これまで活用してきた三井小学校のスタートカリキュラムをもとに、夏季休業中に、幼稚園と小学校の教員で「接続カリキュラム」を作成した。各教育目標をねらいに、山口県独自の「育てたい子供の姿」を基本構想とし、さらに「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共通の視点として内容を考えた。年長や1年生の担任だけでなく、園長や校長も協議に加わることで、幼稚園と小学校の互いの願いや、様々な立場からの意見を参考にすることができた。

また、幼小の交流活動や日々の園庭開放の中で、子供の育ちの姿を幼小の教員が互いに知ったことや、明らかになった課題を接続カリキュラムの内容へ生かし、改善を図っていくことができた。

○実践のまとめ

日頃の幼小連携の取組を見直し、その意義について改めて認識するとともに、日頃の取組を行っているからこそ、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共通の視点として、子供の育ちを教員同士が互いに見取ることができ、幼稚園・小学校の違いや課題を知ることができた。また、それらを生かし接続カリキュラムを作成することで、共通理解や共通目標のもと、子供の育ちや学びの姿をイメージすることが可能となった。そこに至るまでには、やはり幼小連携が重要であり、これらを実現するためには、幼小の管理職の理解と関心が必要である。

なお、本調査研究において作成した「平成29年度 幼小連携の取組」と「接続カリキュラム」を、資料①及び資料②として掲載している。

◆考察

やよい幼稚園と三井小学校は、施設が隣接しているという立地条件や、幼児教育長期研修を経験した教員の取組を生かし、これまでも地域の特色を生かした連携を積極的に図ってきた。年間指導計画の中に位置付けられた定期的な交流活動や幼小連絡協議会だけではなく、休み時間の園庭開放により、園児と児童が日常的に一緒に遊び交流を深め

たり、郵送便の受け渡し時に、教職員同士が日々会話を交わし顔見知りの関係を築いたりしてきた。また、コミュニティ・スクールを活用して、地域総がかりで子供を育てようとする意識も高く、連携の土壌はすでに整っていた地域といえる。

このような地域の強みと今まで積み重ねてきた実践を生かし、今年度は、接続を見通したカリキュラムを編成・実施するとともに、次年度以降の改善にもつなげていくことができた。以下、二つの視点から考察を行う。

<視点①：幼稚園と小学校の教育課程等に対する相互理解がどのように進んだか>

今まで積み重ねてきた実践を踏まえながら、幼稚園と小学校の年間行事を改めて検討し、整理することで、新たな交流活動の可能性に気付いたり、よりよい交流活動の在り方を検討したりすることができた。幼稚園の登園日に合わせて小学校教員の保育体験を企画する、幼稚園でのカレーパーティーに小学校の教職員や地域の方々を招待する等、今年度はこれまで以上に、子供同士、教職員同士の交流活動を工夫し、子供を中心にして幼小の教職員の間関係がさらに深まった。また、幼小協議会では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について具体的な実践事例を紹介しながら協議を重ねることで、幼稚園教育要領と小学校学習指導要領との共通点や相違点に付き、互いの教育課程について理解を深めることができた。幼稚園での育ちや学びが、小学校での生活や学習のあらゆる場面につながっていることに気付いたことで、小学校では、これまでは園児との交流を実施していなかった学年も新たに交流活動を開始する等、幼小接続に対する教職員の意識をさらに高めることができたことも大きな成果である。このような成果を得られた背景としては、幼児教育長期研修派遣教員を中心として積極的に交流活動を行ったことと、幼小連携に理解のある管理職の迅速な対応があるといえる。



カレーパーティーを楽しむ
子供たちと園長・校長



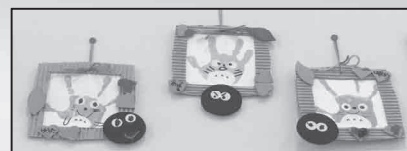
園と3年担任との打合せ

<視点②：接続カリキュラムにどのような改善が図られたか>

現在活用している小学校のスタートカリキュラムを見直すことからはじめ、幼小間で接続カリキュラムを作成した。カリキュラムには、交流活動等で明らかになった課題や地域との連携を踏まえながら、双方の教員の思いや願いを反映させることができた。また、山口県が、幼児期と児童期を通して育てたい子供像として掲げている「自分でできることは、自分でしようとする子供」、「人との関わりを大切にし、約束やきまりを守る子供」、「感性豊かで思いやりのある子供」、「表現を楽しみ学びに関心をもつ子供」という四つの子供像を基本理念とし、これらと「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を関連付けながらカリキュラムを作成するとともに、日頃の交流により幼児・児童の姿を共有することで、幼小間での言葉の統一化が図られ、より具体的に子供の姿をイメージすることができた。

やよい幼稚園は、来年度は他園との合併により拡大され、光市唯一の公立幼稚園となる。このことから、本研究において作成した接続カリキュラムが、光市の幼小接続を牽引する鍵になるともいえる。今後も、今年度作成したカリキュラムを、その時々の子供の実態に合わせて加筆・修正し、さらに活用しやすいものへと高めていくことが重要である。

(2) 旭幼稚園及び山口市立平川小学校 新幼稚園教育要領の趣旨を踏まえた幼稚園教育と 小学校教育の円滑な接続の在り方



○地域の特徴

旭幼稚園と平川小学校は、これまでも、幼保小連絡協議会（研修テーマ決定、授業参観、交流会等）や情報交換会、運動会参観等を通して連携を深めてきたが、どちらも大規模校、大規模園であるため日程調整が難しい。また、旭幼稚園は平川小学校区ではないため、卒園後の園児の様子を確認する機会は限られており、幼稚園側と小学校側が、5歳児から6歳児の子供の育ちや学びをいかにして共有するかが課題である。平川小学校には約30の園から園児が入学するが、小学校との連携については、園によって温度差があるのが実状である。

○実践の内容

①協議会の実施の仕方の工夫

本地域では、平川小学校区での幼保小連絡協議会だけではなく、鴻南中学校区での連絡協議会や旭幼稚園内での教育課程検討会等、様々な形態で協議会を開催することで、幼小連携を深めてきた。今年度については「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえながらそれぞれ以下の協議会を実施した。なお、開催回数等は12月時点のものであり、開催概要は以下のとおりである。

・鴻南ブロック幼保小連絡協議会（中学校区）

中学校の学区域内の幼稚園・保育所・小学校の関係者が集まり協議を行った。

- 第1回目（6月開催）：各園や各小学校の取組を話し合い、各園の特色への理解を深め、課題や指導の工夫の共有化を図った。
- 第2回目（10月開催）：作成した接続カリキュラムを配付し、その内容について意見交換をした。本開催により各園や各小学校の取組を話し合い、各園の特色への理解を深め、課題や指導の工夫の共有化を図ることができ、広い学区域内での共有を図ることができた。

・幼保小連絡協議会

園児が平川小学校に進学した幼稚園・保育所と平川小学校の関係者が集まり、協議を図り、互いの教育課程や保育の内容について理解を深めた。

- 第1回目（6月開催）：1年生の授業参観や卒園児・入学児に関する意見交換をした。また、スタートカリキュラム等紹介しながら、現状について話し合う中で、昨年の教師の支援や様子を知り、児童理解を深め、園での指導を小学校で生かす手立てとした。

・教育課程検討会

旭幼稚園の園長・主任・副主任で他の協議会内容も踏まえながら幼稚園における教育課程の検討を行った。

- 第1回目（9月開催）：0・1・2歳児からの保育と幼稚園とのつながりを考えた上で、新幼稚園教育要領を踏まえた教育課程を考察した。
- 第2回目（9月開催）：接続カリキュラムを踏まえながら、園の教育課程における年長の1年間を踏まえて、小学校へとつながる教育と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識しながら検討した。

・接続カリキュラム検討会

教育課程を基にした接続カリキュラムの在り方について、幼稚園の園長・主任が中心となって検討を行い、小学校担当者も交えながら実施した。

- 第1回目（9月開催）：3・4・5歳児へと続く保育の連続性を意識して「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を年少の教育課程から明記し、段階を踏みながら「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を育てる視点を入れていった。
- 第2回目（9月開催）：教育課程検討会と合同開催することによって接続カリキュラムを踏まえながら、幼稚園の教育課程における年長の1年間を踏まえて、小学校へとつながる教育と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識しながら検討した。
- 第3回目（10月開催）：小学校1年生の学級担任のみで行い、資質・能力の三つの柱と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」についての理解を深め、幼稚園教育につながる内容を検討した。
- 第4回目（10月開催）：小学校1年生の学級担任のみで行い、保護者との連携や幼稚園教育と生活科との関わりについて検討した。
- 第5回目（10月開催）：旭幼稚園の年長の学級担任で集まり、発達段階を考慮した接続カリキュラムを検討した。
- 第6回目（10月開催）：鴻南ブロック幼保小連絡協議会と合同開催とし、本検討会で作成した接続カリキュラムを他園・他校等にも配付し検討を行った。本開催により各園や各小学校の取組を話し合い、各園の特色への理解を深め、課題や指導の工夫の共有化を図るとともに、広い学区域内での共有を図ることができた。
- 第7回目（10月開催）：言葉の解釈の違いを埋めるために、具体的な表現の明記を試みた。
- 第8回目（11月開催）：第6回目の接続カリキュラムの配付後、平川小学校区内にある別の幼稚園から要請があり、幼児教育長期研修派遣教員が出向いて、保育における学びの捉え方や自ら学ぶ姿勢が育つ物的・人的環境等について協議し、幼小連携・接続についての研修を深めた。
- 第9回目（12月開催）：第6回目の接続カリキュラムの配付後、平川小学校区内にある保育所から要請があり、幼児教育長期研修派遣教員が出向いて、交流活動の活性化のための手立てや接続カリキュラムへの理解を図った。

以上の協議会の開催に当たっては、日程調整が困難であったことから、中心となる小学校・幼稚園を指定し議論を焦点化するなど、限られた時間の中でも内容の濃い実施を行うことを心掛けた。さらに、一つの協議会で終わるのではなく、一つの協議会で得た

ことを他の協議会にも反映して行うなど形態を工夫することで、大規模園と大規模校でも積極的な連携が可能となるよう効率的な開催を行った。特に小学校は学区が広く、他園への協議内容の共有も困難であったが、接続カリキュラムを他園とも共有するなど地域全体の意識の改善に努めるようにした。

②具体性を追求した接続カリキュラムの作成

上述の協議会に加え、旭幼稚園、平川小学校においてもそれぞれカリキュラムの研究が行われた。旭幼稚園では育みたい資質・能力や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の位置付け方、それらを反映した実践内容や幼小連携における配慮事項等について協議を重ねていった。また、平川小学校では、年間行事を見直すとともに、複数の幼稚園と小学校からアプローチカリキュラムとスタートカリキュラムを収集し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を基盤としたよりよい接続カリキュラムの編成について協議を重ねた。さらに、幼児教育長期研修派遣教員が、幼稚園と小学校を頻繁に行き来し、両者の研究の成果と課題を集約して伝達する等、幼稚園と小学校の思いや願いを中心となつてつないでいくことで、幼稚園と小学校の教員が顔を合わせる合同研修会では、検討事項が明確となり焦点化した協議を行うことができた。

接続カリキュラムの作成に当たり、同じ言葉でも、幼稚園と小学校の教員では言葉の解釈が違ふことも浮き彫りになった。その違いを埋めるために、本地域では、接続カリキュラムをより具体的な言葉で記述することとなった。また、作成したカリキュラムを鴻南ブロック幼保小連絡協議会において紹介、提案することで、他園、他校に対しても、幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続についての理解を図った。

○実践のまとめ

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共通の視点として、それぞれの教育課程や接続カリキュラムを検討することにより、自園や自校の特色や課題が見えてきた。その特色や課題は、今後の実践を見直す手立てとなり、幼稚園の指導を小学校の指導へと生かしていく上での大切な視点となった。また、幼稚園と小学校の教員が「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有することは、幼稚園と小学校が同じ思いで指導にあたり子供を支援することへとつながることが分かった。

さらに、本調査研究で作成した接続カリキュラムを、他園にも配付し検討したことで、各園との温度差を減らし、保育や教育に対して話し合う機会を得るとともに、連携や互いの教育への理解を深めることへとつながった。

今後は、ビデオレターや行事のDVD鑑賞等も新たな交流の手段として取り入れることで、大規模園・大規模校が抱える日程調整の難しさにも対応し、さらに連携・接続の体制づくりを強化していく計画である。

なお、本調査研究において作成したカリキュラムは、資料③及び資料④として掲載している。

◆考察

旭幼稚園と平川小学校は、これまでも、中学校区まで拡大した幼保小連絡協議会を開催し連携を図ってきた。しかし、どちらも大規模園・大規模校であり、さらに、旭幼稚園は平川小学校区ではないため、交流をする際の日程調整が難しい、幼稚園側が卒園後の子供の様子を確認する機会が限られている等の課題があった。以下、二つの視点から考察を行う。

<視点①：幼稚園と小学校の教育課程等に対する相互理解がどのように進んだか>

幼保小連絡協議会では、限られた回数で開催であったが、1年生の授業参観や卒園児・入学児に関する情報交換、スタートカリキュラムや接続カリキュラムについて、互いの関係者が顔を合わせた協議等を通して、子供の育ちや学びの様子を共有した。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」をテーマに話し合うことで、焦点化した協議を行うことができた。幼稚園側と小学校側が、互いの教育課程や指導方法について実際に顔を合わせて知ることは、文字だけでなく具体的な内容の理解につながり、教育の連続性・一貫性の確保につながることを再認識した。また、その他の協議会でも、時間がないからこそ話題の焦点化を行うとともに、他の協議会で得たことも生かす等して効率化を図ったことで、協議会をより深めることができた。今後も効率的な協議会の開催が必要である。



旭幼稚園・平川小学校連絡協議会

<視点②：接続カリキュラムにどのような改善が図られたか>

教育課程検討会や接続カリキュラム検討会を繰り返し開催し、幼稚園教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について、幼稚園、小学校ともに理解を深めた。その過程として、他校のスタートカリキュラムや他園のアプローチカリキュラムを収集し、接続カリキュラムを作成する際の参考とした。結果、各園によって考え方に相違があることや、幼稚園と小学校とでは言葉の解釈に違いがあること等様々な課題が明らかになり、幼稚園と小学校の間で言葉の統一を図るためには、より具体的な表現で接続カリキュラムを作成する必要があるという見解に至った。



旭幼稚園・平川小学校連絡協議会

接続カリキュラムの作成では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」とともに、小学校入学までに身に付けてほしいこと、保護者との連携、生活科との関連という観点からも検討を重ね、「幼稚園での子供の育ちや学びを小学校へと円滑につなげる」という共通理念のもと取り組んだ。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」をカリキュラムの中にどのように位置付けるかを研究する中で、旭幼稚園では、これまで自園がどのような保育に力を入れてきたのか、今後は何をすべきか等が明確になり、実践を見直すきっかけとなった。また平川小学校では、各教科の内容と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連性に着目し、幼稚園教育に対する理解を深めることができた。

さらに、小学校区における幼小連携に対する熱意の温度差の解消をめざし、旭幼稚園と平川小学校で作成した接続カリキュラムを他園、他校にも配付し、幼小連携や接続への啓発及び本研究成果の普及を図ったことも大変意義深い。平川小学校へ進学する各園の特色や理念を全て反映し、一つの接続カリキュラムとして整理することは困難なことであるが、今回作成したカリキュラムを基にPDCAサイクルを確立することで、客観性、汎用性のあるさらに活用しやすいカリキュラムへと高めていくことを期待する。

(3) 下関市立生野幼稚園及び下関市立生野小学校

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を取り入れた接続期カリキュラムの作成

○地域の特徴

生野幼稚園と生野小学校は隣接しているため、幼保小連携担当の教員が度々訪問し連携を深めてきたが、園児の中には個別の支援を要する子供も多く、現在小学校側が作成しているスタートカリキュラムが、幼小の円滑な接続に向けて、必ずしも効果的に活用されているとは言えない状況である。また、生野幼稚園は平成29年度で閉園し、同様に今年度末に閉園する2幼稚園、2保育所と統合され、平成30年度から、下関市教育委員会に隣接する大規模の幼保連携型認定こども園が開設となる。したがって、これまで少人数の中で生活してきた園児たちは、来年度から大人数の園児たちと生活することになる。

○実践の内容

① 「はじめまして」の合同研修会の実施から接続カリキュラムの作成まで

本調査研究に取り組むに当たり、まずは、小学校は既存のスタートカリキュラムを見直すことから、幼稚園はアプローチカリキュラムを作成することから始めた。また、第1回合同研修会までに、幼稚園と小学校のそれぞれが、アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムに改めて目を通し、互いに疑問点や課題点を挙げておくことで、合同研修会では焦点化した協議ができるようにした。第1回合同研修会では、人事異動による教職員の入れ替わりもあったことから、幼稚園と小学校の教職員同士の自己紹介からスタートした。その後、定期的に合同研修会を開催し、共通のめざす子供像を掲げる、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について周知を図る等して、研修を深めていった。接続カリキュラム作成までのプロセスは下表のとおりである。

接続期カリキュラム作成までのプロセス			
5月	スタートカリキュラムの見直し(生野小学校)		
夏季休業中	アプローチカリキュラム作成(生野幼稚園)		
9月20日 (水)	幼児教育長期派遣教員が中心となり、生野小学校低学年の教員間で『接続期カリキュラム作成』について相談・共通理解する。		
期日	場所	参加者	協議会の内容
9月22日 (金)	生野小学校	低学年担任	①接続期カリキュラム(アプローチカリキュラム)について ②スタートカリキュラムの確認 ③10月第2回打合せの日程調整をする
9月25日 (月)	生野小学校 生野幼稚園	校長 低学年担任 園長 年長担任	小学校:生野幼稚園のアプローチカリキュラムを教職員に配付する。 幼稚園:生野小学校のスタートカリキュラムを教職員に配付する。 (互いに、次回までに目を通しておく。)

10月13日 (金)	生野小学校	校長 低学年担任 園長 年長担任	①自己紹介 ②幼稚園年長児の現時点での課題・めあてを伝える。 ③今年度低学年の4～5月の様子、課題・めあてを伝える。 ④幼小共通の課題点について話し合う。 ⑤幼小共通のめあて（育ってほしい子供の姿）を話し合う。
幼小共通のめあて（育ってほしい子供の姿）			
『主体的に考え、自分の言葉で思いを伝えることができる子供』			
11月9日 (木)	生野幼稚園	校長 低学年担任 園長 年長担任	①幼稚園教育要領の改訂のポイントについて 『資質・能力（三つの柱）』 『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』 『連携・接続について』 ②接続期カリキュラム…育ってほしい子供の姿に基づいて、再度内容の見直し、修正、共通理解 ③年間交流予定の見直し ④来年度年間交流計画
11月21日 (火)	生野小学校	低学年担任 年長担任	・生野幼稚園 生野小学校 接続期カリキュラム確認/まとめ ・1、2年生 年間学習指導計画表を見ながら来年度以降交流可能な単元を検討 ・反省、感想等

これらの合同研修会を踏まえながら交流活動も適宜行っていった。
合同研修会等の幼小の教員の感想の一部を紹介する。

★幼稚園の教員 ○幼小両教員 ☆小学校の教員

- ★年長児が小学校まで歩いたり、校舎内に入って先生方とあいさつを交わしたりする体験は、大人が思う以上に子供たちにとっては安心感につながり、期待感も高めている。
- ★幼稚園の方が活動する上で環境が整っている場合もある。（例えば色水遊び…すり鉢、外用のコップ、外用台など）児童が園児に声を掛け、教わる場面があってもよい。
- 互いの教育課程を知ることができ、どのような学びをしてきて、どのような学習につながっていくのかを意識するよい機会となった。
- ☆子供同士の交流も大切だが、こうして教員同士の交流が進み、気軽に話ができるようになったことがよかった。
- ☆幼稚園での声掛けの仕方や支援の仕方をもっと早く知っておけば、今年度4月から役立てることができた。これからでも遅くないので、情報交換を続けていきたい。
- ☆夏季休業中に、保育所などで研修される先生方もいらっしやると聞いた。幼児がどんな生活をしていて、どんな活動をしているのか、実際の様子を見るのは勉強になる。

② 汎用性、客観性を追求した接続カリキュラムの作成

子供たちの実態から、生野幼小の共通のめざす子供像を『主体的に考え、自分の言葉で思いを伝えることができる子供』とした。また、「幼児期の終わりまでに育って

ほしい姿」を共通の視点として、幼児期・児童期の発達段階を把握すると同時に、具体的な例を挙げて子供の実態を共有した。さらに、小学校低学年の年間学習指導計画を基に、子供同士の交流単位について話し合ったり、保育内容と学習内容のつながりについて意見交換をしたりした。そして、これらの研修の成果を接続カリキュラムの作成に生かしていった。

接続カリキュラムを作成するに当たり、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と小学校の各教科等の関連性について一覧表に整理した（資料⑦及び資料⑧）。この一覧表は、今後、汎用性や客観性のあるものへと高めていく必要があるが、今年度、幼小の教職員が互いの教育課程への理解を深め、子供の育ちや学びを具体的にイメージしたり、そのイメージを共有したりする上で、大変効果的な手持ち資料となった。

○実践のまとめ

接続カリキュラムを作成することで、幼小の教員同士がつながり合い、子供たちの実態（発達段階）を積極的に共有しようという意識が高まった。また、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共通の視点として研修を進めたことにより、幼稚園での計画的な保育や、具体的な指導方法（声掛け等）、子供たちの育ちや生活経験について理解を深めることができ、さらには、それらが児童期にはどのような学びにつながるのかを考えることができた。今年度作成した接続カリキュラムには、具体的な子供の姿やその手立てが表記されていないため、来年度は、それぞれの幼稚園等のカリキュラムを経て入学した1年生の実態を基に、見直し加筆していきたい。

なお、本調査研究において作成したカリキュラムについては、資料⑤及び資料⑥として掲載している。

◆考察

生野幼稚園と生野小学校は、約150mしか離れておらず、例年、生野幼稚園の卒園児のほとんどが生野小学校へと進学している。両者はこれまでも、年長児と1年生の交流活動や年長児と5年生の交流活動等を行い連携を図ってきたが、転勤による教職員の入れ替わりやその年々の状況によって、連携の体制には差が見られた。また、連携相手は、互いに隣の幼稚園、小学校であったが、生野幼稚園は今年度で閉園することが決定しており、同様に今年度末に閉園する2幼稚園、2保育所と統合され、平成30年度には小学校から離れた場所に、大規模の幼保連携型認定こども園が開設される。以下、二つの視点から考察を行う。

<視点①：幼稚園と小学校の教育課程等に対する相互理解がどのように進んだか>

教職員が入れ替わったこともあり、幼稚園と小学校の合同研修会は、まず「はじめまして」の顔合わせからスタートした。その後、幼稚園は小学校のスタートカリキュラムに、小学校は幼稚園のアプローチカリキュラムに改めて目を通すことで相互理解に努めるとともに、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を取り入れた接続カリキュラムの具体的なイメージについて共有化を図った。また、生野幼小の子供の実態から、「主体的な考え、自分の言葉で思いを伝えることができる子供」を共通のめざす子供像とし

て掲げることで、連続性・一貫性のある教育の展開をめざした。

さらに、幼稚園教育のねらい及び内容と小学校1年生の教科学習の目標及び内容とのつながりを具体的に理解できるように、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と各教科のつながり」を表した一覧表（資料⑦及び資料⑧）を作成した。本モデル地域で今年度作成したこの一覧表は、今後検討を重ねることで整合性を追求し、客観性、汎用性のあるものへと高めていく必要があるが、一覧表の精度を高めるために幼小の教職員が協議を重ねることこそが、幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続を推進していくことへとつながるのではないかと考える。

子供像を共有し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共通の視点として研修を深めたことで、幼小の教職員同士がつながり、子供の実態を積極的に共有しようという意識が高まった。小学校側は、幼稚園での計画的な保育や具体的な指導方法を知ること、それが小学校でのどのような学びにつながっているかについて掘り下げて考えることができた。また、幼稚園側にとっても、就学後の育ちを具体的にイメージした幼児教育を進めていくことが可能となった。



生野幼小連絡協議会

<視点②：接続カリキュラムにどのような改善が図られたか>

今年度は、小学校低学年の年間指導計画を基に、交流单元について話し合ったり、保育内容と学習内容のつながりについて意見交換をしたりしながら接続カリキュラムを作成した。来年度、これまでとは連携のスタイルが変わる生野幼小にとっては、人的・物的環境の変化にとらわれることなく幼児・児童理解を継続させていくためにも、客観性、汎用性のある資料を作成することを目標としている。

今後は、今年度作成したカリキュラムに、具体的な子供の姿やねらいに対する手立てを追記したり、子供の実態に合わせて加筆・修正したりする等、接続カリキュラムのPDCAサイクルを確立し、生きたカリキュラムへと高めていくことが重要である。



生野幼小接続カリキュラム検討会

(4) 3地域の実践についての考察

3地域の実践について、①幼稚園と小学校の教育課程等に対する相互理解の効果的な在り方、②接続カリキュラムを作成する際の効果的な在り方の二つの視点からさらに考察する。

①幼稚園と小学校の教育課程等に対する相互理解の効果的な在り方

㊦教職員間の人間関係づくり

それぞれのモデル地域は、連携・接続の段階は異なっているものの、いずれの地域においても共通して言えたことは、幼小の円滑な接続には、まず教職員間の人間関係づくりが大切であるということである。「教育」と「教育」がつながるためには、まずは「お互いが知る、理解する」ということが前提となる。幼稚園側は小学校教育を、小学校側は幼稚園教育を知らなければつながることはできない。したがって、定期的に連絡協議会や合同研修会を開催することはもとより、日頃から互いに足を運び、継続的に情報交換や保育・授業参観を行うなど、教職員間の顔の見える人間関係、信頼関係を構築することが不可欠である。

㊦管理職の理解とパイプ役の存在～園内・校内体制～

連携・継続のきっかけづくりや推進には、園長や校長といった管理職の理解と関心が重要であることも明らかになった。幼小連携に関する交流活動や合同研修会等を、その意義や必要性を理解した上で年間計画に位置付けていくか否かは、管理職の裁量によるものが大きい。また、各行事や研修等をいかに効果的に運営していくかは、幼小連携を担当する教員の意欲や力量による部分も大きい。本研究においては、各モデル地域において、幼児教育長期研修派遣教員がその役割を大いに果たすことができた。しかしながら、何より大切なことは、管理職やパイプ役である教員だけが幼小連携・接続に向けて取り組むのではなく、園全体、学校全体で幼稚園教育と小学校教育がつながっていくことの意義や必要性を共有し、全ての教職員が一丸となって円滑な接続を図るために努めていくことである。

㊦子供の育ちや学びを「つなげる」思いや意識

「教育」と「教育」を接続するためには、園児と児童の交流活動や教職員同士の合同研修会等、幼小連携の体制を整えるだけでなく、幼稚園教育や小学校教育に携わる者が、「小学校教育は幼稚園教育の成果を受け継いだ形でスタートする」、「スタートカリキュラムにおける学習を小学校におけるその後の学習にも円滑につないでいく」といった視点をもっていることが重要である。幼稚園側は「幼稚園での育ちや学びを小学校につなげたい」という思いを、小学校側はその思いをしっかりと引き受け、「小学校1年生はゼロからのスタートではない」という意識をもって子供の育ちや学びをつなげていくことが大切である。そのことを実感できたことから、各モデル地域において、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

を取り入れた接続カリキュラムの作成に取り組んだ本研究の意義は大きい。

②接続カリキュラムを作成する際の効果的な在り方

㊦「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の可視化 ～方法～

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の共有化を図るためには、幼稚園教育要領等に示されている言葉からイメージする具体的な子供の姿について、幼稚園側と小学校側が語り合い、「言葉の統一」を図ることが必要である。


そこで、各モデル地域では、日々の保育・授業実践の記録や写真を基に、園での遊びや生活の中に、あるいは小学校での学習の中に、子供のどのような育ちが存在しているかを明らかにしていった。

その方法について、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の中の「(6) 思考力の芽生え」を例に具体的に紹介する。


(6) 思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

下の写真は、5歳児の砂場遊びの様子である。



パイプから水が出てこないよ。どうしたら水が流れてくるかなあ。



もっと水の入り口を高くしたらいいんじゃないかな。

ここでの子供の様子からは、様々な姿が見取れるが、ここでは「思考力」という観点から、5歳児のこの姿には、3歳児、4歳児のどのような姿につながっているのか、また、小学校1年生のどのような姿につながっていくのかということを確認し、子供の育ちや学び及びそこでの教師の関わり等を一連の流れとしてつないでみる作業を試みた。その一例を紹介する。

(試案例)

3歳児 土や砂を触ったり、水を流したりして、それぞれの感触を楽しむ姿



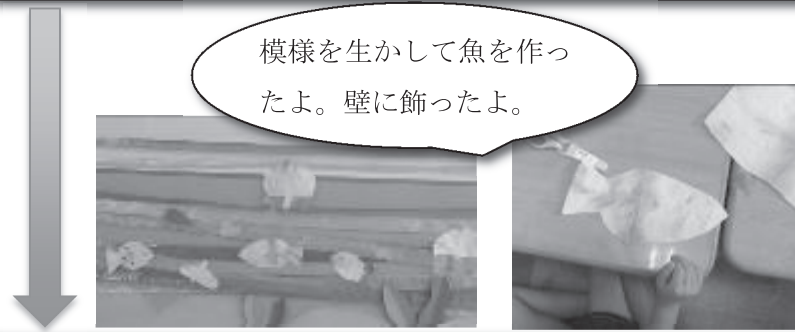
もっと水を
ためたい。

もっと掘って
みよう！

<教師のかかわり>

- ・思う存分遊べるように、いろいろな用具を準備しておく。
- ・一緒に楽しみながら、子どもたちが触れ、感じたことに共感する。

4歳児 水に絵の具を溶いて折った紙に染み込ませ、開いた時の色の広がりや形を楽しむ遊び



模様を生かして魚を作っ
たよ。壁に飾ったよ。

<教師のかかわり>

- ・様々な大きさの紙や色を準備し、たくさんのパターンの浸し染めに取り組めるようにする。
- ・他の園児が作った物を互いにすぐ見られるよう、目に付く場所に吊るしておく。

5歳児 物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむ姿



<教師のかかわり>

- ・一人一人が考えたり、工夫したりしているところを認め、友達と協力してつくる楽しさが味わえるようにする。
- ・多様な遊びを試せるように環境を整える。

小1 物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむ姿



あっ、水のトンネルだ！

みんなで並んで水のトンネルをつくろう。トンネルくぐりだ！

<教師のかかわり>

- ・自由遊びを何度か繰り返すことで、新たな遊び方を発見することができるようにする。
- ・活動後に振り返る時間を設定することで、子供の気づきを次の活動に生かせるようにする。

このように、本調査研究では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」のそれぞれについて、3歳児から6歳児（小学校1年生）までの育ちや学びの具体的な姿をつないでみることを試みた。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を可視化することは、幼小の教員が、互いの教育課程への理解を深め、協働して接続カリキュラムを作成していく上で、大変効果的であった。

④「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の可視化 ～成果と課題～

今回、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の連続性を可視化しようと試みた大きな目的は、幼小の教員が、子供の育ちや学びの過程を共有するとともに、幼稚園教育と小学校教育の共通点や相違点を互いに理解することであった。遊びや生活、学習の様子が分かるように、写真を用いて子供の行動やつぶやき、そこでの教師の援助や関わりについて整理することで、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」のそれぞれについて、具体的にイメージしながら園内・校内研修、あるいはモデル地域での合同研修を深めていくことができた。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共通の視点として、様々な保育・教育実践を紐解いてみることで、それぞれの時期に、どのような指導方法がふさわしいのかを改めて考えることができた。また、幼稚園の教員にとっては、幼稚園での保育が、小学校における教科等の学習のどの部分にどのようにつながっているかを具体的に知ることができ、小学校の教員にとっては、1年生がゼロからのスタートではないというのを再認識することができた。

しかしながら、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、到達すべき目標ではないことや、個別に取り出されて指導されるものではないこと、また、一人一人の発達の特성에応じて育っていくものであることに留意すると、ある一場面の子供の様子を切り取りつないでいった今回の取組は、「この姿になればよいのか」と予期せぬ誤解を招いてしまう恐れも生じた。実際、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、それぞれが深く関連付いており、「この場面ではこの姿が見られる」と1対1対応で語れるものではないことも、可視化することを通して実感できたところである。

本研究における可視化の方法は、これから改良を重ねていく必要があるが、幼稚園と小学校の教員が、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」からイメージする子供の育ちや学びの姿を共有するための、大きな一歩につながったとその意義を確信している。

現在多くの幼稚園でドキュメンテーションが作成され、遊びの中の豊かな学びを可視化し、幼児、教員、保護者間で共有する取組が行われている。それらの研究も参考にしながら、幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続につながる資料として提供できるよう、今後よりよい可視化の方法についても引き続き研究を重ねていきたい。

平成29年度 幼小連携の取組

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
行事	始業式 入園式 各種健診	親子交通安全教室 やよいっこのつどい 筍の皮むき(食育)	合同保育 カレークッキング パーティー	親子歯科指導 親子クッキング ひかり苑交流会	登園日 親子除草 作業日	始業式 合同保育 食育の日	光まつり参加 運動会 合同運動遊び・バス遠足	家族参加日 やよいまつり 運動遊び指導 芋ほり	合同保育 就学時健診 社会見学・三島文化祭	観劇会 発表会 終業式	始業式 餅つき会 上島田小発表会	人形劇鑑賞 一日入園 お別れ会	マンドリン演奏会 お別れ会 卒園式
光市立やよい幼稚園	<p>4.28 第1回幼小交流会</p> <p>6.27 カレーパーティーに校長先生を招待</p> <p>8.8 登園日に保育体験</p> <p>9.29 三井小の先生と一緒に昼食</p> <p>10.27 3年と打ち合わせ</p> <p>11.7 3年生が交流(総合的な学習)</p> <p>交流会後から昼休み園庭開放</p> <p>事務の先生がお礼に歌を披露</p> <p>10.28 親子陶芸教室に教員も参加</p> <p>教職員の毎日の交流 通送便の受け取り時</p>												
	<p>4.21 昨年度年長担任と三井小・周防小に授業参観</p> <p>5.30 運動場で遊ぼう</p> <p>6.23 園長先生と授業参観</p> <p>7.7 浅江東年長組も七夕交流会</p> <p>7.11 年長担任と自由参観</p> <p>9.5 園の特別支援担当教員と授業参観</p> <p>10.13 1年生の遠足に参加</p> <p>10.17 ハロウィンの飾りを見学</p> <p>10.27 音楽発表を鑑賞</p> <p>10.31 ハロウィンでお菓子をもらいに</p> <p>11.20 幼小交流会(秋遊び、給食)</p> <p>子どもの毎日の交流 下校時に会話</p>												
光市立三井小学校	入学式 前期始業式 参観日	春の遠足 体力テスト 運動会	各種健診 プール清掃 参観日	自由参観日 光市水泳記録会 個人懇談会	登校日 親子作業日 個人懇談会	心の参観日 三井地区敬老会 5年宿泊学習	個人懇談会 後期始業式 3,4,5年社会見学	前期終業式 1,2年遠足 陸上記録会 6年修学旅行	就学時健診 光市音楽会 三島文化祭	家族参観日 持久走大会	児童集会 書初め展 参観日	参観日 6年生を送る会 お別れ式 卒業式	

学年・月	年長5歳児・接続前期（10～12月）	年長5歳児・接続中期（1～3月）	第1学年6歳児・接続後期（4～7月）
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ○トラブルが起こった時に、自分たちで解決しようとする。 ○遊びの内容が豊かになり、友達と相談しながら、自分たちで遊びを考えたり工夫したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○文字や数量など知的好奇心がもてる遊びを好むようになる。 ○就学の自覚が生まれ、自分たちの遊びを十分に楽しみ、自信のある行動が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校生活という新しい環境に対して、期待と不安が伺える。 ○小学校生活が進むにつれ、人間関係が少しずつ形成されるようになる。
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の良さを知り、自信をもって力を発揮する。 ○遊びや生活の中で共通の目的や課題をもち、工夫して活動に取り組む。 ○お話や曲からイメージを広げ、表現活動を楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○グループやクラスの友達と目的や見通しをもって自分たちで遊びを進め、達成感や充実感を味わう。 ○成長した喜びや感謝の気持ち、就学への期待と自覚をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な生活習慣を身に付けて、健康や安全に対する意識をもつ。 ○学習規律を身に付け、学ぶことや自分の思いを表現できることの楽しさを感じる。 ○きまりを守り、友達と仲良く元気に活動する。
育 て た い 子 ど も の 姿	<p>は自分でできること する子ども</p> <ul style="list-style-type: none"> ○跳び箱やマットなどを使って、自分が挑戦したいことに向かって積極的に運動する。(健康) ○手洗いやうがい、掃除など、身の回りの清潔を保つ。(健康) 	<ul style="list-style-type: none"> ○提示された日程を見て、その日の生活や活動の見通しがもてる。(健康) ○朝の会や製作の時間など、椅子に座って活動する時間が長くなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○新しい友達や学校生活に慣れ、学校での基本的な生活の仕方が定着する。 ○日課を見て、必要な物をそろえたり、鉛筆を削ったりする習慣をつける。 ○登校班で並んで集団登校したり、寄り道をせずに下校したりと、自分で登下校することができる。
	<p>人とのかかわりを守る子ども 約束やきまりを大切に</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ほうきや雑巾がけなどの清掃活動や当番活動など、しなければならないことを自覚する。(自立) ○ドッジボールやごっこ遊びなどを通して、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、相手の立場に立って行動したりできるようになる。(道徳性) ○勤労感謝の日に向けて関わりのある施設を訪問し、手作りプレゼントを渡すことを通して、社会とのつながりなどを意識するようになる。(社会生活) 	<ul style="list-style-type: none"> ○発表会に向けて、内容を自分たちで考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げる。(協同性) ○正月遊びやサッカーなどで、きまりを守る必要性が分かり、友達と折り合いをつけながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。(道徳性) ○合同お別れ遠足などの園外保育で、交通ルールを守って行動したり、公共の施設を大切にしたりするようになる。(社会生活) 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の思いや考えをクラスの友達や教師に伝わるように話したり、話を最後まで集中して聞いたりすることができる。 ○新しい環境に慣れ、先生や上級生の存在に気付き、新たな先生や友達とかかわるようになる。 ○校内の過ごし方や運動場でのルールなど、きまりを守って安全に過ごすようになる。
	<p>感性豊かな 思いやりの 子ども</p> <ul style="list-style-type: none"> ○季節の変化に関心をもち、木の実を遊びに取り入れたり図鑑で調べたりする。(生命尊重) 	<ul style="list-style-type: none"> ○園庭の植物に水をやったり、飼育している生き物にえさをやったりして愛情をもつ。(生命尊重) ○心動かす出来事に触れ、感性を豊かにする。(豊かな感性) 	<ul style="list-style-type: none"> ○春の遠足や生活科の授業などを通して、身近な動植物に関心をもち、命の不思議さや尊さに気付くことができる。 ○イメージを豊かにしたり、自分や友達の作品の美しさやよさを感じたりする。
	<p>表現を楽しむ もつ子ども</p> <ul style="list-style-type: none"> ○カルタやすごろく遊びなど、遊びに応じて必要な表示を考えたり、文字や数字を取り入れたりするようになる。(数量・図形) ○試行錯誤しながら泥団子作りや色水作りを楽しむ。(思考力) ○帰りの集まりで、一日を振り返り、楽しかったことを話したり、聞いたりする。(伝え合い) 	<ul style="list-style-type: none"> ○生活に必要な文字や数字、標識などに関心をもち、手紙やお店やさんごっこなどの遊びの中で進んで使おうとする。(数量) ○発表会で劇や合奏、歌など表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。(豊かな感性) 	<ul style="list-style-type: none"> ○平仮名を読み書きしたり、たし算・ひき算の計算をしたりするようになる。 ○運動会のスローガンについての話し合いで、自分と異なる考えがあることに気付き、自分の考えをよりよいものにするようになる。(思考力) ○順序に気をつけて話したり、質問したり答えたりして、伝え合う楽しさを味わう。
家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○親子参加の行事や運動会での子どもの成長を実感し、十分ほめ、喜び合いながら、次への自信につながるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校教員からの話や一日入学での話を参考にして、就学前の心構えや身に付けておきたい生活習慣などをていねいに知らせることで不安を取り除く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭訪問や懇談会を通して、家庭での様子を把握する。 ○授業参観や学年通信の発行することで、保護者の安心感につなげる
幼小連携	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校との合同散歩を通して、地域の自然を楽しむ。(10月) ○小学生が作った秋遊びの遊び方を教わり、教室でいっしょに遊ぶことで、交流を深めたり、小学校の環境に慣れたりする。(11月) 	<ul style="list-style-type: none"> ○給食交流をすることで、交流を深めながら給食を楽しむ。(12月) ○小学1年・5年生との交流を通して、来年度の入学・進学の意欲を高める。(2月) 	<ul style="list-style-type: none"> ○園児と1年生とのグループ遊びを通して、交流する楽しさを味わう。(5月) ○昼休みに園庭で遊ばせてもらい、安心感をもって小学校生活に移行できる。 ○七夕飾りを一緒に作って飾ることで、親しさを深める。(7月)
行事	始業式・運動会・やよいまつり・ひかり苑との交流・ひかり祭参加・親子陶芸教室・合同保育・餅つき・バス遠足・芋ほり・就学時健診・終業式	始業式・正月遊び・節分・発表会・人形劇・縄跳び大会・ひなまつり・マンドリン演奏会・合同お別れ遠足・一日入学・卒園式	入学式・前期始業式・身体測定・体力テスト・家庭訪問・各種検診・春の遠足・運動会・個人懇談会

- ①健康な心と体
- ②自立心
- ③協同性
- ④道徳性・規範意識の芽生え
- ⑤社会生活との関わり

- ⑥思考力の芽生え
- ⑦自然との関わり・生命尊重
- ⑧数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚
- ⑨言葉による伝え合い
- ⑩豊かな感性と表現

		接続期カリキュラム(Ⅰ期)		接続期カリキュラム(Ⅱ期)			接続期カリキュラム(Ⅲ期)				接続期カリキュラム(Ⅳ期)			
月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
園行事	行事	入園式・始業式 クラス懇談会 誕生会 身体測定 避難訓練(火災) 体育教室	P T A総会 内科検診・歯科検診 体育教室・茶道教室 参観日・誕生会 身体測定 避難訓練(水害)	プール開き 芋の苗植え 誕生会 身体測定 避難訓練(地震) 体育教室	お泊まり保育 個人懇談 誕生会 身体測定 避難訓練(不審者) 体育教室	すいかわり 誕生会 避難訓練(地震火災) カレーパーティー (卒園児)	交通安全教室 年長組保護者講演会 誕生会 身体測定 避難訓練 (地震津波)	運動会・誕生会 芋掘り 幼稚園まつり 身体測定 避難訓練(火災) 体育教室・茶道教室	SL遠足 シルエット劇場 内科検診・誕生会 身体測定 避難訓練(水害) 茶道教室	クリスマス発表会 個人懇談 誕生会 身体測定 避難訓練(地震)	参観日 誕生会 身体測定 避難訓練 (総合訓練) 体育教室・茶道教室	豆まき ひなまつりなかよし 会 誕生会 身体測定 避難訓練(火災) 体育教室	お別れ交流会 誕生会 身体測定 避難訓練 (地震火災) 卒園式	
	幼児の姿	●園生活の流れやきまりが分かり、行動できるようになる。 ●年長児としての生活に意欲や期待をもつが、緊張や不安も見られるようになる。			●ルールのある遊びを好み、友達と活発に遊ぶようになる。 ●友達とのトラブルを通して、互いの思いや考えの違いに気付けるようになる。			●年長組としての自覚をもち、いろいろな行事に意欲的に参加するようになる。 ●いろいろな友達と遊ぶ中で、互いの思いを伝え合えるようになる。 ●自分達で工夫し、遊びやルールをつくるようになる。 ●経験したことを取り入れ、思いやイメージを出し合いながら、自分達で遊びを進めていけるようになる。 ●トラブルが起こっても、自分達で解決しようとする。				●落ち着いた生活し、いろいろなことに積極的に取り組むようになる。 ●友達とのかかわりが深まり遊びや増えることで、個々の仲間意識や競争意識が高まるようになり、集団が大きくなる。 ●就学に対する自覚が生まれ、年長児らしい積極的な姿が見られるようになる。		
ねらい	ねらい	●基本的な生活習慣を守り、自分のことは自分でできるようになる。 ●新しい環境に慣れ、意欲的に活動に取り組む中で、友達とのつながりを感じる。			●友達とのかかわりながら、一緒に遊びを進めていけるようになる。 ●生活の仕方や遊びのルールを理解し、自分から行動しようとする。			●いろいろなことに自分なりの目的をもって取り組み、活動を深めていけるようになる。 ●友達と考えたり工夫したりしながら、一緒に遊びを楽しめるようになる。 ●共通の目的に向かって、友達と考えを出し合いながら、協力して活動に取り組む。				●友達と目的を共有しながら、自分達で相談や工夫をし遊びを進めていくようになる。 ●集団の中で互いに認め合い、自信をもって生活できるようになる。 ●就学への自覚や自信をもち、意欲的に活動する。		
	育みたい力	(知識・技能の基礎) ●クラスでの過ごし方が分かり、見通しをもって生活することで新しい環境に慣れる。(①④) ●戸外で体を動かして遊ぶ。(①) ●グループを作り生活することで、友達とのかかわりを広げる。(③) ●絵本や作品に自分の名前を書いたり、時計を見たりすることで、文字や数字に興味をもつ。(⑧) ●生活の中で必要な言葉が分かり、教師や友達に思いを伝えようとする。(⑨) ●遊びやバス送迎の中で、異年齢児に親しみの気持ちをもってお世話しようとする。(④⑤) ●規則正しい生活習慣を身に付けていく。(①) ●春の自然に触れ、園で飼育しているウサギなどの生き物と触れ合うことで、動植物に親しみをもつ。(⑦) ●食事のマナーを知り、教師や友達と食事を楽しむ。(①④) ●様々な造形活動を通して、ハサミや絵の具などの道具を正しく使おうとする。(⑥)	(思考力・判断力・表現力等の基礎) ●遊具やプール等の安全な遊び方や、廊下の歩き方などの生活の仕方を知り、落ち着いた生活できるようにする。(①④) ●ルールや約束、時間を守る大切さを知る。(④) ●遊びの中で、自分の気持ちや考えを、教師や友達に言葉で伝える。(⑨) ●異年齢で活動する時間を意図的に設け、年長児としての自覚をもち。(⑦) ●夏野菜の苗植え等をしたり、世話をしたりして、生長や収穫を楽しむ。(④⑤⑦) ●お泊まり保育において、保護者と離れて友達と過ごし、自分の身の回りのことを自分ですることで、自信をもち、友達の大切さに気付く。(①②③④⑩) ●教師の話や聞き、自分なりに考えながら活動に取り組む。(②⑥) ●茶道教室を通して、礼儀作法に触れ、和の文化に親しみをもつ。(④⑩) ●当番活動として、給食の配膳をしたり、掃除をしたりすることで、進んで自分の役割を果たそうとする。(②③)	(学びに向かう力・人間性等) ●入学式・入園式招待 ●大歳小学校授業参観 ●平川小学校幼保小連絡会	●入学式・入園式招待 ●大歳小学校授業参観 ●平川小学校幼保小連絡会	●誕生会招待 (良城小学校合唱団 合唱披露)	●小学校運動会参加 ●年長組保護者講演会 (小学校校長先生講話)	●運動会招待 ●就学時健診 (各小学校) ●音楽会リハーサル (大歳小学校・良城小学校) ●給食試食会 (良城小学校)	●鴻南ブロック幼保小連絡協議会 (公開授業・公開保育)	●小学校運動会参加 ●年長組保護者講演会 (小学校校長先生講話)	●運動会招待 ●就学時健診 (各小学校) ●音楽会リハーサル (大歳小学校・良城小学校) ●給食試食会 (良城小学校)	●入学式(各小学校)	●大歳小学校連絡協議会 ●平川小学校連絡協議会 ●良城小学校連絡協議会 ●卒園式・卒業式招待	
幼小連携	行事	●入学式・入園式招待 ●大歳小学校授業参観 ●平川小学校幼保小連絡会	●入学式・入園式招待 ●大歳小学校授業参観 ●平川小学校幼保小連絡会	●誕生会招待 (良城小学校合唱団 合唱披露)	●小学校運動会参加 ●年長組保護者講演会 (小学校校長先生講話)	●運動会招待 ●就学時健診 (各小学校) ●音楽会リハーサル (大歳小学校・良城小学校) ●給食試食会 (良城小学校)	●鴻南ブロック幼保小連絡協議会 (公開授業・公開保育)	●小学校運動会参加 ●年長組保護者講演会 (小学校校長先生講話)	●運動会招待 ●就学時健診 (各小学校) ●音楽会リハーサル (大歳小学校・良城小学校) ●給食試食会 (良城小学校)	●入学式(各小学校)	●大歳小学校連絡協議会 ●平川小学校連絡協議会 ●良城小学校連絡協議会 ●卒園式・卒業式招待			
	配慮	●卒園児や1年生の様子を聞き、小学校生活まで見通したかかわりができるようにしていく。	●小学生との触れ合いを通して、小学校に対する憧れの気持ちをもてるようにする。 ●幼保小連絡協議会を通して、研究主題を基に小学校との連携がとれるようにする。	●小学校の行事を通して、小学校の雰囲気を感じ、親しみをもてるようにする。 ●幼保小連絡協議会を通して、各幼稚園や小学校の課題や小学校へつなげていきたい姿等、情報が共有できるようにする。 ●給食試食会を通して小学校給食の内容や味を知り、安心して食べられるようにする。	●仮入学を通して、子どもが小学校の楽しさや小学校生活へのイメージを感じ取れるようにする。 ●小学校について話したり、聞いたりする中で、就学への関心をもてるようにする。 ●幼保小連絡協議会を通して、子ども達一人一人の育ちを小学校へ引き継ぐ。									
保護者との連携	保護者との連携	●新しい環境への不安をもつ保護者には、特に意識して子どもの様子を伝え、安心できるようにする。 ●家庭と一緒に規則正しい生活習慣(早寝・早起き・朝ごはん)を身に付けられるようにする。	●懇談会を通して、成長発達につながる時期の特徴(トラブルがもつ意味等)について伝えていく。 ●子ども一人一人の成長を保護者と共有できるようにする。 ●小学校に対して子どもがプレッシャーを感じることをないような環境を家庭でもつくっていけるようにする。	●校長先生の講演会を通して、就学前の心構えや身に付けておきたい生活習慣等をわかりやすく伝え、不安を取り除いていく。 ●懇談会を通して子どもの様子について詳しく伝え、就学に向けて保護者も意識できるようにする。	●就学に向けての保護者の不安に対し、小学校の様子や情報を伝え、安心できるようにする。 ●就学への不安が少なくなるように、子どもの様子や成長を保護者に伝え、共有する。									

接続カリキュラム(Ⅰ期)			接続カリキュラム(Ⅱ期)			接続カリキュラム(Ⅲ期)				接続カリキュラム(Ⅳ期)															
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月													
学校行事	入学式 身体測定 各種検診 集団下校 家庭訪問 地区児童会 集団下校 参観日 学級懇談 PTA役員選出	PTA総会 各種検診 集団下校(見守り隊の総介) 参観日 1年生を迎える会	プール開き 参観日 なかよし班遊び 一斉下校 避難訓練	一斉下校 個人懇談 終業式	PTA作業日 全校登校日	始業式 夏休み作品展 一斉下校 秋季大運動会	なかよし班遊び 緊急時引き渡し訓練 就学時健康診断 社会見学 人権参観日 人権講演会 集団下校 満足 給食試食会	校内音楽会 平川まつり 一斉下校 なかよし班遊び ロング集会 避難訓練	持久走記録会 一斉下校 個人懇談 終業式	始業式 集団下校 参観日	新1年生仮入学 一斉下校 なかよし班遊び 高倉荒神祭	参観日 学級懇談 6年生を送る会 一斉下校 お別れ式 修了式													
児童の姿	●小学校という新しい環境での生活に意欲や期待が高まる一方で、緊張や不安、疲れが見られるようになる。 ●教室をはじめ学校の使い方を知る。 ●安全な登下校の仕方に気を付ける。 ●場に応じた聴き方や話し方を知る。		●小学校生活の流れやきまりがわかるようになり、人間関係が少しずつ形成されるようになる。 ●学校給食の様子やわかるようになり、進んで準備する。 ●ほうきやぞうぎんの使い方を知り、掃除の仕方がわかる。 ●人の話を集中して聴こうとし返事や適切な受け答えがわかる。 ●めあてをもって課題に挑戦し、達成感を味わったり次のめあてをもちたりする。		●様々な行事や活動を通して、新しいことに積極的にチャレンジする意欲をもち、楽しんで取り組もうとする。 ●給食のマナーを知り、自分達で準備をしたり、楽しく食事をしたりする。 ●物の置き場所がわかり、整理整頓しようとする。 ●自分の思いを言葉で伝えたり、人の話を最後まで聴こうとする姿勢が見られるようになる。 ●係や当番などの自分の仕事を果たそうとする。 ●学級全体でめあてや課題に取り組み、みんなで解決していこうとする姿勢が出てくる。 ●運動会や音楽会をはじめとした初めての行事にも楽しんで取り組み、苦手なことや難しいことにも友だちと励まし合いながら挑戦できるようにする。 ●係や当番の仕事に意欲的に取り組もうとする。 ●学級や学校はみんなで使うところであることがわかり、物を大切にしようとする。 ●話の仕方や話の聴き方がわかり、学習や生活の中で実行しようとする。 ●学級や学校全体でめあてや課題に取り組み、友だちと協力しながら活動しようとする。							●1年間の自分の成長を振り返り、自分が頑張ったことや友だちのよさを認めて高め合っていく姿が見られるようになる。 ●お世話になった上級生や新しく入学してくる新入生に対して、自分の経験や思いを振り返り、自分の思いを伝えようとする。 ●進級への意欲と期待をもち一方で、緊張や不安が見られるようになる。 ●生活面・学習面で学年の締めくくりをし、定着していく。													
ねらい	●学校には、どんな場所にどんなものがあるかに気づき、学校生活の様子やわかるようになる。 ●様々な活動を通して、友だちと積極的に関わられるようになる。 ●学校や学級のきまりを守って、落ち着いて過ごすことができるようになる。		●学校の施設の様子・先生など学校生活を支えている人や友だちのことがわかり、楽しく安心して遊びや生活ができるようになる。 ●食事の量を調節したり、時間内に楽しんで食べようとする。 ●自分の分担の場所で、進んで掃除をしようとする。 ●挨拶の大切さや時と場合に応じた言葉遣い・動作がわかる。 ●友だちと一緒に課題を解決したり励まし合ったりして生活する。		●小学校での生活の流れやきまりがわかるようになり、友だちと楽しく生活しようとする。 ●食事の時間や自分の食べられる量がわかり、楽しんで給食を食べようとする。 ●掃除の手順や道具の使い方がわかり、自分の分担の場所をきれいにしようとする。 ●挨拶の大切さや時と場合に応じた言葉遣いや動作がわかり、いろいろな人と接する中で、身に付けていく。 ●学習や生活の中で、友だちと互いに助け合いながら、物事に取り組み、同じ課題やめあてに向かって努力しようとする。 ●絵本や教科書の物語に親しみ、自分なりのイメージを豊かにする。 ●あさがおの観察やお世話を通して、身近な自然に興味をもち、四季の変化を感じとることができる。 ●衣替えやプール開きなど季節によって生活の様子が変わることに気づき、自分達の生活を工夫したり楽しんだりする。 ●音楽を楽しんで聴いたり、歌ったり、表現したりする。 ●道具の正しい使い方を知り、材料や形、色から自分なりに発想し、工夫して描いたり作ったりする。 ●文字や数字に興味をもち、数を数えたり、簡単な文を書いたりして伝える楽しさを味わう。 ●様々な表現活動を楽しみ、友だちの表現のよさに気付く。 ●経験したことや感じたことなどを伝え合う楽しさを味わう。 ●行事や生活の中で、上級生に支えられていることがわかり、上級生に親しみをもち。							●1年間の学習や生活のまとめを通して、自分の成長に気づき、頑張ったことや友だちのよさを認めることができるようになる。 ●行事や交流などの経験を通して、学校生活がいろいろな人に支えられていることを知り、感謝の気持ちをもって生活できるようにする。 ●進級への意欲と期待を高めるとともに、1年間のまとめをしっかり行うことで、自信をもって1年間を終えられるようになる。													
育みたい力	(知識・技能)	●毎日同じ時間帯で生活できるようにする。 ●物の片付け、着替えを丁寧に身に付ける。 ●自分のことは自分でしようとする意欲をもち。 ●絵カードや写真などを使い、視覚的にわかりやすい掲示や教材をもとに、小学校での基本的な生活習慣を身に付ける。 ●挨拶や返事、話の聴き方の大切さがわかるようになる。 ●学校や学級での過ごし方がわかり、見通しをもって学校生活を送ろうとする。 ●学校にはどんな場所にどんなものがあるかに気づき、学校生活の様子やわかるようになる。 ●様々な活動を通して、友だちの顔と名前を覚え、友だちに積極的に関わられるようになる。		●小学校での生活の流れやきまりがわかるようになり、友だちと楽しく生活しようとする。 ●食事の時間や自分の食べられる量がわかり、楽しんで給食を食べようとする。 ●掃除の手順や道具の使い方がわかり、自分の分担の場所をきれいにしようとする。 ●挨拶の大切さや時と場合に応じた言葉遣いや動作がわかり、いろいろな人と接する中で、身に付けていく。 ●学習や生活の中で、友だちと互いに助け合いながら、物事に取り組み、同じ課題やめあてに向かって努力しようとする。 ●絵本や教科書の物語に親しみ、自分なりのイメージを豊かにする。 ●あさがおの観察やお世話を通して、身近な自然に興味をもち、四季の変化を感じとることができる。 ●衣替えやプール開きなど季節によって生活の様子が変わることに気づき、自分達の生活を工夫したり楽しんだりする。 ●音楽を楽しんで聴いたり、歌ったり、表現したりする。 ●道具の正しい使い方を知り、材料や形、色から自分なりに発想し、工夫して描いたり作ったりする。 ●文字や数字に興味をもち、数を数えたり、簡単な文を書いたりして伝える楽しさを味わう。 ●様々な表現活動を楽しみ、友だちの表現のよさに気付く。 ●経験したことや感じたことなどを伝え合う楽しさを味わう。 ●行事や生活の中で、上級生に支えられていることがわかり、上級生に親しみをもち。		●様々な学校行事を通して、新しいことや初めてのことに意欲的に挑戦し、友だちとともに練習する中で、共に励まし合いながら最後まで諦めずに活動する。 ●大きな行事の中で、学級や学年、さらには学校全体としての一体感や達成感を感じることが出来る。 ●学年や学校全体で行動するときのきまりや約束の大切さに気づき、守ろうとする。 ●給食の様子やわかり、自分達で準備したり、マナーを守りながら楽しく食事をしたりしようとする。 ●係や当番など、自分の役割を知り、それを果たすために努力しようとする。 ●学校生活や時間の流れにも十分に適應できるようになり、学級や学校への愛着を持ち始めるとともに、みんなで使う物に対しても大切にしようとする。 ●生活や学習の中で、返事や適切な受け答えなどの話の仕方に気を付けたり、人の話を最後まで聴いたり相手の目を見たりすることの大切を理解したりして身に付けていく。 ●様々な運動遊びや表現リズム遊びなどに楽しんで取り組み、イメージを豊かにしたり、友だちの動きや作品の美しさ、よさを感じたりする。 ●動植物に命があることに気づき、大切に育てようとする。 ●生活や学習の中で、めあてや課題をもって進んで活動し、友だちと協力しようとする。 ●よいことと悪いことの判断をするようになり、よいと思うことを進んで行おうとする。 ●幼稚園や保育園の子どもたちや先生と、交流する活動を通して、1年生としての自覚を深め、意欲的に学校生活に取り組もうとする。 ●行事の中で、上級生の主体的な姿や頑張っている姿を見て、憧れの気持ちをもったり、進んで活動したりするようになる。							●学習や生活の中で、1年間のまとめをする機会を設けながら、自分の頑張ったことやよかったところ、楽しかった思い出を振り返り、自己の成長に気付く。 ●友だちや周りの人の気持ちを理解しながら、友だちのよさや上級生などの優しさに気付くことができる。 ●行事や交流などの経験を通して、自分の成長に気づき、周りの人に支えられていることがわかり、感謝の気持ちをもつ。 ●2年生への準備のために、1年間の締めくくりを行いながら進級への意欲や期待を高めていく。 ●めあてをもって最後まで物事に挑戦し、達成感を味わったり、次の目標をもちたりしながら、自信をもって生活する。 ●四季の変化に気づき、楽しむことができる。 ●経験したことや感じたことなどを順序に気を付けて話したり、質問したり答えたりして、伝え合う。 ●自分なりに考えて行動し、進んで学習や活動に取り組めるようになる。 ●登下校や学校生活での安全な行動を考えたり、判断したりすることができるようになってくる。												
	(思考力・判断力・表現力等)	●スタートカリキュラム「はじめましてひらかわしよう」「ともだちをつくろう」「やくそくをまもろう」 ○入学式招待 ○入園式招待		○大芝公園交流学習 ○幼保小合同連絡協議会(平川小学校第1学年授業参観・情報交換会) ○鴻南ブロック幼保小連絡協議会		○運動会招待 ○給食試食会 ○就学時健康診断 ○鴻南ブロック幼保小連絡協議会(授業・保育参観・事後検討会・情報交換会) ○校内音楽会鑑賞交流 ○授業参観交流 ○合唱団との交流							○幼稚園との昔の遊び交流 ○仮入学 ○幼稚園保育参観 ○次年度入学予定児童に関する情報交換 ○幼保小合同連絡協議会 ○卒園式招待												
	びも向かい合う力・人間性)	●様々な活動を通して、友だちの顔と名前を覚え、友だちに積極的に関わられるようになる。 ●一緒に体を動かす時間を意図的に設け、友だちと触れ合う中でお互いに知り合う。 ●学校や学級のきまりを守り、生活の中で振り返ったり再確認したりする。 ●安全な登下校の仕方がわかり、安全に気を付けて登下校しようとする。		○スタートカリキュラム「はじめましてひらかわしよう」「ともだちをつくろう」「やくそくをまもろう」 ○入学式招待 ○入園式招待		○運動会や就学時健康診断において、園児の様子を見取り、保護者の思いを受け止めながら来年度の入学に向けて動いていけるようにしていく。また、配慮が必要な園児については、園との情報交換や共通理解を深めていき、早めに対応していくことができるようになる。 ○幼保小連絡協議会では、授業・保育参観や検討会、情報交換会を通して、各園・各小学校の取組や工夫を知り、授業改善や指導に活かすことができるようになる。							○仮入学では、模擬授業や1年生との交流を通して、園児が小学校へのイメージをもち期待を高めていけるようにする。また、児童は園児のお世話をしたり園児と遊んだりする活動を通して、自己の成長に気づき、進級への意欲がもてるようになる。												
幼保小連携	行事	○入学式 ○地区児童会 ○集団下校 ○PTA役員選出 ○家庭訪問 ○参観日 ○学級懇談会 ○平川地区民運動会		○PTA理事会 ○PTA総会 ○読書週間(10日間) 家庭での読書習慣を養う週間 ○集団下校(見守り隊との顔合わせ)		○プール開き(水泳指導では保護者も見守りに参加) ○一斉下校 ○参観日 ○学校保健委員会		○PTA理事会 ○個人懇談会		○PTA作業		○PTA理事会 ○夏休み作品展 ○一斉下校 ○秋季大運動会		○緊急時引渡訓練 ○人権参観日講演会 ○就学時健康診断 ○PTA理事会 ○集団下校 ○読書週間(10日間)		○校内音楽会 ○平川まつり ○一斉下校		○持久走大会 ○一斉下校 ○個人懇談会		○PTA理事会 ○集団下校 ○参観日		○新1年生仮入学 ○一斉下校 ○友愛セーラー ○高倉荒神祭 ○読書週間(10日間) ○学校保健委員会		○参観日 ○学級懇談会 ○PTA理事会 ○一斉下校 ○お別れ式	
保護者・地域との連携	行事	○入学式 ○地区児童会 ○集団下校 ○PTA役員選出 ○家庭訪問 ○参観日 ○学級懇談会 ○平川地区民運動会		○PTA理事会 ○PTA総会 ○読書週間(10日間) 家庭での読書習慣を養う週間 ○集団下校(見守り隊との顔合わせ)		○プール開き(水泳指導では保護者も見守りに参加) ○一斉下校 ○参観日 ○学校保健委員会		○PTA理事会 ○個人懇談会		○PTA作業		○PTA理事会 ○夏休み作品展 ○一斉下校 ○秋季大運動会		○緊急時引渡訓練 ○人権参観日講演会 ○就学時健康診断 ○PTA理事会 ○集団下校 ○読書週間(10日間)		○校内音楽会 ○平川まつり ○一斉下校		○持久走大会 ○一斉下校 ○個人懇談会		○PTA理事会 ○集団下校 ○参観日		○新1年生仮入学 ○一斉下校 ○友愛セーラー ○高倉荒神祭 ○読書週間(10日間) ○学校保健委員会		○参観日 ○学級懇談会 ○PTA理事会 ○一斉下校 ○お別れ式	
配慮事項	○家庭訪問では、学校での様子を伝えたり、保護者の思いをしっかりと把握したりして、連携を深める。 ○学級懇談会では、保護者同士がつながり合っていける場になるよう活動内容も考慮する。		○生活科でのお手伝いや夏休みの宿題等については、保護者との連携を図り、家庭でも続けて行うことができるようにしていく。		○生活科の秋見つけでは、家庭でも秋を見つけたら、秋を感じたりすることができるように、学年便り等でお知らせしながら、小学校では十分は得ることのできない経験ができるよう配慮していく。							○1年間の成長を保護者とともに感じられるように、生活科や参観日の発表会等を通して、学校と家庭が協力しながらいろいろな場面で励まし児童のよさを認め、2年生への意欲へとつなげていけるようにする。													

幼児期の終わりまでに育てほしい幼児の姿：友達の考えに触れる中で、自ら考えたり判断したりして、自分の考えをより良いものにする子供

【健】…健康な心と体 【自】…自立心 【共】…共同性 【道】…道徳性・規範意識の芽生え 【社】…社会生活との関わり 【思】…思考力の芽生え
【然】…自然との関わり・生命尊重 【数】…数量・図形、文字等への関心・感覚 【言】…言葉による伝え合い 【豊】…豊かな感性と表現

期 月	Ⅰ期		Ⅱ期		8月	Ⅲ期			Ⅳ期			
	4月	5月	6月	7月		9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
年間行事	始業式・入園式 家庭訪問 身体測定 参観日・避難訓練・ALT	給食開始 保育所交流 親子バス遠足	歯磨き集会 誕生会 プール掃除 カレーパーティ 野菜収穫・芋の苗植え 家庭教育学級①	個人懇談 セタ集会 遠足(川) プール 5年生交流 終業式 お楽しみ会	登園日	始業式 身体測定 給食開始 敬老会 運動会総練習	運動会 保育所交流 参観日 ミニ遠足 就学時健康診断 誕生会	シルエットシアター 園外保育 給食参観 誕生会 お楽しみ会 5年生交流	発表会 もちつき お楽しみ会 5年生交流 個人懇談会	始業式 給食開始 身体測定 保育所交流 初夢お楽しみ会 家庭教育学級②	豆まき 5年生交流 生野小学校予備入学 学級懇談会 誕生会	ありがとうパーティ お別れ会 卒園式・休園式
ねらい	安心感を持ち自己発揮をして過ごす時期		思いを伝え合いながら遊びを広がっていく時期		共通のイメージを持ち、思いや考えを出し合いながら遊びを進めていく時期			安心感を持ち自己発揮をして過ごす時期				
	<ul style="list-style-type: none"> ○年長としての意欲と自信を持って様々な活動に取り組む。(自) ○身近な人に親しみをもち、遊んだり会話を楽しんだりする。(共) ○気付いたことや考えたことを自分の言葉で友達に伝えたり、友達の考えを聞いたりする。(言) ○みんなで集まった時、話している人を見ながら話を聞こうとする。(言・豊) 		<ul style="list-style-type: none"> ○遊びを楽しく進めていく方法を友達と相談しながら工夫したり試したりして遊ぶ。(共) ○思ったことや考えたことを相手に伝えたり、相手の思いを聞いたりしながら遊びを進めていこうとする。(言) ○話をしている人を意識しながら話を聞き、理解しようとする。(言・豊) 		<ul style="list-style-type: none"> ○遊びや活動を進めていく中で友達と目的を持ち、実現するための方法を考えたり試したりする。(自・思) ○友達と一緒に遊ぶ中で、自分たちで遊びに必要な約束やまわりを作り、守りながら遊ぶ。(道) ○みんなで共通の話題について話し合う中で、自分の思いを伝えたり、友達の話を聞いたりし、理解しようとする。(言・豊) 			<ul style="list-style-type: none"> ○友達と同じ目的を持ち、相談したり協力したりしながら、意欲的に取り組むようになる。(共) ○自分の思いを相手に言葉で伝えていくとともに、友達の思いを受け入れながら遊びを進めていこうとする。(共・道) ○みんなの前で、思ったことや考えたことを自分なりの言葉で伝えようとするとともに、友達の話を落ち着いて聞こうとする。(豊) ○文字に興味を持ち、生活や遊びの中に入れて楽しむ。(数) 				
生きる力	<ul style="list-style-type: none"> ○気持ち良く生活するために必要な生活習慣を知り、自分でできることは自分でしようとする。【自】 ○園生活の中で、きまりの大切さに気付き、守ろうとする。【道】 ○遊具や用具の安全な使い方を知り、約束を守りながら遊ぶ。【道】 ○進んで戸外に出て、体を動かして遊ぶことを知る。【健】 ○友達と一緒に食べることを楽しむ。【健】 		<ul style="list-style-type: none"> ○1日の流れに見通しを持って活動するとともに、進んで生活習慣や生活の中でのきまりを大切にしようとする。【道】 ○友達と十分に体を動かす心地よさを味わいながら遊びを楽しむ。【健】 ○自分の課題に挑戦し、あきらめず最後まで取り組み、達成感を味わう。【自】 ○栽培物の成長に関心を持ち、収穫を楽しんだり、食べる喜びを味わったりする。【健・然】 		<ul style="list-style-type: none"> ○1日の流れが分かり、自分で考え行動する。【自】 ○生活習慣が身に付き、自分の身の回りのことを自分でする。【健・自】 ○友達と一緒に思い切り体を動かして戸外遊びを楽しむ。【健】 ○自分の課題に挑戦し、達成感や充実感を味わう。【自】 ○一定の時間内に食べることを意識しながら、友達と一緒に楽しく食べる。【健】 							
	遊びや活動の様子	<ul style="list-style-type: none"> ○自分のやりたい遊びを見つけ、友達や教師と関わりを楽しむ。【共】 ○友達と協力しながら当番活動をする。【自・共】 ○身近な人に親しみをもち、関わりを楽しむ。【社】 		<ul style="list-style-type: none"> ○友達と考えを出し合いながら遊びを進める楽しさを味わう。【共】 ○友達とイメージを共有し、目的に向かって活動することを楽しむ。【共】 ○身近な人に自ら進んで関わり、一緒に活動する楽しさを味わう。【社】 		<ul style="list-style-type: none"> ○友達と同じ目的に向かって活動することを楽しむ。【共】 ○身近な人に喜んで関わり、思いやりや親しみをもち、【社】 						
学びの芽	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な自然や動植物に触れて遊び、親しみをもち。(春の遠足、色水遊び、水遊び、飼育栽培、クッキング)【然】 ○したこと、見たこと、聞いたこと、感じたことなどを言葉で表現しながら遊ぶ。(ごっこ遊び、砂場遊び、廃材製作)【豊】 ○身近な材料や用具を使って、いろいろなものを工夫して作る。(廃材製作、砂場遊び)【自・豊】 ○季節の歌やリズム遊びを楽しんでみる。(歌、手遊び)【言・豊】 ○絵本や紙芝居など楽しんで見たり、聞いたりする。(読み聞かせ、絵本の貸し出し)【言・豊】 		<ul style="list-style-type: none"> ○身近な自然や動植物に関心を持ち、不思議さや面白さなどを友達と体験する。(野菜の収穫、秋の遠足、自然物製作、飼育栽培、虫捕り)【然】 ○友達とイメージを共有し、表現遊びを楽しむ。(運動会、発表会、ごっこ遊び)【豊】 ○友達や教師の話を注意して聞き、自分の考えを相手に伝えるように話す。(朝のひととき、帰りのひととき、活動の振り返り)【自・豊】 ○生活の中で文字や数に関心を持つ。(玉入れ、なわとび、カードゲーム、すごろく、トランプ、お弁当作り)【数・豊】 ○絵本や物語などを興味を持って聞き、想像する楽しさを味わう。(絵本の読みきかせ、絵本の貸し出し)【言・豊】 		<ul style="list-style-type: none"> ○自然との関わりの中で驚きや発見を友達と共有し、確かめたり、試したりする。(氷作り、雪遊び、春見つけ、飼育栽培)【然】 ○相手の話を聞き理解するとともに、自分の思いや考えを相手に分かるように伝える。(共同製作、活動の振り返り)【豊】 ○友達とイメージを広げながら表現することを楽しむ。(製作活動)【共・豊】 ○遊びの中で文字や数に親しむ。(読み聞かせ、お正月遊び、郵便ごっこ、お店ごっこ)【数・豊】 ○友達と気持ちを合わせて歌ったり、リズム遊びをしたりすることを楽しむ。(歌、合奏)【言・豊】 							
	連携を意図した活動	<ul style="list-style-type: none"> ○保育所・幼稚園園児・小学校児童との交流、職員同士の情報の共有や相互理解など、積極的な交流を図る。(山の田中学校区連携協議会 にじいろネット 各学期に1回) ○発達の連続性を図るため、保育所・幼稚園・小学校・中学校との連携を図る。 ○「早寝・早起き・朝ごはん・あいさつ」の定着を図るため、保育所・幼稚園・小学校・中学校との連携を図る。 		<ul style="list-style-type: none"> ○保育所・幼稚園園児・小学校児童との交流、職員同士の情報の共有や相互理解など、積極的な交流を図る。(山の田中学校区連携協議会 にじいろネット 各学期に1回) ○発達の連続性を図るため、保育所・幼稚園・小学校・中学校との連携を図る。 ○「早寝・早起き・朝ごはん・あいさつ」の定着を図るため、保育所・幼稚園・小学校・中学校との連携を図る。 		<ul style="list-style-type: none"> ○保育所・幼稚園園児・小学校児童との交流、職員同士の情報の共有や相互理解など、積極的な交流を図る。(山の田中学校区連携協議会 にじいろネット 各学期に1回) ○発達の連続性を図るため、保育所・幼稚園・小学校・中学校との連携を図る。 ○「早寝・早起き・朝ごはん・あいさつ」の定着を図るため、保育所・幼稚園・小学校・中学校との連携を図る。 						
環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ○それぞれがしたい遊びを見つけ、安心して友達と関わりながら遊べるように遊びコーナーを設定する。(造形コーナー、絵本コーナー、ままごとコーナー等) ○自分とは違う考えや気持ちがあることに気付けるよう、活動の後に振り返りの時間を設けるなど、自分の思いを話したり友達の思いを聞いたりする場を設定する。 ○園外保育を計画したり、園内の花壇や畑を整備したりするなど、身近な自然と関わるような活動場の設定し、驚きや発見など様々な心の動きを友達や保育者と交流することができるようにする。 ○1日の流れが分かるように表示し、見通しを持って生活できるようにする。 ○持ち物の整理や片付けが自分でできるように、必要な物の置き場所を分かりやすく表示する。 ○絵本コーナーを設け、落ち着いてじっくりと絵本に親しめるような雰囲気づくりをする。 		<ul style="list-style-type: none"> ○遊びの様子を見守りながら、いろいろな材料や用具を準備したり、遊びの展開を子どもと一緒に考えながら、必要な物を用意したりする。 ○季節の変化や育てている小動物・野菜など、子どもの興味や関心、疑問をすぐに調べられるよう、それらに関する絵本や図鑑を用意する。 ○活動の準備や片付けなども、自分たちで相談しながらできるよう援助するとともに、必要なものを使いやすいところに準備しておく。 ○食育活動を通して、野菜の成長、クッキング、栄養、命の大切さを体験できる場を設定する。 ○子どもの様子を見ながら、聞くことに集中できる隊形や時間を工夫する。 		<ul style="list-style-type: none"> ○絵本やすごろくなど、文字や数に興味関心が持てるように用意しておく。 ○友達よさや一緒にいこう、乗り越えられるように友達と活動する喜びや心強さなどが感じられるよう、活動を振り返る場を設定する。 ○友達と相談したり試したりしながら遊べるように、材料や用具などを準備しておく。 ○小学校の授業時間に慣れるよう、45分をイメージできるような活動を工夫する。 ○1日の流れに加えて、活動の流れをイメージできるよう、タイムスケジュールを表示する。 							
	家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭での様子を聞いたり、園での様子を伝えたりしながら、保護者との信頼関係を築いていく。 ○年長として自信を持って生活したり、行動したりしている姿を伝え、ともに成長を喜び合う。 ○早寝早起き等、生活習慣を整えていくことの大切さを伝える。 ○絵本の読み聞かせは、親子関係を深めるとともに、言葉の楽しさや面白さを感じることができることを伝え、家庭でも読み聞かせの時間を大切にしていこうように伝える。 ○支援の必要な子どもについては、保護者・関係機関・幼稚園が相互に連携を図る。 		<ul style="list-style-type: none"> ○遊びや友達関係の広がりから、気持ちの行き違いによるトラブルも増えてくるので、園での子どもの様子や話し合いの内容を保護者に伝え、理解を求めます。 ○保育参観や講演会を通して、遊びや行事など継続した活動の中で、子ども達に何を体験させたのか、どのような育ちを願っているのかを伝え、子どもの変化や成長を伝えともに喜び合う。 ○年長児は、行事をリードしていくことが多くなるので、友達と頑張ったことややり遂げた姿とともに認めていく。 ○言葉で伝える楽しさや喜びが感じられるよう、日常の言葉でのやり取りを大切にしていこう伝える。 		<ul style="list-style-type: none"> ○就学に向けて、生活リズムを整えていくことの大切さを伝え、起床・就寝・食事などの時間を見直し、規則正しい生活が送れるよう、協力を求める。 ○日常の出来事や感じたことなどを、言葉で伝える喜びが感じられるような時間や場を大切にしていこう伝える。 ○就学に向け、子どもの期待感や不安感を受け止め、安心して就学できるように子どもへのかかわり方をともに考えていく。 ○絵本の読み聞かせでは、親子の触れ合いを深めながら、言葉の楽しさや面白さが味わえるよう、親子で声に出して楽しむ経験を促していく。 						

期	Ⅰ期		Ⅱ期		8月	Ⅲ期		Ⅳ期		Ⅴ期		
	4月	5月	6月	7月		9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ねらい	【大きい組になったよ。】 ・新しい環境の中で、年長児としての自覚と喜びを味わい、生活を楽しむ。【自】 ・気の合った友達とイメージを近づけて遊びを楽しむ。【共】		【なぜだろう？不思議だな。】 ・自分の思いをもって工夫したり、試したりしながら遊ぶ。【共】 ・友達に思いを伝えながら遊ぶ。【共・言・道】			【みんなで挑戦してみようよ！】 ・戸外で体を十分に動かし、友達と一緒に遊びを進める。【健・共】 ・自分の力を発揮する心地よさを味わう。【自・豊】		【こんなのかな？やってみよう！】 ・遊びや生活の中で、共通のめあてを持ち、工夫しながら進めていく。【共・思・数】 ・自分たちで考えたことを遊びの中で表現することを楽しむ。【共・言・豊】		【もうすぐ一年生！こんなに大きくなったよ】 ・共通の目標に向かって活動し、友達の良さに気付いたり、力を合わせる充実感を味わったりする。【共・言・豊】 ・小学生になる期待を持つ。【自・社】		
目指していたこと	・遊びや生活の中で、自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせる。					・活動や遊びの中で、自分でしなければならないことを行い、諦めずにやり遂げる。				・友達の考えに触れる中で、自ら考えたり判断したりして、自分の考えをより良いものにする。		
きりん組(年長)	園内めぐり 砂遊び・だんご作り ごっこ遊び 当番活動(欠席調べ、机拭き等)	ダンゴムシ見つけ 色水・泡遊び 水遊び・夏の遊び				運動遊び・リレー遊び どんぐり拾い・秋みつけ・虫みつけ		劇遊び・表現遊び・楽器遊び		正月遊び・表現遊び お化け屋敷		
連携・接続に向けた取組	・スタートカリキュラム見直し ・幼小連携協議会	・一年生を迎える会 ・運動会練習見学会(新一年生かけこ参加)	・お招き会	・水遊び(見学会) ・五年生交流		・接続カリキュラム見直し ・一年生授業参観 ・小学校施設利用 ・幼稚園運動会(卒園児かけこ参加) ・就学時健康診断	・一年生学習発表会 ・秋のおもちやうんど	・一年生学習発表会 ・幼稚園生活発表会 ・練習鑑賞(一・五年生)	・接続カリキュラム見直し ・幼稚園生活発表会 ・練習鑑賞(一・五年生)	・幼小連携協議会	・五年生交流 ・予備入学	
(生活科中心)	すたあとぶつく ・がっこうのせいかつ ・はじめまして ・たのしいがくしゅう ・たのしいいちにち	がっこうだいすき ・がっこうがあるところ ・こつていがあるところ ・ともだちとがっこうたんけんをしよう ・たんけんしてみつけたことをはなそう	なつだあそぼう ・みんなのこうえんであそぼう ・くさばなやむしをさがそう		いきものとなかよし ・むしをさがそう ・むしとなかよくなるそう	たのしいあき いっぱい ・あきをさがそう ・こうえんであきをさがそう ・はっぱやみであきをあそぼう	つくってあそぼう ・おもちゃをつくらう ・みんなであそぼう ・あきフェスタをひらこう	じぶんのできるよ ・じぶんのいちにちをみつめよう ・じぶんでできることをしよう ・これからもつづけよう	ふゆをたのしもう ・ふゆをさがそう ・ふゆのこうえんへいこう ・そとであそぼう ・むかしのあそびをしよう		もうすぐ2ねんせい ・いちねんかんをふりかえろう ・あたらしい1ねんせいをしよう ・しょうたいしたことをふりかえろう ・ありがたう わたしたちのきょうしつ	
他学年	春だ今日から2年生 ・1年生を迎えよう	生き物なかよし大作戦(2年生 生活) ・生き物ランドをひらこう ・町探検	園児となかよし(5年生) ・一緒に遊ぼう			合奏を聞こう(4年生) ・お手本になろう	園児となかよし(5年生) ・園児に劇を見てもらおう	園児となかよし(5年生) ・園児に読み聞かせをしよう	おもちゃランド(2年生) ・園児を招待しよう	園児となかよし(5年生) ・園児に読み聞かせをしよう		
ねらい	・友達と色々な活動を通して関わり、互いの思いや考えに気付く。		・言葉を通して先生や友達と心を通わせ豊かな言葉や表現を身に付ける。			・身近な事象に思いや考えをもって積極的に関わり、工夫したり楽しんだりする経験を重ね、感じたことを表現できる。		・友達と関わり、気持ちに共感したり協力したりしながら自分で考え判断したことを自分の言葉で伝える。		・地域の人と仲良くなり、地域の良さや人々の温かい気持ちに触れる。 ・自分ができるようになったことに気づき、友達や家族に伝える。 ・自分の成長を喜び、更にチャレンジしようとする。 ・2年生への期待と展望を持ち、自信をもって生活できる。		
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学期	1学期					2学期				3学期		
交流・接続に向けての留意点	幼：日頃の遊びをいかした関わりを持つことで、幼児が期待を持ち、安心して1年生と触れ合えるようにする。 交：小学生と関わりがもてるように、幼・小それぞれの個々の育ちを考慮しながらペアリングを行う。 交：手遊びやふれあい遊びを通して、自然な関わりをもち、親しみの気持ちももてるようにする。 交：事前に教師間で話し合いを持ち、導入の仕方・環境準備・役割分担を決めておく。 交：教師が関わりモデルとなり、具体的に約束や関わり方を知らせることで、子供なりに関わりようとする気持ちをもたせていく。 交：1年生も思う存分楽しめる「遊び」の要素をもたせるようにする。 小：新しく出会う人・物・事に対して主体的・自発的に関わるよう、丁寧に子供の様子を見取り、活動内容の見直しを行う。 小：1年生としての自覚を持ち、園児に優しく接することができるように声掛けの仕方、関わり方を知らせる。		幼：園児に体験してほしいことや身に付けさせたい姿に向けての支援 交：交流時の留意点 小：児童の気持ちや育てたい姿に向けての支援			幼：幼児の言葉や動き・思いを受け止めたり、小学生に伝えるように促したりしながら自分から関わりがもてるようにする。 幼：小学校にはたくさんの先生がいることを知らせ、親しみがもてるようにする。 交：約束や関わりについては、知らせ合ったり教え合ったりする姿を認め、自分達から関わりたり守ったりする気持ちを高めていく。 交：活動に連続性をもたせ、意欲を高める。 交：わかりやすく、楽しく活動できるように、環境設定を工夫する。 小：「園児さんにたのしんでもらおう」というめあてをはっきりもち、相手意識を高めて遊びなどを工夫する。 小：つながりを築ける言葉のかけ方を考え、実際に使ってみる。 小：自分も一緒に楽しみながら、園児や自分の良さに気付けるように賞賛や励ましをする。		幼：5年生との関わりをもつことで、5年生への親しみの気持ちや入学への期待感、安心感をもたせるようにする。 幼：1年生の授業参観や施設利用(トイレなど)をすることで、小学校生活に見通しをもたせ、期待感を高めていくようにする。 交：手紙をやり取りすることで、園児や1年生のやりたいことを把握し、交流会の内容に反映させる。 交：1・5年生がリードしながら交流を進める姿を認め、園児に小学生への憧れの気持ちをもたせていく。 小：自分たちが自信を持って生活できるようになった学校生活を伝えることで、自分自身の成長に気付けるようにする。				

2 その他の地域における調査研究 ～岩国市玖珂地域による実践等～

(1) 「つながる子どもの育ち大会」とは

本県では、子どもの育ちや学びをつなぐため、幼児期の教育と小学校教育が円滑に接続し、体系的な教育が組織的に行われることの重要性を鑑み平成25年度から本大会を開催している。本大会では、幼児期と児童期を通して育てつなげるものとして、「子どもの学び」「豊かな心」「たくましい育ち」を掲げ、保育所、幼稚園、認定こども園及び小学校の教員や保育士が一堂に会し、連携の在り方や教育内容、指導方法、カリキュラム等の実践的な研究を進めている。

本年度は、玖珂地域で長年続いている保育所、幼稚園、小学校の交流の様子を通して、地域の絆きずなで子どもを見守り育てることの意義や地域内での連携体制づくりの在り方等について、さらに研修を深めたいと考え、研究主題を「つなげよう 子どもの学び・豊かな心・たくましい育ち」、副題を「地域の絆でつなぐ幼児期の教育と小学校教育」とした。

本調査研究においては、このように、発表園等を指定して、協議を行ったり講演会を行ったりする例年の取組が、どのように幼小接続に向けた理解の共有やカリキュラムの作成に効果があるのかを検証するとともに、玖珂地域における地域の実践も同じ視点から分析を行った。

(2) 岩国市玖珂地域の実践

① 岩国市玖珂地域の特色

玖珂町は岩国市の西部に位置し、四方を山に囲まれた盆地で、田畑が多く残る自然豊かな地域である。平成4年に山陽自動車道玖珂インターチェンジができたことで、利便性が良くなり若い世帯の転入が徐々に増加し、小学校2校と幼稚園2園（公・私）、保育所（私）2園の計4園で、幼保小連絡協議会を組織していた。しかし、少子化の波に押され平成29年3月に玖珂中央小学校が閉校となり、今年度から、小学校は玖珂小学校1校となった。幼稚園・保育所間の交流は、記録によると昭和49年から始まっており、これに小学校を加えた幼保小連絡協議会も昭和59年には開始されている。玖珂町では、町内の幼稚園、保育所（以下、園等とする）に在籍する園児等のほとんどが玖珂小学校へ入学するという特徴があり、就学前からの他園等との交流活動は、多くの友達と関わる機会となり、一緒に小学校へいくという意識にもつながっている。

また、玖珂地域では、過去10年間に、3名の小学校教員が幼児教育長期研修派遣教員を経験し、その教員を中心にして、幼保・小がうまくつながるための試行錯誤を繰り返してきた。その中で行ってきたことを継続、深化させていくことで、幼児期の教育と小学校教育のより滑らかな接続へとつなげることができると考えた。

②実践の内容

岩国市立玖珂幼稚園、認定こども園玖珂中央幼稚園、玖珂保育園、ルンビニ保育園（以下、これらをまとめる時には「四園」とする。また、当該四園に在籍する子供については、まとめて「園児」とする。）と玖珂小学校において以下の実践を行った。

㊦カリキュラムに位置付けた交流活動の見直し

従前より行っていた地域内の幼稚園・保育所・こども園・小学校の教職員交流会や幼保小連絡協議会において、これまで行ってきた交流活動の意義やねらいを再確認することで、よりよい連携へとつなげる方法を検討し、交流活動の深化を図る。

㊦教職員同士の関係性づくり

幼稚園・保育所・こども園・小学校の教職員交流をさらに深めるには、どのような時期にどのような場を設けることが有効であるかを検討する。

㊦子どもの育ちや学びを自然につなぐための環境づくり

幼稚園・保育所・こども園・小学校の子供たちが、交流を深めながら一人一人の子供の育ちへとつなげていけるような行事や活動を年間を通して考える。

㊦カリキュラムに位置付けた交流活動

具体的な実施内容は以下のとおりである。

第1回 1年生と年長児のふれあい活動

（生活科「ひろがれ えがお」）

玖珂小1年生の児童（3クラス）と四園の年長児がグループごとに分かれて、自己紹介、体操、校内ウォークラリー、ゲームなどを行う。



懐かしい園の先生による手遊び（各園輪番）



1年生が遊びをリード

第2回 生き生きまつりにご招待（生活科「たのしもう あき」）

四園の園児を小学校の学校行事であるお祭りに招待する。この日は、

1年生限定ではなく全学年どこでも好きなところに行って楽しめる。



お店屋さんで楽しむ



劇を楽しむ

第3回 1日入学で小学校体験（生活科「もうすぐ 2年生」）

園児が小学校入学を前にして、ランドセルを背負ってみたり、ランドセルの中のものを引き出しに入れてみたり、教科書をめくってみたり等、小学校で行う日常のことを体験する。



*このような交流活動を通して幼稚園の教員等は、1年生の成長を見ることができ、園児は、1年後の自分たちの姿を知ることができる。同時に、小学校の教員も園児の学びを知るとともに、普段は上学年の児童から世話をしてもらった側の1年生の児童も、交流活動を通じて小学生としての自覚をよリモてるようになる。

【四園年長児交流会】(場所:桜つつみ公園)

平成29年4月18日に町内の公園に集まり、四園での交流レクリエーションを行った。司会進行は輪番、内容は担当園に一任にしている。体操や手遊び、わらべうたあそび、ゲームをして、その後公園の遊具で一緒に遊んだ。1時間半程度のプログラムは、来年度一緒に玖珂小学校へ入学する仲間だと知ることによって、表情も和やかになる。「次は小学校に行くのだ」とおぼろげながら感じる様子を大切にしている。



①教職員同士の関係性づくりの取組・・・幼保小連絡協議会と職員親睦会

具体的な実施内容は以下のとおりである。

第1回 授業参観と情報交換（1学期）

小学校1年生の5時間目の授業を幼稚園の教員等が参観し、その後、児童たちの様子について情報交換を行った。幼稚園の教員等は、授業参観で実際の児童の様子を見て安心し、小学校側は、幼稚園や保育所時代の様子や幼稚園等での指導を聞くことで、今後の指導に生かすことができた。各幼稚園等での積み重ねを聞くことで、それぞれのよさも再発見することができた。

第2回 保育参観と情報交換（2学期）

保育活動（今年度は玖珂幼稚園が公開）を参観し、その後、園児たちの様子を情報交換する。小学校の教員にとっては、園児の日常を見ることができ、新たな発見があった。幼稚園の教員等にとっては、それぞれ異なるカリキュラムの確認ができ、他の幼稚園等の取組のよいところを取り入れることにもつながった。

情報交換については、小学校で約半年間過ごした1年生と新1年生になる年長児の気になる点を聞くことができ、1回目とは違った視点での情報交換となることができた。

第3回 新入学児の情報交換（3学期）

入学してくる園児たちの情報を各幼稚園等ごとに分かれて聞く。健康面・学習面・生活面から保護者情報まで細かな情報交換を行う。園児たちの様子を報告し合うことにより、つながりを強化し日々の保育・教育の参考にすることができた。

【職員親睦会】（場所：玖珂総合センター）

平成29年5月に四園の職員約30名が参加し、会食後自己紹介、ゲーム、情報交換等を行った。職員同士が顔見知りとなり、親睦を深めた。



②自然な成長をつなぐための環境づくりの取組 ・・・小学校教員の夏休み保育体験（四園）

四園の各園等へそれぞれの教員等が1日体験に出かける。異なる園等での生活を知ること、それぞれの各園等でどのような指導が行われてきたかが分かる。互いのカリキュラムの情報交換もできる。そして、小学校へ



と引き継がれることや、入学前にもう少しやっておくとよいことなどが見えてくる。それが、入学時のスタートカリキュラムの内容にも反映されている。また、1日過ごすことで幼稚園の教員等と話す時間も増え、情報交換も密になった。

③実践のまとめ

毎年恒例となっている子供同士の交流活動も、教職員同士が顔を合わせてその意義やねらいについて改めて確認したことで、一つ一つの交流活動の必要性が浮き彫りになり、より質の高い交流活動を行うことができた。今回の研究を通して、地域で子供を育てるには、まず教職員間の交流が必要であると再認識した。教職員のつながりが、子供同士や小学校とのつながりへと発展していくとも言える。お互いに顔を合わせる交流の機会を多くすればするほど、教職員同士も親しく話せるようになることも分かった。最近では、支援学級の見学や相談等も気軽に行えるようになっており、配慮の必要な子供への対応も入学前からスムーズである。また、つながりには地域性も大きく関係しており、だからこそ、地域全体で「子供の健やかな育ち」を考え、連携して取り組むことが望ましいと実感した。

平成30年4月から全面実施となる「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」では、小学校との連携・接続の重要性が強調されており、子供の資質・能力に加え「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が提示されている。これらは乳幼児期から連続して育つもので、幼児期の教育が小学校教育へと円滑に接続するためには、保育者は幼児期までの子供の育ちを小学校教員に伝え、小学校教員はそれらを踏まえて指導を行う必要がある。子供の育成には、指導者間の信頼関係と連携は不可欠となり、より一層の関係性が求められるだろう。

(3)「つながる子どもの育ち大会」における公開保育・授業及び研究協議会

第1分科会では、ルンビニ保育園、認定こども園玖珂中央幼稚園、玖珂保育園の3園による公開保育を行った。玖珂地域では、毎年地域内の4園で、小学校進学を控えた年長児の交流会を開催し、小学校進学後の円滑な交友関係の構築につなげている。今回は、その交流会の一部を3園で行った。地元の体操、手遊び、歌遊び、集団ゲームなどの様々な活動を通して、園児たちは一緒に遊ぶ楽しさを味わうとともに、友達との関わりを広げ、就学への期待感を高めることができた。

公開保育後は、幼児期の育ちや学びを小学校につなげるための手立てや、教職員の合同研修会の在り方等について研究協議を行った。

第2分科会では、岩国市立玖珂幼稚園と岩国市立玖珂小学校による公開保育・授業を行った。交流活動を通して、年長児は小学校の生活を知り、目前になった就学に向けて、安心感や自信を育むことができた。また1年生は、相手のことを意識して、温かく優しい気持ちで年長児に接することができた。

1年生はこの時期、年長児を迎えることができるように、友達と協力して交流活動の準備を行っている。そこで今回は、3学級のうち1学級は実際の交流活動の様子を公開し、残りの2学級は、交流活動に向けた準備の様子を段階的に公開することで、学びのつながりを意識できるようにした。

また、その後は、幼児期の育ちや学びを小学校へとつなげるための効果的な手立てや交流活動における成果と課題、接続カリキュラムの作成等について研究協議を行った。

(4)「つながる子どもの育ち大会」における事例発表及び講演会

◆事例発表

「つながる子どもの育ち大会」の全体会では、事例発表と講演会を行った。事例発表では、和木町立和木幼稚園が、「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続をめざして～和木学園構想から～」というテーマで、また、周南市立戸田小学校が、「つながる子供の育ちの充実～幼小連携 地域とともに～」というテーマで発表を行い、子供の育ちや学びをつないでいく在り方について研修を深めた。

◆講演会

全体会後半は、神奈川県横浜市の認定こども園ゆうゆうのもり幼保園園長 渡邊 英則 氏による講演「幼児期の育ちが小学校以上の学びを支える～今回の学習指導要領改訂、その原点は幼児期の教育にある～」を行った。

講演は、最新の国の動向や新しい要領・指針の方向性、これからの幼児期の教育と学校教育のつながりの在り方等について、保育の実践を交えながら様々な示唆に富む内容であり、参加者は実践に生かす知見を得ることができた。

(5)「つながる子どもの育ち大会」アンケート調査の結果

「つながる子どもの育ち大会」における参加者へのアンケート調査の結果を基に、研究の成果と課題をまとめる。

◆第1分科会（公開保育及び研究協議）

（問い）分科会の公開保育・授業、研究協議は参考になりましたか。

大変参考になった 28.3% 参考になった 67.9%

- ・小学校入学に向けて、各園が連携・協力しながら子供同士のつながりを育てており、各園での子供たちへの配慮や入学への意識の高さを感じた。園での取組が小学校でも生かされるよう園への理解を深め、園での活動を小学校にも工夫して取り入れていく必要があると思った。
- ・幼小連携の取組はあるが、幼保のつながりは疎かにしがちだった。就学すると他園の子供とも関わり、トラブルになることもよく耳にするので参考にしたい。
- ・小学校との縦の連携が注目される中で、ともに同じ小学校へ進学する子供た

ちの横のつながりを大切にしており、とても参考になった。

- ・ 幼保連携を通して、入学時の子供たちの不安を取り除くことができるのでよいと思った。
- ・ 連携の在り方は、地域によって差があると感じた。
- ・ 職員同士の交流が大切だと感じた。
- ・ 園で先生に受け入れられていることを、小学校の先生も受け入れることが子供の安心につながる。園と小学校との見方のズレを防ぐことが大切である。
- ・ 人と関わる力、つまりトラブルを乗り越える力や諦めない力、我慢する力や伝える力、思いやる力などを幼児期に育てておくことが最も重要なことである。

◆第2分科会（公開保育・公開授業及び研究協議）

（問い）分科会の公開保育・授業、研究協議は参考になりましたか。

大変参考になった 37.7% 参考になった 57.3%

- ・ 学校の授業の様子を参観したが、明日からの保育に生かせることがたくさんあった。
- ・ 本当のふれあい、交流、つながりとは何かを改めて考える機会となった。
- ・ 地域性を生かし、連携を取りながら取り組んでいる様子が分かった。
- ・ 子供の育ちのつながりを見ることができた。既存のものを生かし、年間計画に組み込んでおくことが大切だということが理解できた。
- ・ 幼小連携の無理のない方法、大切にすべき点が参考になった。
- ・ 一日入学の様子をじっくりと参観し、どのような時に園児や児童の表情が変わるかが分かった。
- ・ 連携の実態を見て難しさも感じた。継続することが大切であると痛感した。
- ・ 「子供たちにやりたいことを気が済むまでやらせてあげる」という担任の言葉が心に響いた。

◆事例発表

（問い）全体会の事例発表は参考になりましたか。

大変参考になった 35.8% 参考になった 58.3%

- ・ 地域の特色をうまく生かした取組が、大変参考になった。
- ・ 関係者が協力し、皆が同じ方向を向いてしっかり協議していくことが大切だと思った。
- ・ 縦、横のつながりを大切にしたいと思った。
- ・ 小学校が園の行事に便乗する方法があることを知った。小学校の施設利用についても今後検討したい。
- ・ 15年間のつながりや幼小のコミュニティ・スクールの活用などが参考になった。

◆講演会

(問い) 全体会の講演は参考になりましたか。

大変参考になった 70.3% 参考になった 27.9%

- ・「連携」と「接続」の違いが印象的だった。交流は連携のための一つの方法だと分かった。教育と教育をつなぐことこそが接続であって、交流をすることや連携をすることに話が終始してはならない。
- ・学習指導要領改訂は、小学校以上が大改革だと目が向いていたが、幼児期の教育についても小学校の教員として知っておくべきだと感じた。
- ・幼児期の教育で何を大切に育てるべきか改めて考えさせられた。幼稚園教育で大切にしてきた遊びを通した豊かな育ちを幼小の連続した学びにつなげられる幼小連携を図っていきたい。
- ・幼保小の連携ももちろん大切だが、乳幼児期の人間形成の大切さを改めて考えさせられた。非認知能力が重要視される中で、大切な乳幼児期に遊びや様々な経験を通して非認知の力を育てているかを考えることが大切である。
- ・主体的に考える力をもった人材を育てることや教員と子供が意思疎通を図り、一緒になって切磋琢磨して解を見出していく場が必要であることが分かった。
- ・スタートカリキュラムの在り方を考えさせられた。
- ・子供の育ちには、認められる経験が大切だということを再認識できた。
- ・「小学校教育がうまくいくかどうかは、幼稚園や保育所の体験次第」という言葉は、保育現場にいる者として真に感じ入る言葉だった。「幼小」を述べる時、幼保の在り方に常に焦点を当て、幼児教育が主体性をもつ発想こそ求められるということを改めて感じた。

◆考察～「つながる子どもの育ち大会」の効果～

岩国市玖珂地域では、古くから、公私を問わず幼稚園・保育所間の交流が行われ、昭和59年には小学校を加えた幼保小連絡協議会も発足しており、これまでも幼小連携が積極的に推進されている地域である。このような地域において、今年度、「つなげよう 子どもの学び・豊かな心・たくましい育ち～地域の絆でつなぐ幼児期の教育と小学校教育～」という研究主題を掲げ、「つながる子どもの育ち大会」においてその成果の一部を発表し、研究協議を行ったことは、新学習指導要領等が重視している「社会に開かれた教育課程の実現」、すなわち、社会総がかりで子供たちを育てていくことを具現化した取組であり、地域の絆で子供を見守り育てることの意義や地域内での連携体制づくりの在り方等について、様々な立場の者が大いに研修を深めることができた。

また、公開保育・授業に携わった4園1校の教職員は、子供の育ちや学びをつなげるためには、まずは教職員間のつながりをもつことが何よりも大切であると再認識するとともに、今後は、これまで行ってきた交流活動の内容をより充実させ、その年々の子供の実態に合わせて無理なく連携を継続してい

こうと心を新たにすることができた。

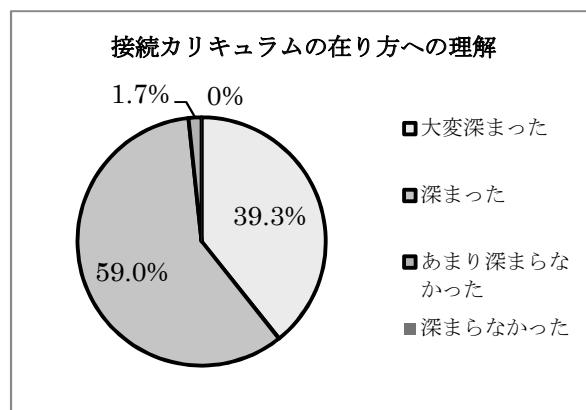
さらに、渡邊 英則 氏による講演では、「連携」と「接続」の違いや乳幼児期の重要性、学びとは何か、ドキュメンテーションの活用等、様々な視点から御教示いただき、参会者一同が、自らの保育・教育について見つめ直したり、幼保・小連携や幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続の在り方について新たな視点を得たりすることができた。

「今回の研究大会に参加されて、幼保こ・小連携や接続カリキュラムの在り方について理解が深まりましたか。」という参会者へのアンケート調査の結果からも、「大変深まった 39.3%」、「深まった 59.0%」という回答を得ることができ、本研究における本大会の役割を再確認することができた。

しかしながら、「地域の特色を生かした幼保・小連携の在り方が参考になった」、「連携と接続の違いを理解することができた」、「接続カリキュラムの必要性を痛感した」といった感想が多く見られたことから、昨年度実施した「幼児教育に係る実態調査」で、接続を見通した教育課程の編成・実施が行われている市町は県内で約3割であったという本県の実態が浮き彫りになったともいえる。今後は、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を共有するなど連携を図り、幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続を図るために努めるものとする」といった新幼稚園教育要領等の趣旨を踏まえ、連携が深まるだけでなく、「教育」と「教育」がつながるためには何が必要かということについて、さらに研究を重ね、理解を深めていく必要があるだろう。

上記のような課題はあるものの、アンケート結果や研究指定園等での取組内容を踏まえれば、都道府県として「つながる子どもの育ち大会」という大規模大会を開催し、関係者が一堂に会して幼小接続とは何かについて学び、理解を深める機会をもつことは重要だといえる。指定園等は、協議主題を設定し、幼小連携から幼小接続に向けての取組を行うことで、それまでの自らの実践について見直しを図るとともに、幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について理解を深めることができる。また、指定園以外の参会者も他園等の取組を知るだけでなく、協議内容が焦点化されることでより深い協議を行うことができる。さらに講演会も行うことで、先進的な知見を得ることができるとともに参会者の意欲向上にもつながっていることが分かる。

幼稚園関係者だけでなく保育所や小学校の関係者も含め、幼小接続についてこのような機会を設けることで、各関係者が自園等に戻った後に幼小接続に関する各取組を実施するに当たり、学校種や施設種の垣根なく前向きに行えるのではないだろうか。このような土壌づくりも必要な取組であろう。



3 先進園及び先進校視察による調査研究

幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方及び接続カリキュラム作成に関して、先進的な取組を行っている市や幼稚園、小学校を訪問するとともに、研修機関等の研修会への参加を通して、本研究につながる情報を収集した。

(1) 訪問先等

訪問日	訪問市	訪問先／参加研修	訪問・参加者
H29. 12. 1～2	広島市	平成29年度広島大学附属三原幼稚園・小学校・中学校 第20回幼小中一貫教育研究会	幼児教育長期研修派遣教員 研究協力園教諭
H29. 12. 15	京都市	京都市立伏見住吉幼稚園 平成29年度 京都市教育委員会『『豊かな学びリーディングスクール』推進事業』 研修報告会	県主査 幼児教育長期研修派遣教員
H29. 12. 15～16	横浜市	横浜市立平沼小学校 学校法人石川学園 杉之子幼稚園 「平成29年度幼保小連携フォーラム」	県指導主事 下関市教育・保育専門監 幼児教育長期研修派遣教員
H29. 12. 26	福井県	「学びをつなぐ 希望のバトン フォーラム2017」	県主査

(2) 県外研修報告（報告書より抜粋）

① 平成29年度広島大学附属三原幼稚園・小学校・中学校 第20回幼小中一貫教育研究会

- ・こま回しの交流保育・授業では、年長と1年生がペアとなり、互いに技を競い合い、励まし合い、繰り返し挑戦し続け夢中になる子供の姿が見られた。近い年齢での交流が、教え合う関係や思いの共感につながっていた。
- ・小学校教諭がT1として進めたことで、年長児が「小学校の先生」に親しむことができた。
- ・活動を通してどのような力を付けたいのかを教師がイメージしておくことで、声掛けや支援が変わる。
- ・無藤隆先生の講演では、スタートカリキュラムの中で、幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施すること、合科的・関連的な指導や弾力的な時間の設定などを行うといった、保育所や幼稚園の指導や支援の工夫を学び、取り入れていく中で、徐々に小学校の生活に慣れていけるようにすることの大切さを学んだ。
- ・天笠茂先生の講演では、カリキュラム・マネジメント力を付けていくこと、P

DCAサイクルを確立していくことの大切さを学んだ。

② 京都市立伏見住吉幼稚園

平成29年度 京都市教育委員会『「豊かな学びリーディングスクール」推進事業」 研修報告会

- ・幼稚園教諭、小学校教諭ともに、「子供たちがどのような育ちをしてきたのか・していくのか」という育ちの連続性に目を向ける意識が必要である。
- ・その年々の子供の様子を見取り、カリキュラムに具体的な手立てを加筆修正していく等の柔軟に対応していくことが大切である。
- ・幼小の教員一人一人が、互いを理解し、子供を中心に補完し合っこそ、接続カリキュラムが形になる。特定の教員だけでなく、全職員が幼小連携・接続に役割をもって密に関わっていくべきである。
- ・幼稚園と小学校が共通の研究テーマを掲げ、幼児期からの育ちや学びをエピソードとして蓄積し、さらに進学後も追跡調査研究を行っていくことの効果は大きい。
- ・幼稚園教諭と小学校教諭が、互いに保育・授業の様子を参観する機会を設定することで、協議会や情報交換会の質が高まり、その後の指導や接続カリキュラムの作成に生かすことができる。
- ・カリキュラムは、子供の顔や様子がイメージできるものでなくてはならない。また、接続カリキュラムを作成することが目的とならないよう、カリキュラムを見直し更新していくシステム作り、定期的な職員交流の機会の設定等が必要である。

③ 横浜市立平沼小学校、学校法人石川学園 杉之子幼稚園

「幼保小連携フォーラム」

- ・横浜市には、昭和60年から30年以上にわたって継続している幼保小教育交流事業の基盤があり、加えて、幼保小連携推進地区事業における各推進地域の研究と成果の普及により、着実に実績を上げている。
- ・平沼小学校と杉之子幼稚園の訪問では、小学校と幼稚園の双方から話を伺ったことで、幼と小の教育に携わる者が、互いに同じ理念のもと、子供の育ちや学びをつないでいることで成果を上げていることが分かった。
- ・スタートカリキュラムに取り組み始めてから1年生の登校しぶりが減少した。入学式の翌日に、幼稚園教諭が小学校を訪れ出前授業を行っていることも効果が大きい。
- ・小学校側には、「年長児がやってきたことを引き継ぐ」という意識をもつが大切である。
- ・幼小の円滑な接続にとって欠かせないのは、「顔の見える関係づくり」である。双方の教職員が、その場限りの関係ではなく、信頼関係のある「知り合い」になることで、互惠性のある提案や交流ができ、それが入学後の子供たちの安心感につながる。回を重ね継続していくことが何よりも重要である。

④ 「学びをつなぐ 希望のバトン フォーラム 2017」

- ・福井県では、義務教育課長がセンター長を兼任する幼児教育支援センターが中心となって、市町幼児教育アドバイザー、園内リーダーの育成及びそれらを活用して、公私校種の枠を越えた研修に取り組んでいる。その成果として、研修や協議を行う際の共通語や「学びの見取りの視点」の共有化が図られている。
- ・子供の学びを見取る力を育成するためには、「実践の語り合い」「共通語の創造」「筋立てて語る」「(人と経験を) つなぐ」ことが大切である。これらを通して、幼児教育の専門職としての力量が形成される。

(福井大学教職大学院 教授 松木健一氏)

- ・幼児教育をめぐる壁は、㊦保育所と幼稚園の壁、㊧公立と私立の壁、㊨幼児期と小学校の壁、㊩家庭環境の壁が考えられる。この中で、㊦は認定こども園により、㊧は幼児教育研修制度とアドバイザーの育成により、㊨は保育所保育指針と幼稚園教育要領により、㊩は幼児教育の無償化により、壁を取り払うことが可能である。また、そのためには、専門職のための研修システムが各都道府県及び市町に必要である。(福井大学教職大学院 准教授 岸野麻衣氏)

◆研究の成果と課題

幼児期の教育と小学校教育では、教育課程の構成原理や指導方法に大きな違いがある。したがって、子供の育ちや学びを円滑につないでいくためには、幼小間での相互理解が欠かせない。目の前の子供たちが、小学校入学までどのように育ってきたのか、また、小学校入学後はどのように育っていくのかということについて、幼稚園や小学校のそれぞれの教員がしっかりと理解し、円滑な接続ができるような環境を整えることが、連続性・一貫性のある教育を支える基盤となる。そして、円滑な接続を促進するためにも、接続のカリキュラムを作成し、実践の在り方について具体的に示していくことが重要である。

また、幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続のためには、初期段階では行政側の主導や支援が欠かせないが、各学校・施設間で連携・接続の体制を強化していくためには、管理職の関心と理解や鍵となる幼小連携担当者の存在、さらには、子供の育ちや学びをつなげよう、つなげたいという意識を、幼児期の教育と小学校教育に携わる全職員で共有していくことが重要であることも分かった。

幼小接続に係る研究指定を受ける、幼小合同の研究発表会を開催するといったことも、幼稚園と小学校の教員が同じ方向性をもって子供を育てていく上で大変有意義である。しかし大切なことは、ある一定期間にだけ幼小接続に取り組むのではなく、その意義や必要性をとらえた上で、日常的、継続的に幼小連携・接続の体制を確立させていくことであり、そのためには教職員間の「顔の見える人間関係づくり」が大きな鍵を握っている。

Ⅲ 研究の成果と課題

1 成果

2 課題と展望

1 成果

本研究を通して明らかになった成果は以下のとおりである。

○教職員間の人間関係づくりの重要性

幼稚園教育と小学校教育を円滑に接続するためには、教職員間の連携が欠かせない。まずは顔を突き合わせ、双方が顔見知りの関係になることが大切である。本年度、本調査研究に取り組むことにより、子供の育ちや学びを円滑につなげるには、大人同士のつながりに起因する部分が非常に大きいことを痛感した。互いの年間指導計画や行事予定を持ち寄り、子供同士の交流活動や教職員の合同研修会を年間計画に効果的に位置付ける、園だより・学校だよりを互いに届けるなど情報交換を密にすることが、しだいに信頼関係を生み、本音で語り合い、互惠性のある関係を築くことへとつながる。相手を尊重し互いが信頼関係で結ばれていれば、分からないことを尋ねたり、無理なことは無理だと伝えたり、協力して知恵やアイデアを出し合ったりすることができる。努力や工夫は惜しまずとも、無理や我慢を強いられることがない関係性を築くことが、よりよい連携を継続していくことにもつながるであろう。

そもそも教育課程の構成原理や指導方法が異なる幼稚園教育と小学校教育が、互いを理解し合うことは容易なことではない。しかしながら、目の前の子供たちの健やかな成長を願う気持ちは、子供の保育・教育に携わる者全てが共有できるはずである。現在、幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続の在り方が問われているが、もしも連携の体制が整っていないのであれば、まずは幼小連携から始めなければならない。連携・接続の体制づくりを丁寧に行っていくことが大切である。

また、これらの連携・接続の体制づくりに当たっては行政の適切な支援も重要である。山口県では、例年「つながる子どもの育ち大会」として、幼稚園の教員だけでなく小学校の教員や保育士など幼児期の教育の関係者が一堂に会し、協議を行ったり講演を聞いたりすることで、共通の理解を深めるとともに互いの理解も進めている。こういった取組が、実際に地域で連携・接続の体制づくりを行う上での土壌となる。また、山口県では、「幼児教育長期研修」として小学校教員を1年間幼稚園等に派遣しており、本調査研究のモデル地域でも本派遣教員が中心的な役割を果たしていた。幼稚園と小学校の両方の教育課程等に理解がある人物がいることによって連携・接続の進め方は異なってくる。

このように、各幼稚園等や小学校で連携・接続を進めるためには、それぞれの学校・地域に対する行政の支援も非常に重要である。

○「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有するよさ

各モデル地域の調査研究から、幼小の教員の合同研修会や幼保・小連絡協議会において、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点とすることにより、話し合いが活性化され、幼小間の相互理解が一層深まることが分かった。具体的には、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を基に、幼小双方の教員が、子供の育ちや学びの様子を具体的にイメージすることができた。また、それぞれのイメージを擦り合わせることで、幼稚園教育と小学校教育の共通点や相違点にも気付くとともに、各園、各校、あるいは各地域の特色や課題等も浮き彫りになり、それぞれの指導方法を見直したり、今後の展望

をもったりすることもできた。

さらに、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を取り入れた接続カリキュラムの作成に取り組むことで、「これまで子供たちはどのように育ってきたのか」、「これから子供たちはどのように育っていくのか」ということに、幼小の教員がこれまで以上に関心を持ち、幼稚園教育と小学校教育を連続性・一貫性のあるものとして捉える意識を高めることができた。

2 課題と展望

今後の課題及び展望は以下のとおりである。

○「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の可視化

今年度、各モデル地域において、幼小の教職員間で子供の成長の様子を共有するために、3歳児から6歳児（小学校1年生）までの育ちや学びの姿をつなげ可視化する方法を試みた。これは、幼稚園及び小学校の教員がこれまで実践してきた保育・教育の実践記録を根拠とし、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」それぞれについて、「～の場面のこの様子に、〇〇の姿が表出されている」と思われる具体的な場面を切り取り、年齢ごとに並べたものである。今年度取り組んだこの方法は、まだ改良の余地も多いところではあるが、幼小間だけでなく、幼幼、小小の教職員間においても、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の具体について語り合う契機となり、それぞれの姿の具体的なイメージを共有するための大きな足掛かりとなった。

今後、より効率的なフォーマットやドキュメンテーションの作成方法等についても研究を重ね、客観性、汎用性のあるものへと高めることができれば、指導要録と同様に、子供の育ちや学びをつなげる有効な資料として活用できる可能性もあるのではないかと期待している。

○接続カリキュラムのPDCAサイクルの確立

今年度、各モデル地域の研究のまとめとして、それぞれの幼稚園・小学校間の接続カリキュラムを作成した。これらのカリキュラムが真にそれぞれの地域の実情に合った有効なものであるか否かは、今後、実践の中で検証されることであろう。その結果を踏まえ、さらによりよいものにして次年度以降につなげていけるよう、接続カリキュラムのPDCAサイクルを確立することが重要である。

○地域の特徴や実情に応じた組織的・計画的な取組を継続していく体制づくり

全国の幼稚園を巡る状況としては、利便性や人口の違いだけでなく、公立幼稚園の有無や、山口県の「幼児教育長期研修」のような経験をした教員の有無等、地域によって特色や実情が異なっており、幼小連携の推進についても、それぞれの市町等が各々に工夫しながら取り組んでいるところである。このことから、今年度、山口県がそれぞれ特徴的な3地域をモデル地域に指定し、調査研究に取り組んだことは大変意義深い。今後、本研究の成果を普及することで、各地域において、本研究を手掛かりとして、地域の特徴や実情に応じた組織的・計画的な取組を継続していく体制が整い、幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続が推進されていくことを期待している。

おわりに

本委託事業では、幼児期の教育内容等の深化・充実を図ることを目的に、新幼稚園教育要領の趣旨を踏まえた幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について調査研究を行った。

その一環として訪問した横浜市では、幼稚園・保育所・小学校関係者のそれぞれの「顔の見える関係づくり」を大切にしており、その実際の姿を「幼保小連携フォーラム」において披露してくださった。横浜市の小学校の先生が、「教員同士が親しくなると、子供の見方が変わり、自ずと授業内容や子供への接し方が変わる」と話しておられたことが強く心に残っている。

山口県では、小学校の教員を1年間幼稚園へと派遣する幼児教育長期研修を実施しており、その経験者が、県内の幼小連携の推進において重要な役割を果たしている。本調査研究の歩みとともに、山口県独自の強みを生かし、今後も市町教育委員会と連携を図りながら、幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続を目指し、体制を整えていくことで、山口県はもちろん国全体の幼児期の教育の深化・充実に貢献していきたいと考えている。

最後になるが、本調査研究に当たり、快く訪問を受けてくださった、京都市教育委員会、京都市立伏見住吉幼稚園、横浜市こども青少年局保育・教育人材課、横浜市立平沼小学校、学校法人石川学園杉之子幼稚園をはじめ、御指導・御協力をいただいた皆様方に心から感謝申し上げます。

◆ 幼保・小連携のための参考

幼児教育長期研修派遣教員による実践
～平成28年度幼児教育長期派遣教員による
スタートカリキュラムの実践報告～

本資料は、平成28年度の幼児教育長期研修派遣教員が、今年度1年生担任として、昨年度作成したスタートカリキュラムをもとに実践を行ったことの報告と実際に活用したスタートカリキュラム(抜粋)です。

以下の4校について参考として掲載いたします。

- ・周南市立戸田小学校 P. 57～
- ・下松市立公集小学校 P. 62～
- ・宇部市立上宇部小学校 P. 66～
- ・下関市立川棚小学校 P. 70～

幼児教育長期研修派遣教員からの報告①～スタートカリキュラムの実践～

つながりを大切に ～もの・人・こと（学び）～

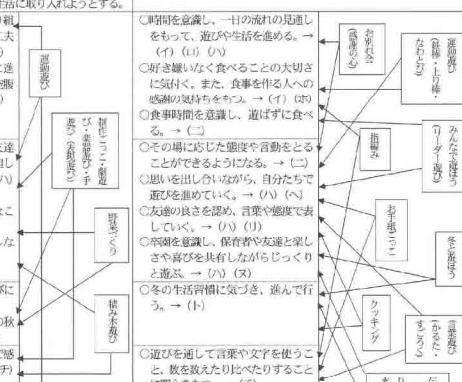
周南市立戸田小学校

○取組の成果

～アプローチカリキュラム（H28年度版）～

月	9～12月	1～3月
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> 経験したことを取り入れ、思いやイメージを出し合いながら自分たちで遊びを進めていくこととする。 トラブルが起ころうとしても、自分たちで解決しようとする。 運動遊びや勝敗のあるゲーム遊びに興味を持つようになり、挑戦意欲が芽生える。 	<ul style="list-style-type: none"> 遊びや生活に見通しをもち（回数、時間、手順など）、主体的に生活していくこととする。 友達の良い姿を受け入れ、認めたりできるようになる。 自分の好きな遊びに集中して取り組むとともに、クラス全体で行う活動にも最後まで取り組む姿が見られる。 就学への期待が高まるが、不安をもつ子どももいる。
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 友達と共通の目的に向かって、自分たちで遊びを進めていく楽しさを味わう。 繰り返して取り組むながら、やり遂げた満足感を味わう。 秋から冬の自然を遊びや生活に取り入れようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 見通しを持って生活し、その場に応じて行動する。 友達の良い姿に気付く、共に過ごす喜びを感じながら、遊びや生活を進めていく楽しさを味わう。 修了や就学に期待し、自信をもって行動しようとする。
内容的な生活態度	<ul style="list-style-type: none"> 目標をもって遊びに取り組み、繰り返して試したり、工夫したりする。→ (イ) (ロ) 運動遊びやゲーム遊びに集中して取り組み、心身よく空間感を感じる。→ (イ) (ロ) 	<ul style="list-style-type: none"> 時間を意識し、一日の流れの見通しをもって遊びや生活を進める。→ (イ) (ロ) (ハ) 好きな食べ物を食べることに大切さや楽しさを感じ、また、食事を作る人への感謝の気持ちをもち、→ (イ) (ロ) (ハ) 食事時間を意識し、遅くならないようにする。→ (ニ) その場に応じた態度や行動をとることができるようになる。→ (ニ) 思いを出し合いながら、自分たちで遊びを進めていく。→ (イ) (ロ) (ハ) 友達の良い姿を認め、言葉や態度で表していく。→ (イ) (ロ) (ハ) 卒園を意識し、保育者や友達と楽しさや喜びを共有しながらじっくりと遊ぶ。→ (イ) (ロ) (ハ) 冬の生活習慣に気づき、進んで行う。→ (ト)
人とかわわる力	<ul style="list-style-type: none"> 共通の目的に向かって友達と力を合わせ、役割を分担しながら活動を進める。→ (イ) (ロ) (ハ) (ニ) 友達の頑張る姿や得意なことなどに気付く。→ (イ) (ロ) 友達とイメージを共有しながら遊ぶ。→ (イ) (ロ) 	<ul style="list-style-type: none"> その場に応じた態度や行動をとることができるようになる。→ (ニ) 思いを出し合いながら、自分たちで遊びを進めていく。→ (イ) (ロ) (ハ) 友達の良い姿を認め、言葉や態度で表していく。→ (イ) (ロ) (ハ) 卒園を意識し、保育者や友達と楽しさや喜びを共有しながらじっくりと遊ぶ。→ (イ) (ロ) (ハ) 冬の生活習慣に気づき、進んで行う。→ (ト)
豊かな感性	<ul style="list-style-type: none"> 自然の変化に気付く、遊びに取り入れる。→ (イ) (ロ) 秋の収穫を楽しみ、実りの秋を十分に味わう。→ (イ) (ロ) 	<ul style="list-style-type: none"> 遊びを通して言葉や文字を使うこと、数を数えたり比較したりすることに関心をもち、→ (イ) (ロ) (ハ)
学ぶ意欲	<ul style="list-style-type: none"> 絵画、描画、制作などで感じたことを表現する。→ (イ) (ロ) (ハ) (ニ) (イ) (ロ) (ハ) 	<ul style="list-style-type: none"> 遊びを通して言葉や文字を使うこと、数を数えたり比較したりすることに関心をもち、→ (イ) (ロ) (ハ)
家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 園外保育に出かけ、秋から冬の自然に触れる機会をもつ。 懇談会を通して、成長発達につながる時期の特徴（トラブルが持つ意味等）について伝えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 就学前の心構えや身につけておきたい生活習慣などをわかりやすく伝え、不安を取り除いていく。
幼小連携	<ul style="list-style-type: none"> 小学校の校庭に行き、進んでみることで、小学校の楽しさを感じ取れるようになる。 小学校に行つて小学生と交際することで、小学校の雰囲気や上級生に親しみをもちようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 一日入学を通して、子どもが小学校の楽しさを感じ取れるようになる。 小学校について話したり聞いたりする中で、就学への関心が高まるようになる。 幼小連携協議会を通して、子どもたち一人ひとりの様子を引き継ぐ。
行事	<ul style="list-style-type: none"> 始業式・運動会・敬老会・避難訓練・みのりフェスタ・防火防災・手振り・就学準備・わくわく発表会・個人懇談・保護者会・終業式 	<ul style="list-style-type: none"> 始業式・親子園芸・一日入学・幼小連携協議会・シルエット制作・お別れ会・修了証書授与式

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」につながるイメージで作成。
 ※具体的な活動内容を入れることで、子供の実態や担任の思いを反映しやすくなった。



～接続カリキュラム（H28年度版）～

学年・月	年長組・9～12月	年長組・1～3月
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> 経験したことを取り入れ、思いやイメージを出し合いながら自分たちで遊びを進めていくこととする。 トラブルが起ころうとしても、自分たちで解決しようとする。 運動遊びや勝敗のあるゲーム遊びに興味を持つようになり、挑戦意欲が芽生える。 	<ul style="list-style-type: none"> 遊びや生活に見通しをもち（回数、時間、手順など）、主体的に生活していくこととする。 友達の良い姿を受け入れ、認めたりできるようになる。 自分の好きな遊びに集中して取り組むとともに、クラス全体で行う活動にも最後まで取り組む姿が見られる。 就学への期待が高まるが、不安をもつ子どももいる。
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 友達と共通の目的に向かって、自分たちで遊びを進めていく楽しさを味わう。 繰り返して取り組むながら、やり遂げた満足感を味わう。 秋から冬の自然を遊びや生活に取り入れようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 見通しを持って生活し、その場に応じて行動する。 友達の良い姿に気付く、共に過ごす喜びを感じながら、遊びや生活を進めていく楽しさを味わう。 修了や就学に期待し、自信をもって行動しようとする。
内容的な生活態度	<ul style="list-style-type: none"> 目標をもって遊びに取り組み、繰り返して試したり、工夫したりする。→ (イ) (ロ) 運動遊びやゲーム遊びに集中して取り組み、心身よく空間感を感じる。→ (イ) (ロ) 	<ul style="list-style-type: none"> 時間を意識し、一日の流れの見通しをもって遊びや生活を進める。→ (イ) (ロ) (ハ) 好きな食べ物を食べることに大切さや楽しさを感じ、また、食事を作る人への感謝の気持ちをもち、→ (イ) (ロ) (ハ) 食事時間を意識し、遅くならないようにする。→ (ニ) その場に応じた態度や行動をとることができるようになる。→ (ニ) 思いを出し合いながら、自分たちで遊びを進めていく。→ (イ) (ロ) (ハ) 友達の良い姿を認め、言葉や態度で表していく。→ (イ) (ロ) (ハ) 卒園を意識し、保育者や友達と楽しさや喜びを共有しながらじっくりと遊ぶ。→ (イ) (ロ) (ハ) 冬の生活習慣に気づき、進んで行う。→ (ト)
人とかわわる力	<ul style="list-style-type: none"> 共通の目的に向かって友達と力を合わせ、役割を分担しながら活動を進める。→ (イ) (ロ) (ハ) (ニ) 友達の頑張る姿や得意なことなどに気付く。→ (イ) (ロ) 友達とイメージを共有しながら遊ぶ。→ (イ) (ロ) 	<ul style="list-style-type: none"> その場に応じた態度や行動をとることができるようになる。→ (ニ) 思いを出し合いながら、自分たちで遊びを進めていく。→ (イ) (ロ) (ハ) 友達の良い姿を認め、言葉や態度で表していく。→ (イ) (ロ) (ハ) 卒園を意識し、保育者や友達と楽しさや喜びを共有しながらじっくりと遊ぶ。→ (イ) (ロ) (ハ) 冬の生活習慣に気づき、進んで行う。→ (ト)
豊かな感性	<ul style="list-style-type: none"> 自然の変化に気付く、遊びに取り入れる。→ (イ) (ロ) 秋の収穫を楽しみ、実りの秋を十分に味わう。→ (イ) (ロ) 	<ul style="list-style-type: none"> 遊びを通して言葉や文字を使うこと、数を数えたり比較したりすることに関心をもち、→ (イ) (ロ) (ハ)
学ぶ意欲	<ul style="list-style-type: none"> 絵画、描画、制作などで感じたことを表現する。→ (イ) (ロ) (ハ) (ニ) (イ) (ロ) (ハ) 	<ul style="list-style-type: none"> 遊びを通して言葉や文字を使うこと、数を数えたり比較したりすることに関心をもち、→ (イ) (ロ) (ハ)
家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 園外保育に出かけ、秋から冬の自然に触れる機会をもつ。 懇談会を通して、成長発達につながる時期の特徴（トラブルが持つ意味等）について伝えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 就学前の心構えや身につけておきたい生活習慣などをわかりやすく伝え、不安を取り除いていく。
幼小連携	<ul style="list-style-type: none"> 小学校の校庭に行き、進んでみることで、小学校の楽しさを感じ取れるようになる。 小学校に行つて小学生と交際することで、小学校の雰囲気や上級生に親しみをもちようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 一日入学を通して、子どもが小学校の楽しさを感じ取れるようになる。 小学校について話したり聞いたりする中で、就学への関心が高まるようになる。 幼小連携協議会を通して、子どもたち一人ひとりの様子を引き継ぐ。
行事	<ul style="list-style-type: none"> 始業式・運動会・敬老会・避難訓練・みのりフェスタ・防火防災・手振り・就学準備・わくわく発表会・個人懇談・保護者会・終業式 	<ul style="list-style-type: none"> 始業式・親子園芸・一日入学・幼小連携協議会・シルエット制作・お別れ会・修了証書授与式

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」へアプローチする幼稚園とそこからスタートする小学校をイメージして作成。

第1学年・4～7月	第1学年・9～12月	第1学年・1～3月
<ul style="list-style-type: none"> 小学校生活という新しい環境に対して、期待と不安が併存する。 学校生活が活発になり、人間関係が少しずつ形成されるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事や集会活動などを通して、多くの人と元気に活動できる。 学習や生活に対する積極性を生かし、進んで友達に関わろうとする姿が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 一年間の学びを振り返り、新しい学年に挑戦する喜びをもつようになる。 お世話になった上級生や新入生に対して、思いを持ち行動するようになる。
<ul style="list-style-type: none"> 初めてのことに、進んで取り組もうとする。 先生に慣れ、上級生の児童たちと仲よく生活しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 多くの経験や体験を通じて、自分の力を果たしながら生活しようとする。 学習や生活において、自分で考えた、上手に友達に伝えようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 一年間の学習や生活のまとめを通して、自分の成長を自覚する。 行事や交流の経験を生かし、相手とのことを考えて行動する。
<ul style="list-style-type: none"> 小学校での生活の流れが分かり、見通しをもって学校生活を送る。 個々の役割や生活の仕方が分かり、学校生活に慣れていく。 身の回りの物を整理整頓する。 掃除の手順や道具の使い方が分かる。 約束やまわりを守る必要に気付く。 場や活動に応じて行動する。 みんなであそぶことや遊ぶのが分かり、それらを大切に使う。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の合った言葉を話し、時間内に楽しんで学校生活を送る。 活動内容に応じて自分で衣服を調節する。 必要に応じて身体を清潔にする。 様々な運動遊びや表現力と遊びながら楽しんで取り組む。 様々な場面での、よいことと悪いことの区別をし、悪いこととはお断り、よいことを進んで行う。 場に応じた話し方や聞き方が分かり、人の話を最後まで聞いたり、相手に伝わるように話したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分なりに考えて行動し、進んで学習や活動に取り組む。 いろいろなことにチャレンジし、いろいろな人と関わり、いろいろなことを知り、感謝の気持ちをもつ。 四季の自然の変化に気付く、楽しむ。 経験したことを感じたことなどを、話し合う楽しさを味わう。 学級集会で、1年間の成長と2年生への準備について話し、→ (イ) (ロ) (ハ) (ニ) (イ) (ロ) (ハ) (ニ) 昔の遊びや交流を通して、地域の人々といっしょに活動をもつ。
<ul style="list-style-type: none"> 自然物を見たり触れたりして、自然の美しさや不思議さに関心をもち、絵本に親しみ、想像を広げたり、心動かされたりする。 文章を読んだり書いたりする。 数感感覚を豊かにし、基本的な図形の特性が分かる。 家庭訪問を通して、家庭の様子を知り、指導に活かす。 校外学習に出かけ、学校のまわりの様子について知る機会をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 動物園や自然館などに遊び、大のこころを動かされたり、友達や先生の作品の美しさやよさを感動したりする。 文章を読んだり書いたりする。 数感感覚を豊かにし、基本的な図形の特性が分かる。 家庭訪問を通して、本人の成長や指導について伝え、共有する。 遠足に出かけ、自分たちの生活を支える人々について知る機会をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達や周りの人の気持ちを理解し、思いやりのある行動をする。 周りの人々に支えられていることを知り、感謝の気持ちをもつ。 四季の自然の変化に気付く、楽しむ。 経験したことを感じたことなどを、話し合う楽しさを味わう。 学級集会で、1年間の成長と2年生への準備について話し、→ (イ) (ロ) (ハ) (ニ) (イ) (ロ) (ハ) (ニ) 昔の遊びや交流を通して、地域の人々といっしょに活動をもつ。
<ul style="list-style-type: none"> 在籍児童の各出身園に、年度始めの参観日についての案内を送り、小学校入学後の様子を参観していただく機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 就学準備健康診断を通して、来年度入学生に必要事項の記入を促す。 遠足に出かけ、自分たちの生活を支える人々について知る機会をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 新入生一日入学で新入生とふれあう機会を設けることで、学年が上がることへの期待がもてるようになる。 幼小連携協議会を通して、子どもたちの様子を引き継ぐ。
<ul style="list-style-type: none"> 入学式・身体測定・各種検診・家庭訪問・1年生を迎える会・プール開き・保護者会・終業式 	<ul style="list-style-type: none"> 始業式・夏休作品展・秋の大運動会・入籍教育参観日・遠足・ゲーム集会・校内参入式・個人懇談会・終業式 	<ul style="list-style-type: none"> 始業式・入学式・新入生歓迎会・新入生参観日・遠足・ゲーム集会・校内参入式・個人懇談会・終業式

～H29 年度スタートカリキュラムの工夫～

◆合科・関連的な学習 (生活科と国語科と音楽科を1単位時間に実施した例)

①♪「ぞうさんのさんぽ」→②♪「つながったつながつた」→③「よろしくね」
♪「てとてであいさつ」 ♪「なかよしじゃんけん」 ④「みんななかよし」



① ぞうさんになつて、さんぽ。(一人→二人組)



② 握手をして、あいさつ。(二人組→全体で輪)
③ お隣さんの手・耳・肩・ひざ・鼻をトントン。



③ ぐるぐるチームとえいえいチームに分かれて、じゃんけん対決。(グループ)



④ 自己紹介をしながら、友達シール集め。(参観日だったので、保護者シール集めも。)

◆場(環境)の設定

【図画工作科】

「いろいろな はこから」



学習で使った廃材を取っておき、雨の日の教室遊びに。



【図画工作科】

「すなや つちと なかよし」



学習後も、休み時間に自由に遊べるように、砂場セットを常設。



【生活科】

「なつだ、とびだそう」



学習後、教室前のペランダに設置。休み時間には、異学年交流の場に。



※疲れが見え始める5・6月に、園を懐かしむ活動を実施した。

【教室の席】 ※授業に合わせて隊形を変え、様々な友達と関われるようにした。



基本の形



○課題と展望

小学校に様々な園から、子供たちが集まってくるため、生活経験も様々である。今後、それぞれの出身園と小学校のカリキュラムを共有し合うことが必要になってくるのかもしれない。また本校の場合、三つの小学校が一つの中学校に進学する。低学年のうちから、小小連携にも力を入れておくことが、小学校卒業後の子供たちの生活につながるのだと考える。

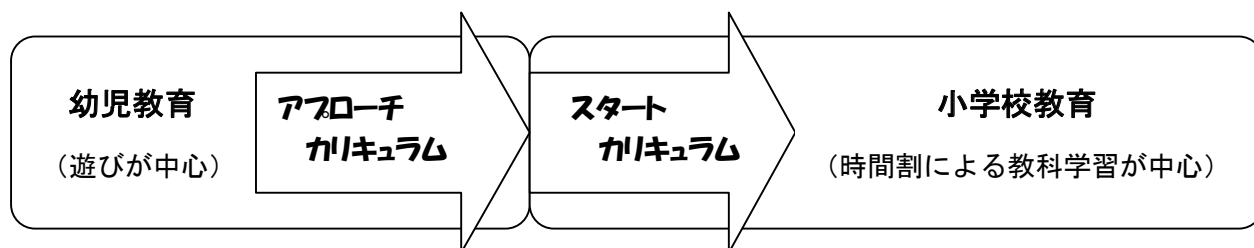
平成29年度 スタートカリキュラムについて

平成29年4月

1 スタートカリキュラムとそのねらい

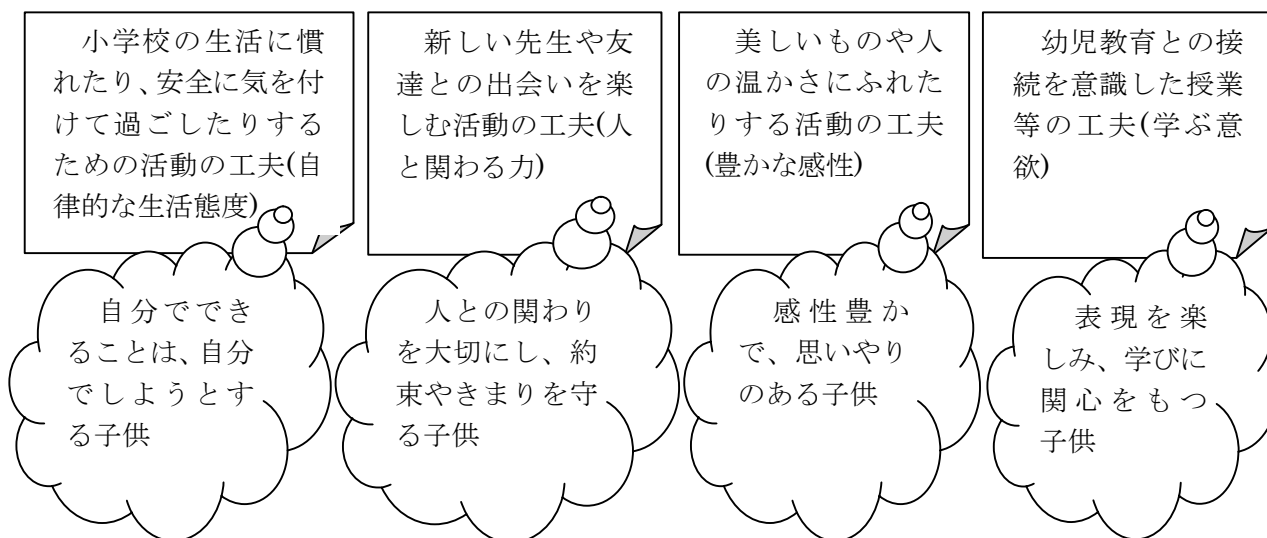
「スタートカリキュラム」とは、小学校に入学した児童がスムーズに学校生活へ適応していけるように編成した第1学年入学当初の指導計画のことである。(また、「アプローチカリキュラム」とは、小学校の学習や生活に滑らかに接続できるよう工夫した年長組後半の指導計画のことである。)

児童は幼児期に、遊びを中心とした生活を体験してきている。それが小学校に入学すると、時間割による教科学習中心の生活へと移行する。その円滑な適応を促すために、遊びの要素と教科学習の要素の両方を組み合わせ、合科的・関連的な学習を行ったり、45分の授業を20分や15分程度のモジュールで時間割を構成したりする、学習プログラムのことである。



児童一人一人が学校生活に意欲と安心感をもち、幼児教育から小学校教育への円滑な接続をもたらすためには、スタートカリキュラムを工夫することが重要である。

2 スタートカリキュラムの工夫と育てたい子どもの姿



3 スタートカリキュラム実施上の留意点

- (1) 近隣の幼稚園や小学校と連携、協力する。
- (2) 学校全体での取組とする。
- (3) 合科的・関連的な指導の充実を図る。
- (4) 授業時間や学習環境を工夫する。
- (5) 保護者への適切な説明を行い、連携を図る。

本紙は4月の初めスタートカリキュラムへの理解促進のために、校内の教職員に配付したものである。

スタートカリキュラム 第2週 (2/8週目)

テーマ ○ねらい	「友達をつくって、いっぱい遊ぼう」 ○友達の名前を覚えて、仲よく過ごすことができる。				
月/日 (曜日)	4/17 (月)	4/18 (火)	4/19 (水)	4/20 (木)	4/21 (金)
朝の支度 (7:40~8:10) 朝自習 (8:15~8:30) 朝の会 (8:30~8:40)	朝の支度(ランドセルの片付け、連絡帳の提出)を自分でする。*6年生手伝い				
	・読書	・フリートーク (校長先生)	・算数チャレン ジ	・読書	・国語チャレン ジ
	・朝のあいさつと健康観察を行う。				
1校時 (8:40~9:25)	国語 「はきはきあ いさつ」	算数 「かずとすう じ」	国語 「じをかこう」 ・字を書く姿勢 ・鉛筆の持ち方	図工 「じぶんのか お」 ・クレヨン	国語 「あいうえお のうた」 ・音読
2校時 (9:30~10:15)	視力・聴力検査 ・検査の受け方 ・待つ態度	体育 「ならびっこ」 ・2列→4列 ・座り方、休め	生活 「みんななか よし」 ・校長室探検	図工 「しんぶんの ふくろ」 ・のり	算数 「かずとすう じ」
3校時 (10:35~11:20)	算数 「かずとすう じ」	音楽 「うたでなか よしになろう」 ・校歌 ★	体育 「おにごっこ」 *2年生と ★	算数 「かずとすう じ」	音楽 「うたでなか よしになろう」 ・あいさつ ★
4校時 (11:25~12:10)	学活 「なんでもた べよう」 ・給食の支度	国語 「よろしくね」 ・話型提示 ★	学活 「ぞうきんの つかいかた」 ・3拍子拭き	国語 「ほんがたく さん」 ・図書室	書写 「はじめのれ んしゅう」
給食 (12:10~12:50) 昼休み (12:50~13:35) そうじ (13:35~13:50)	4校時を早めに終わり、給食の準備をする。(当番:Aグループ) *6年生手伝い ・配膳室の場所、号令・配膳・後片付け(牛乳パックたたみ)の仕方、返却の場所				
	・外遊び [昼休み後、下 校]	・外遊び [昼休み後、下 校]	・外遊び	・外遊び ・教室そうじ *5年生と	・外遊び ・教室そうじ *5年生と
5校時 (13:55~14:40) 水…(13:35~ 14:20)			地区児童会 (班長の迎え) ・安全な登下校 ★ 【集団下校】	道徳 「たのしいが っこう」	生活(音・国) 「みんな な かよし」(授業 参観) ★ →園に案内
ポ イ ン ト	★各教科の時間に、友達同士がふれあう場面を設定し、友達の名前や好きなものが分かり、仲良く 過ごせるようにする。2年生とも、顔合わせをする。 ・6年生の力を借りながら、朝の支度や給食の準備・後片付けの仕方が覚えられるようにする。食 べる量については、自分の適量が理解できるようにする。(毎月20日頃、誕生会給食)				

スタートカリキュラム 第8週 (8/8週目)

テーマ ○ねらい	「様々な場所で、いろいろな人と、ふれあおう」 ○学級以外の場所で、学級や学校以外の方と、楽しく活動することができる。					
月/日 (曜日)	5/29 (月)	5/30 (火)	5/31 (水)	6/1 (木)	6/2 (金)	
朝の支度 (7:40~8:10) 朝自習 (8:15~8:30) 朝の会 (8:30~8:40)	地域(ことぶき会)の方と一緒に。	・学習用具の整理整頓、提出物(連絡帳、宿題、その他)の確認				
1校時 (8:40~9:25)		生活 「芋の苗を植えよう」(畑) ★	国語 「ことばあそび」 ・しりとり	図工 「いろいろなはこから」◎ (図工室) ★	国語 「あひるのあくび」 ・音読	
2校時 (9:30~10:15)		生活 「芋の苗を植えよう」(ふり返り)	音楽 「リズムをうたう」 ♪しろくまのジェンカ	図工 「いろいろなはこから」◎ (図工室) ★	音楽 鍵盤ハーモニカ教室 ★	
3校時 (10:35~11:20)		算数 「いろいろなかたち」 ・形を写して	体育 「ボール投げゲーム」 ・ころがしドッチ	算数 「ふえたりへったり」 ・エレベーターごっこ	体育 (体重測定) 「ボール投げゲーム」	
4校時 (11:25~12:10)		外国語 「じぶんのなまえ」(音楽室) トラヴィス先生 ★	算数 「いろいろなかたち」 ・ワーク	国語 「ことばあそび」 ・クロスワード	生活 「おおきくなあれ」 ・肥し、支柱	
給食 (12:10~12:50) 昼休み (12:50~13:35) そうじ (13:35~13:50)		トラヴィス先生と給食。	・給食の準備、後片付け			
5校時 (13:55~14:40) 水…(13:35~14:20)		学活 「かんしゃのきもち」	国語 「ほんがたかさん」(図書室)	道徳 「ふしぎなたね」	算数 「いくつといくつ」 ・テスト	
帰りの会 (幼小連携運営協議会)						

ポイント
★畑で地域の方と、音楽室で英語の先生と、教室で鍵盤ハーモニカの先生とふれあったり、図工室で学習したりと、学習の場や一緒に学習する相手を広げる。
◎算数科の「いろいろなかたち」と関連。疲れが見られるこの時期に園の生活を思い出させる。
◆そうじ場所に自分で行って帰ることで、自立を促す。

幼児教育長期研修派遣教員からの報告②～スタートカリキュラムの実践～
幼児期の姿を知ってこそ意味のあるスタートカリキュラム
下松市立公集小学校

○取組の成果

幼稚園の研修で、子供の力を信じて任せること、子供たちが自発的にやってみたくなる環境構成の大切さを学んだ。以下の2点について意識して、4月からの実践をした。

安心できる人・物・場

幼児は、大好きな先生や友達という人、遊具やおもちゃなどの物、自然環境などに自ら働き掛けて、様々な環境と関わりながら会話を楽しんだり、物事を追求したりして遊びに没頭している。挑戦する心、諦めない心などの非認知的能力が養われている。小学校教員は幼児の実態や経験、育ちを知っておく必要がある。

① 担任とのふれあい

挨拶・明日への期待と見通しをもてる発言・すぐできる遊び・読み聞かせ

② グループの机（4人向かい合わせ）での学習

【児童の反応】

- ・幼・保のときと同じで安心する。
- ・少しのことでも、友達に聞きやすいし話しやすい。
- ・友達のしていることが分かって安心できるし、真似ることができる。

③ いろいろな人と関わる場

【異学年との関わり】

○6年生との関わり

入学式

掃除の手伝い（下校後の掃除・掃除の手本・助言）

1年生と6年生で遊ぼう（6年生の企画による）

○5年生との関わり

給食の手伝い（配膳・片付け・見守りなど）

○2年生との関わり

生活科の学校探検

遠足でのウォークラリー

○全校児童との関わり

1年生を迎える会（準備・自己紹介・ゲーム）

なかよし班活動（遊び・掃除）

○高学年との関わり

委員会のお知らせ 委員会の企画による昼休みの遊び

○いろいろな教師との関わり

なかよし班活動 特別授業 自習時の監督

知っている安心感

上級生への憧れ

これからの自分

児童の思いや経験を生かしたり、意見が尊重されたりする場

① 係活動（上級生の係を参考に）

もっと楽しくよい学級にするために、自分にできることを考えて進んで仕事をする。仕事内容や方法を工夫することができる。

② 生活科を中心とした各教科での発表の工夫

発表に向けて生活科と合科的に扱うことで、時間的にもゆとりが生まれ、文に書く、絵でまとめる、実際にしてみせる、劇にしてみせる、写真を用いるなど発表方法を工夫することができた。互いを知る楽しさも感じていた。

③ 学級会の話合い活動（例：お楽しみ会、みんな遊びなど）

学級会で、自分たちのことを自分たちで決めて実行することを多くの子供が好む。順番に司会などの役割があるが、何かを任されることがとてもうれしいようだ。普段発表しない子供が生き生きと意見を出している。

児童は今までの経験や上級生にしてもらったことをもとに工夫することができた。様々な経験をしている子供ほど、自分の力を発揮することができている。

○課題と展望

・時間の感覚

4月は短縮授業が多く、不規則な時程が続いた。小学校の時程やチャイムの合図を徹底させようと声掛けをしたが、ゆとりをもち時間を掛けて、「時間内にできた」という体験を児童に積ませるほうがよいかもしれない。活動の切り替えに読み聞かせなどを活用すると、気持ちの切り替えが苦手な児童も負担が少ない。

・知っていることを増やす

入学直後には、多くの先生、学年全体の先生と触れ合うことのできる機会を設けると、知っていることが増え児童が安心して、興味をもって学校生活を送ることができる。子供同士の交流や就学時健診などもよい機会になる。

・幼・保・小の大人の連携

児童を見る視点の違いがあることを認識する必要がある。引き継ぎの仕方や内容を共通理解してくるとよい。現状だけでなく、少し前の状態とできるようになった過程を聞いておくとよい。入学後に交流会を行い、気軽に質問し合える関係を作っておき、「この方法ならできる」などの園の先生の意見も聞きたい。可能であれば、定期的に幼・保を見学して、成長の過程を知ることでも必要ではないか。

幼・保：慣れた環境で数年かけて育ってきた完成形（〇〇ができるようになった）の姿をイメージしている。

小学校：新しい環境でも、今本当にできていることからスタートしている。

スタートカリキュラムは単なる日課表ではない。このような活動の方が興味深く取り組むことができるからとか、すでにこのような力が身に付いているからこの活動ではこんな力を育てたいなど、具体的な児童像が念頭にあれば、同じカリキュラムを実施していても子供の力を生かすことができるはずである。

公集小学校 スタートカリキュラム (合科的な学習、幼・保で培った力を生かして)

【幼児教育】 幼児期の終わりまでに育ってほしい力 ○健康な心と体 ○自立心 ○協同性 ○道徳性・規範意識の芽生え ○社会生活との関わり ○思考力の芽生え ○自然との関わり・生命尊重 ○数量・図形、文字等への関心・感覚 ○言葉による伝え合い ○豊かな感性と表現			
【小学校】 主に日常生活から身近な社会生活を送るにあたり必要となる資質・能力 ○知識・技能 ○思考力・判断力・表現力等 ○学びに向かう力、人間性			
4月	5月	6月	7月
【せんせいや しょうがっこうと なかよし】 いろいろなひとや ばしょと なかよくなるろう (読み聞かせ・手遊び・ゲームなどを取り入れて)			
(生活) げんきにがっこうにいけるかな (入学式の日でもよい)	(生活) がっこうたんけんにいこう	(行事) えんそく	(生活) おきにいりのばしょをおしえよう (国語) えにつきをかこう
<ul style="list-style-type: none"> ・自立心 ・道徳性・規範意識の芽生え ・思考力の芽生え 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳性・規範意識の芽生え ・社会生活との関わり ・思考力の芽生え ・言葉による伝え合い ☆2年生との関わり ☆いろいろな教師との関わり 	<ul style="list-style-type: none"> ・協同性 ・道徳性・規範意識の芽生え ・社会生活との関わり ・自然との関わり・生命尊重 ・言葉による伝え合い ☆2年生との関わり 	<ul style="list-style-type: none"> ・協同性 ・思考力の芽生え ・自然との関わり・生命尊重 ・数量・図形、文字等への関心・感覚 ・言葉による伝え合い ・豊かな感性と表現
(生活) がっこうのいちにちはどうなっているかな	(生活) たんけんしたことをみんなにはなそう (国語) ともだちにはなそう	(学活) 6さいきゅうしのみがきかた	
<ul style="list-style-type: none"> ・健康な心と体 ・自立心 ・道徳性・規範意識の芽生え ・思考力の芽生え 	<ul style="list-style-type: none"> ・協同性 ・思考力の芽生え ・言葉による伝え合い ・豊かな感性と表現 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康な心と体 ・自立心 ・思考力の芽生え ☆養護教諭との関わり 	
(道徳) あるひのきょうしつ	(行事) 1ねんせいをむかえるかい	(学活) 6ねんせいとあそぼう	
<ul style="list-style-type: none"> ・協同性 ・道徳性・規範意識の芽生え ・思考力の芽生え ・言葉による伝え合い 	<ul style="list-style-type: none"> ・協同性 ・社会生活との関わり ・思考力の芽生え ・言葉による伝え合い ・豊かな感性と表現 ☆全校児童との関わり 	<ul style="list-style-type: none"> ・協同性 ・思考力の芽生え ・言葉による伝え合い ・豊かな感性と表現 ☆高学年への親しみ・憧れ ☆自尊感情 	
きゅうしょく・そうじ			
<ul style="list-style-type: none"> ・自立心 ・協同性 ・道徳性・規範意識の芽生え ☆高学年との関わり ☆自尊感情 			

4月	5月	6月	7月
【ともだちと なかよし】 じぶんのことを はなそう ともだちのことを しよう			
<p>(国語) よろしくね じをかこう (音楽) ぞうさんのさん ぽ・てとてであ いさつ (算数) 5までのかず</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協同性 ・言葉による伝え合い ・豊かな感性と表現 ・数量・図形、文字等への関 心・態度 	<p>(道徳) みんななかよし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協同性 ・道徳性・規範意識の芽生え ・社会生活との関わり ・言葉による伝え合い ☆遊びのルール ☆共感された経験 	<p>(国語) こんなことしたよ (生活) たのしかったこと をつたえよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思考力の芽生え ・自然との関わり・生命尊重 ・言葉による伝え合い ・豊かな感性と表現 	<p>(学活) おたのしみかいのけ いかくをたてよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立心 ・協同性 ・思考力の芽生え ・言葉による伝え合い ・豊かな感性と表現 ☆主体的に意見を出す ☆経験から遊びを発展させる
<p>(図工) おって チョキチ ヨキ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思考力の芽生え ・数量・図形、文字等への関 心・態度 ・豊かな感性と表現 ☆幼・保での経験 ☆試行錯誤 ☆友達との関わり 	<p>②(学活) 1がっきのかか りをきめよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立心 ・協同性 ・道徳性・規範意識の芽生え ・思考力の芽生え ・言葉による伝え合い ☆責任感 ☆自尊感情 	<p>(道徳) ふわふわことば ちくちくことば</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協同性 ・道徳性・規範意識の芽生え ・言葉による伝え合い ☆互いのよさ ☆認め合える場 	<p>(学活) おたのしみかいを しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立心 ・協同性 ・道徳性・規範意識の芽生え ・思考力の芽生え ・言葉による伝え合い ・豊かな感性と表現 ☆達成感 ☆学級のまとまり ☆工夫することの楽しさ
		<p>(図工) すなやつちで (生活) みんなのあそび ばでたのしもう みずやつちであ そぼう (体育) みずあそび</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康な心と体 ・協同性 ・思考力の芽生え ・自然との関わり・生命尊重 ・言葉による伝え合い ・豊かな感性と表現 ☆幼・保での遊びの経験 ☆新しい仲間作り 	
		<p>(学活) あめのひのたのし いあそびをかんが えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康な心と体 ・協同性 ・道徳性・規範意識の芽生え ・思考力の芽生え ・言葉による伝え合い ☆幼・保で経験した遊びの発 展 ☆安全面を考慮した遊び 	

幼児教育長期研修派遣教員からの報告③～スタートカリキュラムの実践～
「ともだち大好き！ 学校大好き！」の気持ちを育てるために
宇部市立上宇部小学校

○取組の成果

例年、実施してきているスタートカリキュラムを基本とし、幼稚園で研修したことを踏まえた上で、必要な部分を加味しながら行ったものについて紹介する。

新1年生にとって「段差」と考えられる小学校の状況は、

- ①教室で座席に座ることがほとんどになる。
- ②学習内容が決められている。
- ③時間が決められている。
- ④集団行動が基本となる。

これらの「段差」を小さくし、円滑にするための「スタートカリキュラム」を構想した。特に気を付けたのは次のことである。

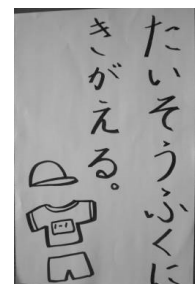
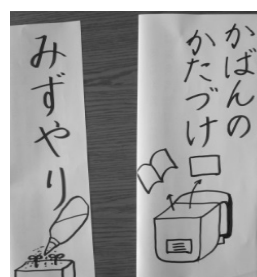
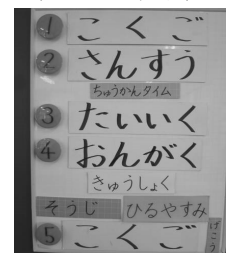
園で慣れ親しんだ活動・友達と触れ合える活動を取り入れる

多くの園から入学してきた子供たちであるので、新しい友達と一緒にできる活動を多く取り入れることで学校生活に少しずつ慣れていけるようにした。基本的に隣同士のペアでの活動を行うことで、分からないことを尋ねたり、相談したりし、安心感をもたせた。また、園で馴染みのあった活動（手遊び、絵本の読み聞かせ）や、仲間づくりのできる活動を多く取り入れることで、児童の不安感を取り除き、安心して学校生活を送ることができたと思われる。



視覚支援を多く取り入れる

登校後の毎日の生活の流れを絵と文字で表したり、時計の針の位置で行動を指示したりすることで、視覚的に捉えられるようにした。本校では、5月末に運動会があるため、入学してまもなく、応援練習などで、子供たちは教室以外の場所へ移動する。登校後、すぐに身支度をし、自分の教室を離れて活動をするということは、1年生にとって不安感が増すのではないかと考え、目で見て分かる支援を取り入れるように心がけた。そうすることで、自分の力でできることを増やし、できたことをしっかり認め、褒めることで子供たちの不安は自信に変わっていったようである。生活面だけでなく、学習活動においても視覚的な支援を取り入れるように心がけた。



朝の会にふれあう時間を設ける

幼稚園や保育所では、園児が教室にそろったら、挨拶や手遊び歌など、お互いに顔を合わせ、体を動かし、自己表現できる活動を30分程度行っていた。このことは、園児たちが同じ教室の友達の存在を認め合い、自分自身の存在感も感じることに繋がっていると思われる。この時間こそ、入学して間もない児童に特に必要な、大切な時間であると思われた。したがって、児童が感じるであろう「段差」の解消の一つとして、朝の会の時間を十分にとることにした。日直の挨拶の後、健康観察を行う。「先生からのお話」の後、手遊び歌に合わせて隣の席やグループの友達と手遊びを行った後、クラス全体でゲーム性のある活動を行うことで、子供たちは次第に学級への所属感を高めていったようである。この時間は、少しずつ文字の学習等、学習活動につながっていくのであるが、子供たちはスムーズに手遊びから朝の学習へと移行していくことができた。

他学年児童の支援を取り入れる

朝の支度、給食、掃除など上級生が積極的に手伝ってくれることで、1年生は学校生活において、安心感をもつことができたようである。「スキルタイム」には6年生が当番で1年生の教室に来て読み聞かせを行ったり、折り紙をしたりしてふれあい、学校生活への不安を取り除く工夫をしている。

本校では、5月の2週目からは運動会に向けて、「スキルタイム」に応援練習をすることになる。学校全体で活動することも多くなり、早い時期から朝の教室移動が1年生にも必要となってくるが、上級生とふれあう時間を楽しみに、子供たちは、喜んで教室から出かけることができるようになった。

15分ごとの活動を計画

授業においては、始めの2週間は特に生活科を中心に、音楽や、国語などの合科的な授業を計画した。1時間を15分ずつ、三つの活動に分け、隣の席の友達と一緒に活動することを中心に計画するよう心がけた。着席して行う活動は、児童にとって、楽しみではあるが、長い時間は難しい。そのため、活動の間に体を動かして行うことを取り入れるなどの工夫をした。

○課題と展望

昨年に比べ、朝、登校を渋ったり、教室で寂しいと泣いたりする児童が、人数においても、期間においても減っていることは、児童の不安の解消につながっていることの表れではないかと考える。

幼保を意識したスタートカリキュラムであったが、児童の中には、学校で机について学習することにあこがれをもっている子供もいる。教科書を使うことを楽しみにしている児童や、席についてノートに文字や計算式を書くことを心待ちにしていることが分かる言動もあり、その気持ちを大切にしていきたいものである。敢えて段差を設けることが、児童の喜びにつながることも考えられる。小学校入学を楽しみにしていた児童の希望を失わせることのないよう、生活科を交えた学習体系を取りつつ、学級での所属感を高めながら、徐々に小学校生活に慣れていけるような指導をしていきたいと考える。

上宇部小スタートカリキュラム

第1期のねらい 1年生になった喜びを素直に感じながら、新しい環境や人間関係に慣れることができる。

第1週 [1 はじめまして きょうしつ][2 はじめまして みなさん]

○身の回りのことや学校生活のことが分かり、自分の居場所を見つけて安心して過ごすことができる。

○新しい先生や友達を知り、入学の喜びを感じながら過ごすことができる。

- 一人一人が安心感を持ち新しい人間関係を築いて行くことをねらいとした学習
- 合科的・関連的な指導による生活科を中心とした学習
- 教科等を中心とした学習

	10(月)	11(火)	12(水)	13(木)	14(金)	
行事		入学式		給食開始	参観日	
スキル			読み聞かせ(6年)	読み聞かせ(6年)	読み聞かせ(6年)	
1		行	生 朝の支度・道具の出し入れ 廊下・階段の歩き方 トイレや水道の使い方	生 楽しいこといっぱい 1年生になったよ	国 教科書の使い方・発表・返事・お話づくり	
2		行	国 先生や友達の 名前を覚えよう 音 「てとてであいさつ」を歌う・握手	国 楽しい名前カードを作ろう 図 名前カードに絵を描こう	国 あさ みんななかよし1ねんせい	
3		行	生 靴箱・かさ立ての使い方 帰りの準備の仕方 コース別下校の並び方 安全な下校の仕方	音 歌やゲームで遊ぼう① 歌でさんぽ 生 帰りの準備の仕方	音 全校音楽 歌で仲良くなろう	
4		行		学 おいしい給食いただきます	学 おいしい給食いただきます	
5		行			体 着替えの仕方・たたみ方 並び方	
下校		15:00	11:40	13:40	15:10	
週時数	国	2.5	音	2	道	0.5
	算	0	図	0.5	学	2
	生	3.5	体	1	行	5
計17						

上宇部小スタートカリキュラム

第2週 [2 はじめまして みなさん][3 はじめまして 学校]

○新しい先生や友達を知り、入学の喜びを感じながら過ごすことができる。

○学校の施設や学校生活を支えてくれている人たちに感心を持ち、楽しく学習することができる。

- 一人一人が安心感を持ち新しい人間関係を築いて行くことをねらいとした学習
- 合科的・関連的な指導による生活科を中心とした学習
- 教科等を中心とした学習

	17(月)	18(火)	19(水)	20(木)	21(金)
行事	成長測定 防災ファイル贈呈式		家庭訪問① 避難訓練・心電図(1年)	家庭訪問②	市教研
スキル	読み聞かせ(6年)	読み聞かせ(6年)	読み聞かせ(6年)	読み聞かせ(6年)	読み聞かせ(6年)
1	生 学校探検① 校庭 固定遊具の使い方 体	算 くらべよう	国 学校探検③ 読み聞かせ 図書室の使い方 本の借り方	行 検診の受け方	国 あかるいあいさつ あいさつロールプレイ 道
2	行 防災ファイル贈呈式	体 学校探検② (体育館) 笛の合図 体ほぐし運動	図 すきなもののいっぱい	国 あかるいあいさつ ひらがな	体 ならびかた 固定施設を使った遊び ①
3	音 歌やゲームで遊ぼう④ 歌で仲良しになろう うたでさんぽ	国 なかよし ひらがな	図 すきなもののいっぱい すきなものをしようかい しよう	算 10までの数②	生 授業の約束 道 勉強が始まりますよ
4	生 授業の約束 なかまをつくろう 算	学 お掃除に挑戦	算 10までの数①	音 歌やゲームで遊ぼう⑤ ぞうさんのさんぽ てとてであいさつ	算 10までの数③
5	国 なかよし ひらがな	国 おはなしきこう			
下校	15:10	15:10	13:40	13:40	13:40
週 時 数	国	音	道	計22	
	算	図	学		
	生	体	行		

幼児教育長期研修派遣教員からの報告④～スタートカリキュラムの実践～
入学後の1年生の姿から見えてきたもの ～1週目から5週目を姿を通して～
下関市立川棚小学校

○取組の成果と課題

1 第4週までの週予定の振り返り

(1) 第1週目(4月11日～4月14日)

- 29年度1年生の殆ど(67人中52人)が川棚こども園卒園児である。また、私が昨年度、幼児教育長期研修派遣教員として川棚こども園に勤務していたということもあり、児童の表情を見ていると、川棚こども園の卒園児にとっては、比較的緊張感の少ない小学校生活のスタートであったようにも思う。一方で、クラスの中に数名、同じ園の友達がない状態で、緊張感のあるスタートを迎えた児童もいる。学級活動や体育の授業、朝の会や帰りの会で、人間関係作りができるようなゲームや活動を取り入れる必要があった。
- 入学式翌日から早速、朝の支度が始まる。児童の人数も1クラス30人以上であれば、担任一人ではなかなか指導が行き届かない。専科等の立場の先生に朝の教室に入っていたことが大変ありがたかった。先生方の個人的な思いや配慮に頼るだけでなく、計画的な形で少し余裕のある先生に入っていただけでよいと感じた。6年生が自主的に手伝いに来てくれることもあり、ありがたかった。
- 初日の下校は、同じ方向に帰る児童が並んだ状態で全員間違いなく揃っているかを確認しなければならず、しかも雨が降っていたためにカッパを着用したり、傘を持ったりする必要もあり、予想以上に手間取ってしまった。まだ担任や児童相互に顔と名前が一致していない状態(しかもカッパ着用で名札が見えない。)なので、確認に時間がかかり、予定下校時刻より20～30分も遅れてしまった。初日の我が子の下校を心配して迎えに出てくださった保護者の方にも迷惑をかけてしまった。初日の時程の中に、下校時の並び方を確認する学習を入れたり、下校時刻までにゆとりをもたせたりする必要がある。
- 入学3日目の1～2校時に身体測定、5校時に内科検診があり、児童は朝から“じっとして静かに待つ”という時間を強いられることとなった。検診への不安感もある。しかも、前日に教えたチャイムや時程とは異なる活動である。児童は待っている間もチャイムが気になるようで、「先生、これは何のチャイム?」と何度も尋ねてきた。5校時の内科検診では、疲れが出たようで、少し配慮の必要な男子児童が嫌がって検診を受けなかった。可能であれば、1年生の検診は、もう少し日を遅らせて実施する方がよいのではないかと感じた。
- 入学4日目の4月13日は、「下関市のいのちの日」とされており、市内の学校では「命」について考える道徳等の授業を実施する。川棚小学校では、動物愛護管理センターの先生をお招きし、全校児童が体育館で話を聞く活動となっていた。しかし、入学からこの日まで、児童は一度も外で遊ぶ機会がなく過ごしていた。さすがに不安やストレスを感じている様子だったので、同学年の担任と相談して、急きょ2校時の算数の授業を変更して外遊びを設定した。児童は広い運動場で、初めてのびのびと遊び、満足気な表情を浮かべていた。第1週目に外遊びの時間を設定し、「小学校でも思い切り外遊びができる。」という安心感を与える必要がある。その後、体育館では、落ち着いて話を聞くことができた。
- 入学5日目の金曜日は初めての5校時までの授業で、しかも参観日であった。参観授業

は国語で、自分の名前と好きなものの紹介だったので、発表の練習も必要だった。自分の思うような絵が描けなかった男子児童が、自己紹介をすることができなかった。また、この日が初めて月曜セット（体操服・給食エプロン・上靴等）を持ち帰る日でもあったので、できれば第1週目5校時の参観日は避け、帰りの支度の際は、持ち帰る物を確認しながらゆとりをもって帰りの支度ができるような時間としたい。

- 第1週目は、本当に息つく暇もないスケジュールになってしまった。希望をもって入学した1年生に、ゆとりある楽しいスタートをむかえてもらうことができず悔いが残る結果となった。一方で、児童の様子を見て、4日目に算数の授業を外遊びに変更させたことは、効果的だったように思う。後日の家庭訪問で、保護者から「あの遊びの時間が楽しかったようです。」「学校でも遊べて少し安心したようでした。」という声が挙がった。

(2) 第2週目（4月17日～21日）

- 月曜日…登校班集会、火曜日…眼科検診、木曜日…歯科検診、金曜日…家庭訪問スタートという予定で、第2週目も目まぐるしい日程となった。1年生にとって小学校は、「様々な検診を受ける所」という印象すら生まれてしまったような気がする。校医との調整が必要であろうが、いくつかの検診を第3週以降に回すということも検討するとよいと感じた。
- 月曜日の登校班集会は、登校班の班長さんや上学年の先生方の配慮もあり、1年生は教室まで迎えに来てもらった。1年生の表情を見ていて、同じ登校班のメンバーと会えたことや、別の教室に行けたことが安心感や学校への好奇心の高まりや楽しさにもつながったように感じた。
- 下校は、4方向に分かれ1年生だけで集団下校をするので、管理職や専科等の先生方にも手伝っていただきながら、下校指導ができた。
- 一日の時程の中に、体育での体ほぐしの運動や図工の粘土遊び、生活科の学校探検などの活動的な学習を取り入れるようにした。国語のひらがなや、算数の数字の学習も楽しいようで、張り切って取り組んでいた。個別の声かけやチェックができるように、もし可能であれば、支援役の先生方に入っていたらと、児童にとっても嬉しい学習のスタートになるのではないかと感じた。

(3) 第3週目（4月24日～28日）

- 第3週目は家庭訪問のため、全校で下校が早まる。担任は、家庭訪問があるので、時間に余裕のある先生方に声をかけて、1年生が帰宅する4方向に必ず教職員がついて行くように配慮した。保護者の方の安心感も得られたかと思う。
- 金曜日には、「1年生をむかえる会」が行われた。この日までにスマイル班（縦割り班）のメンバーが決められており、班長に世話してもらったり、メンバー内で自己紹介やゲームをしたりというプログラムになっていた。1年生の児童は、年上の友達に優しくしてもらい満足した様子であった。この集会の日を境に1年生の様子がリラックスしていったようにも感じる。「小学校には、年上の優しいお兄さん、お姉さんがいる。」ということが分かり、大きな安心感を得られるようである。縦割り班活動は、小学校生活をスタートさせる上で、非常に有効であると感じた。



1年生を迎える会の様子

(4) 第4・5週目(5月1日～12日)

- 5月に入ってから、5校時までの時程をスタートさせた。運動会が5月21日(日)にひかえていたため、すぐに運動会準備や練習がスタートした。ほぼ1日2校時分の体育があるため、体力が消耗することを想定して、5校時は、生活や音楽、図書等の活動的な学習の予定を組むこととした。それでも5校時の授業には熟睡してしまう児童もおり、通信等で保護者の方に睡眠時間の確保等のお願いをした。
- 4月終わり頃には、朝の支度が素早くできるようになってきたので、5月に入ってから、朝の支度が終わった人から運動場で遊んでもよいこととした。児童によっては、7:50頃から8:05のチャイムまでの15分間程度外で遊ぶことができる。すると、他の児童も朝の支度にかかる時間がどんどん短くなり、気が付けば朝の教室には誰も残っていない、という日すらあった。残り時間が2～3分しかなくても遊びに行く様子を見てみると、いかに外で遊ぶことが好きなのか、そして大切なかが分かる。5月に入ってから、朝学の時間に応援団の人達が来て応援合戦の練習を始めた。この頃までに朝の支度を素早く終える習慣を身に付けておく必要がある。

2 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」とのつながり

①【健康な心と体】

- ・4月13日(木)[入学4日目]の外遊び・第2週目以降の体育の授業での体ほぐしの運動
- ・給食前の手洗い指導や給食後の歯みがき指導

②【自立心】

- ・朝や帰りの支度、学習の準備・登下校・学習や生活で頑張ったことへの価値付け

③【共同性】

- ・ペアやグループでの学習や活動、遊び・生活科の学習での学校探検や学校地図作り・掃除、係活動、当番、給食準備

④【道徳性・規範意識の芽生え】

- ・小学校の約束やルール・道徳の授業・友達とのトラブルについての指導・話し合い・学級のめあてやルール作り

⑤【社会生活との関わり】

- ・挨拶、地域の方との関わり、掃除、係活動、当番、給食準備・学校の施設や道具の使い方

⑥【思考力の芽生え】

- ・算数科、生活科、図画工作科等の学習

⑦【自然との関わり・生命尊重】

- ・「下関市のいのちの日」の学習・生活科のあさがおの種まき、世話・生活科の学校探検、春の自然見付け

⑧【数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚】

- ・算数科の学習・生活科の学習・登下校の際の道路標識の意味(下校指導の中で)
- ・小学校生活全体を通して標識や文字との関わり、活用

⑨【言葉による伝え合い】

- ・絵本の読み聞かせ・教師の言葉がけ・学習や生活の中での友達との相互の関わりの中での対話

⑩【豊かな感性と表現】

- ・図画工作科での描画、工作や粘土遊び・音楽科での歌やリズムに合わせた動き・その他の学習

3 1学期末の生活科の実践より

9月21日に川棚こども園の年長児が授業参観に来ることとなった。そこで、「みんなの1年のスタートを振り返って、年長さんに小学校を紹介しよう。」ということになった。生活科の学習として、6月下旬からスタートさせた。

①小学校の1日の生活紹介グループ ②小学校ってこんな部屋があるよ紹介グループ ③小学になって大変だったこと紹介グループ ④小学生になって楽しかったこと紹介グループの四つに分かれて紹介することとなった。

③の大変だったことについての話し合いでは、第1位が登下校で、具体的に大変なこととして、大雨大風の日、暑い時、月曜セット等の荷物が重い時、班の人に歩く速さを合わせる時などが挙げられた。第2位がプールのシャワー、第3位が運動会練習だった。運動会練習で具体的に大変だったこととしては、並び方をいろいろ覚えることや、開閉会式の練習で動かずに立っておかないといけないことなどが挙げられた。その他、校舎が広すぎることや階段が多いなどの意見もあり、多くの児童が賛同している様子で、授業は盛り上がりを見せた。

④の楽しかったこと紹介グループでは、第1位が休み時間の遊び、第2位が6年生とのプールの授業、第3位がスマイル班（縦割り班）での活動、第4位が社会見学という結果だった。上位に二つも上学年との関わりが入っているということは予想外であった。異学年の交流を充実させることで、1年生のスタートが楽しく充実したものになるということが分かる。

この生活科の実践から、入学から1学期末までの児童の戸惑いや喜びなど、予想外に実態を捉えることができた。



年長児に学校生活を紹介する1年生

○課題と展望

入学後1か月間の学習や生活の様子から大切だと感じたことは、まず、ゆとりをもった時程の大切さである。長期研修を体験させていただいた立場で感じた学校と園の最大の違いは、「時間の流れ」である。時間的制約のある学校生活だが、朝の支度や帰りの支度等、学校の持ち物の名称の一つ一つが分からない児童には、ゆとりをもった時間の中で丁寧に伝えていく必要がある。

次に、外でしっかり体を動かすことの大切さである。園生活では、毎日の生活の中に必ず体を動かす時間があった。特に入学直後の1年生にとっては、1日の中で体を動かせる時間を設定したい。体育の学習や休み時間に限定する必要はないが、音楽や生活科の中でも可能な範囲で取り入れる必要がある。また児童にとっての登下校の体力的な負担を考えると、しっかり歩く体験をしておく必要があるし、保護者の方の理解や協力も得ておきたい。

最後に、児童の姿や表情から、異学年との交流活動の重要性に気付かされた。これは、私も予想していなかった点である。「小学校には親切なお兄さんお姉さんがたくさんいる。」というのは、1年生の児童にとって学校生活をスタートさせる上での大きな安心感や希望につながるのだと気付かされた。縦割り班活動などを仕組むことで、活発な交流を図ることが効果的である。



上靴洗いに挑戦する1年生

◆第1週目 4月11日(火)～14日(金)

がくしゅうのよてい				
日	4月11日(か)	12日(すい)	13日(もく)	14日(きん)
ぎょうじ	きゅうしょくのはじまり	身体測定 内科検診	いのちの日 しゅくだいを はじめます。	さんかんび 参観日
1	せいかつ くつばことといれ のつかいかた	ぎょうじ しんたい そくてい 	こくご えんぴつのもちか た	こくご じこしょうかいの しかた
	せいかつ どうぐの しまいかた		さんすう かずとすうじ	がっかつ そうじのしかた
3	がっかつ いっしょにげこうす る おともだち	こくご あいさつとへんじ すわりかた・たちか た	どうとく いのちのじゅぎょ う	ずこう じぶんのかお
	がっかつ きゅうしょくと かえりのじゅんぴ	がっかつ きゅうしょくと かえりのじゅんぴ	がっかつ きゅうしょくと かえりのじゅんぴ	せいかつ じぶんのなまえ
5		ないかけんしん ○聴力・視力検査 があります。眼鏡 がある人は忘れ ずに！耳掃除も お願いします。 ○身長測定があ るので、女の子は 髪を結ぶ位置に ご配慮ください。		こくご さんかんじゅぎょ う
もちもの	<input type="checkbox"/> 月曜セット (下欄参照) <input type="checkbox"/> 引き出し 道具袋(～14日) (下欄参照)		<input type="checkbox"/> 雑巾2まい (1枚だけ記名) 9つあります。後 ページ「本日の配 布物」の欄でご確 認ください。	学級懇談会15:10～ 育友会専門部会16:00 ～ <input type="checkbox"/> 宿題プリント <input type="checkbox"/> 提出書類
	きょうかしよ・のおと・ふでばこ・したじき・じゅうちよう・れんらくちよう・はんかち・ていっしゅ・ しょくせいかつをかんがえよう ※次週17～21日の下校は1時30分の予定です。			
げこう	1じ30ぷん	2じ30ぷん	1じ30ぷん	(4じ)

週の初めに用意するものを「月曜セット」と呼びます。
【月曜セット】 給食袋(エプロン・給食帽子・マスク)
 ・歯みがきセット(歯ブラシ・コップ・歯みがき粉)
 ・体操服・赤白帽子・上靴・汗ふきタオルです。

【道具袋の中身】 はさみ・のり
 ・セロハンテープ・クーピー
 ・ピグマックス・カスターネット
 ・かきかたペン(水性黒ペン)
 ・クレパス

◆第2週目 4月17日(月)～21日(金)

4月	17日(月)	18日(火)	19日(水)	20日(木)	21日(金)
行事	とうこうはん しゅうかい	がんかけんしん		しかけんしん ※朝食後しっかり歯 磨きをしてください	かていほうもん
1	こくご ひらがなの おべんきょう	さんすう かずと すうじ	こくご ひらがなの おべんきょう	しかけんしん はのけんさ	こくご あいうえお のうた
	さんすう かずと すうじ	たいいく からだ ほぐし	さんすう かずと すうじ	こくご ひらがなの おべんきょう	さんすう かずと すうじ
3	しゅうかい とうこうはん しゅうかい	こくご としょかんの りょうについて	どうとく たのしい がっこう	たいいく ゆうぐ あそび	たいいく からだ ほぐし
	おんがく うたでなかよ しになろう	ずこう くれぱすで かこう	せいかつ がっこう だいすき	ずこう ねんど あそび	せいかつ がっこう だいすき
5		がんかけんしん めのけんさ		ねんど ねんどばん (↑無い人は お知らせく ださい。)	
	下校	13:30	14:00	13:30	13:20
持 っ て く る 物	ふでばこの中には、けずったえんぴつ5本、あかえんぴつ なまえペン、けしゴム、じょうぎ(10～15cmくらい)				
	<input type="checkbox"/> 月曜セット ・うわぐつ ・たいそうふく あかしるぼうし ・きゅうしよくぶくろ・ マスク ・はみがきセット	ねんど、ねんどばん、えのぐせつと、けんばんは一もにか たんけんばっく、すこっぷ、どうぐぶくろのなかのもの などで、まだもってきていないもの ※その他、校服の上着をかけるためのハンガーがあると便 利です。(記名をお願いします。)			

☆まいにちもってくるもの☆

- ・れんらくちょう ・れんらくぶくろ ・ふでばこ ・したじき ・きょうかしよ
・ノート(のおと) ・はんかち・ティッシュ

※ 水筒は、ご家庭の判断で持たせてください。

☆18日火曜日は、眼科検診のため下校時刻が遅くなっております。ご注意ください。

21日金曜日から27日木曜日まで、家庭訪問のため全校13:20下校です。

◆第3週目 4月24日(月)～28日(金)

	24日(月)	25日(火)	26日(水)	27日(木)	28日(金)
行事	かていほうもん	かていほうもん	かていほうもん にようけんさ	かていほうもん	1ねんせいを むかえるかい
1	こくご あいうえお のうた	さんすう かずと すうじ	こくご ひらがな	さんすう かずと すうじ	こくご ことばを つくろう
	さんすう かずと すうじ	たいいく からだ ほぐし	さんすう かずと すうじ	こくご あいうえおの うた	さんすう かずと すうじ
3	せいかつ がっこうだい すき	こくご ひらがな	せいかつ がっこう だいすき	たいいく からだ ほぐし	しゅうかい 1ねんせいを むかえるかい 「ようこそ1ね んせい かわた なしょうがっこ へしゅうかい」
	こくご ひらがな	おんがく うたでなかよ しになろう	ずこう ちよつきんばで かざろう	どうとく いつでも どこでも	
5	5月以降は、通常どおり5校時まで授業を行います。 下校時刻は、下欄をご参照ください。				
下校	13:20	13:20	13:20	13:20	13:30
持 っ て く る 物	ふでばこの中には、けずったえんぴつ5本、あかえんぴつ なまえペン、けしゴム、じょうぎ(10～15cmくらい)				
	<input type="checkbox"/> 月曜セット ・うわぐつ ・たいそうふく ぼうし ・きゅうしよくぶくろ・ マスク ・はみがきセット	ねんど、ねんどばん、えのぐせつと、けんばんは一もにか たんけんぱく、すこっぷ、どうぐぶくろのなかのもの などで、まだもってきていないもの ※その他、校服の上着をかけるためのハンガーがあると便 利です。(記名をお願いします。)			

☆まいにちもってくるもの☆

- ・れんらくちょう ・れんらくぶくろ ・ふでばこ ・したじき ・きょうかしよ
・ノート(のおと) ・じゅうちょう

※下校へのお迎え、ありがとうございます。5月1日から通常通りの下校時刻となります。

次週も、和田商店、変電所、社会福祉協議会、公民館前の4カ所までは見送りをする予定です。

- 月・火…15:10 2年生と同じです。**
水 …14:30 1～6年生、全校同じです。
木 …15:10 1年生のみの下校です。
金 …15:10 2、3年生と同じです。

1年生のみの集団下校は継続します。
異学年の兄妹や、近所の友だちと下校する際は、連絡帳でお知らせください。

◆第4・5週目 5月1日(月)～12日(金)

	1日(月)	2日(火)	8日(月)	9日(火)	10日(水)	11日(木)	12日(金)
行事	ぜんこう ちょうかい	さんかんび 2・4校時					
1	こくご ことばを つくろう	どうとく きもちの よいまい にちを	こくご ひらがな えをみて はなそう	さんすう なんばんめ	こくご あさの おひさま	さんすう なんばんめ	さんすう いくつと いくつ
2	さんすう かずと すうじ	こくご かきと かぎ	たいいく ていがく ねんれん しゅう	たいいく ていがく ねんれん しゅう	たいいく ていがく ねんれん しゅう	たいいく ていがく ねんれん しゅう	たいいく ていがく ねんれん しゅう
3	こくご ひらがな ことばを つくろう	せいかつ こうつう あんぜん について	さんすう かずと すうじ	たいいく ぜんこう ダンス	たいいく かいへい かしきれ んしゅう	たいいく おうえんれ んしゅう	たいいく かいへいか いしきれん しゅう
4	おんがく ひらがな	さんすう かずと すうじ	おんがく うたで なかよし になろう	こくご ひらがな えをみて はなそう	さんすう なんばんめ	おんがく はくを かんじて あそぼう	こくご はなのみち
5	せいかつ がっこう だいすき	ずこう ねんど あそび	しょしゃ なぞって みよう	どうとく おてつだい	せいかつ がっこう だいすき	としよ ほんを よもう	せいかつ たねまきの じゅんぴ
下校	15:10 1・2年生	15:10 1・2年生	15:10 1・2年生	15:10 1・2年生	14:30 1～6年生	15:10 1年生のみ	15:10 1～3年生
持 っ て く る 物	□げつよう セット □ひらが なノート ※しろい くつした		□げつよう セット				

※運動会練習期間中は、体操服が汚れますので、学校でも持ち帰るよう声かけをします。ご家庭で判断されて、お子様に声かけをお願いします。汗ふきタオルも同様です。

5月の主な行事予定

- 16日(火) 心電図検査 [1年生]
- 17日(水) 耳鼻科検診
- 20日(土) 運動会前日準備 (登校します)
- 21日(日) ふれあい運動会 [雨天順延]
- 22日(月) 振替週休日
- 23日(火) 振替週休日
- 24日(水) 給食なし [要お弁当]
- 30日(火) 低学年スポーツテスト

山口県教育庁義務教育課

〒753-8501 山口市滝町1番1号

電話 083-933-4600

平成30年3月

